

# 事業報告書

平成23年度

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

学校法人 慈恵大学

# 目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

|                      |    |
|----------------------|----|
| I. 学校法人慈恵大学          |    |
| 1. 慈恵大学行動憲章          | 2  |
| 2. 慈恵大学行動規範          | 2  |
| 建学の精神・病院の理念・病院の基本方針  | 3  |
| 3. 慈恵大学の沿革           | 4  |
| 4. 設置する学校・学部・学科等     | 4  |
| 5. 平成23年度事業報告        | 5  |
| 1) 平成23年度の事業概要       | 5  |
| 2) 主な建設工事            | 9  |
| 6. 平成23年度決算          | 11 |
| 7. 関連当事者等との取引等の状況    | 17 |
| 8. 学校法人慈恵大学の体制       | 19 |
| 1) 学校法人慈恵大学          | 19 |
| 2) 東京慈恵会医科大学         | 19 |
| 3) 看護専門学校            | 19 |
| 9. 学校法人慈恵大学組織図       | 20 |
| 10. 理事会              | 21 |
| 11. 評議員会             | 25 |
| 12. 監査室              | 25 |
| II. 東京慈恵会医科大学        |    |
| 1. 教授、その他の人事         | 28 |
| 1) 平成24年3月31日退任教授    | 28 |
| 2) 新任教授              | 28 |
| 3) 新任客員教授            | 29 |
| 4) 特任教授              | 29 |
| 5) 叙位・叙勲             | 29 |
| 6) 訃報                | 29 |
| 2. 教職員数              | 30 |
| 1) 教員数（医学科・看護学科）     | 30 |
| 2) 初期臨床研修医数          | 30 |
| 3) 職員数（看護師を含む）       | 30 |
| 4) 看護師数              | 30 |
| 3. 教 育               | 31 |
| 1) 医学部医学科学生数など       | 31 |
| 2) 医学部看護学科学学生数など     | 31 |
| 3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程） | 32 |
| 4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程） | 32 |
| 5) 大学および大学院など        | 32 |
| (1) 医 学 科            | 32 |
| (2) 看護学科             | 35 |
| (3) 大 学 院            | 37 |

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 6) 慈恵看護専門学校                      | 38 |
| 看護専門学校学生数                        | 38 |
| (1) 慈恵看護専門学校                     | 39 |
| (2) 慈恵第三看護専門学校                   | 40 |
| (3) 慈恵柏看護専門学校                    | 40 |
| 7) 卒後臨床研修                        | 42 |
| 8) 生涯学習センター                      | 43 |
| 4. 研究                            | 45 |
| 1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会 | 45 |
| 2) 総合医科学研究センター                   | 46 |
| 5. 診療                            | 48 |
| 1) 病院概況                          | 48 |
| (1) 本院                           | 48 |
| (2) 葛飾医療センター                     | 52 |
| (3) 第三病院                         | 56 |
| (4) 柏病院                          | 59 |
| (5) 総合健診・予防医学センター                | 62 |
| (6) 病床数および外来患者数                  | 63 |
| 2) 派遣・関連病院関係                     | 63 |
| (1) 大学協力病院                       | 63 |
| (2) 教室等関連病院                      | 64 |
| (3) 特殊派遣機関                       | 66 |
| (4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）               | 66 |
| 6. 学術情報センター                      | 67 |
| 7. 教育センター                        | 69 |
| 8. その他                           | 72 |
| 1) 成医会                           | 72 |
| 2) 各種行事                          | 73 |
| 3) 印刷物等の発行                       | 73 |

[付]

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| 1. 平成23年度 事業計画に対する実施結果一覧 | 75  |
| 2. 中期目標・中期計画・平成24年度事業計画  | 100 |

# I . 学校法人慈惠大学

# 1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

# 2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口にて提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

---

## 【建学の精神】

「病気を診ずして病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

## 【病院の理念】

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

## 【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

### 3. 学校法人慈恵大学の沿革

| 年月       | 学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等                                 |
|----------|--|
| 明治14年 5月 | 成医会講習所を開設した  |
| 明治23年 1月 | 成医会講習所を成医学校に改める  |
| 明治24年 9月 | 成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる                                   |
| 明治36年 6月 | 専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる                              |
| 明治41年 5月 | 東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した                           |
| 大正10年10月 | 財団法人東京慈恵会医科大学を設置した                                     |
| 大正10年10月 | 大学予科を新設した  |
| 大正11年 2月 | 東京病院（開設：明治24年 2月）を附属病院とした                              |
| 大正14年 3月 | 東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした                                   |
| 昭和19年 4月 | 東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した                                  |
| 昭和19年 4月 | 中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：附属青戸病院）を開設した |
| 昭和25年11月 | 東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した                         |
| 昭和26年 3月 | 大学予科を閉校した  |
| 昭和26年 3月 | 財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する          |
| 昭和27年 3月 | 附属医学専門部を閉校した   |
| 昭和27年 4月 | 学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した                            |
| 昭和31年 4月 | 大学院医学研究科を開設した  |
| 昭和35年 4月 | 医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した                  |
| 昭和39年 4月 | 医学科の入学定員を100名とした                                       |
| 昭和46年 4月 | 慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した                          |
| 昭和50年 4月 | 医学科の入学定員を120名とした                                       |
| 昭和50年 4月 | 慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した                          |
| 昭和62年 4月 | 東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した                                    |
| 昭和62年 4月 | 慈恵柏看護専門学校を開設した   |
| 平成 4年 4月 | 医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した               |
| 平成 4年 4月 | 医学科の入学定員を100名とした                                       |
| 平成14年 4月 | 慈恵医大晴海トリトニッククリニックを開設した                                 |
| 平成19年 4月 | 看護学科の入学定員を40名とした                                       |
| 平成21年 4月 | 医学科の入学定員を105名とした                                       |
| 平成21年 4月 | 大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した                         |
| 平成22年 3月 | 慈恵青戸看護専門学校を閉校した  |
| 平成23年 4月 | 医学科の入学定員を110名とした                                       |
| 平成24年 1月 | 附属青戸病院を葛飾医療センターと改称した                                   |

### 4. 設置する学校・学部・学科等

| 設置する学校     | 開校年月     | 学部・学科等            | 摘要 |
|------------|----------|-------------------|----|
| 東京慈恵会医科大学  | 昭和31年 4月 | 大学院医学研究科博士課程      |    |
|            | 平成21年 4月 | 大学院医学研究科看護学専攻修士課程 |    |
|            | 昭和27年 4月 | 医学部医学科            |    |
|            | 平成 4年 4月 | 医学部看護学科           |    |
| 慈恵第三看護専門学校 | 昭和46年 4月 | 3年課程              |    |
| 慈恵柏看護専門学校  | 昭和62年 4月 | 3年課程              |    |



## 5. 平成23年度 事業報告

理事長 栗原 敏

### 1) 平成23年度の事業概要

#### 〔基本方針〕

平成23年度は下記の項目を基本方針と重点施策として取り組んだ。

#### 1. 教育に関する重点施策

##### 質の高い医療人の育成

##### ・ 卒前教育の改善と充実を図る。

今年度より医学科・看護学科合同で新入生スタートアップ宿泊研修を実施した。

新カリキュラムの検証はカリキュラム自己点検・評価委員会を中心に実施している。なお、「卒業生に対するカリキュラム評価アンケート」を実施した。

医学科では基礎医学研究者の育成、グローバルヘルス実習に対応したカリキュラムについて検討し取組みを開始しており、平成24年度から新ユニット「Early research exposure」を開講することとした。

また、平成23年度からはプライマリケア・選択学外臨床実習を2年生から選択可能とし、東日本大震災に対応するため、1年生もボランティア参加についてのみ選択を認めることとした。看護学科では平成24年度改正カリキュラムにおいて、4年次に教養科目である日本国憲法を開講することとした。

##### ・ 卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。

レジデント教育プログラムの改善を図り各科プログラムの精度が向上した。その結果、研修医・レジデントの応募者は年々増加している。他にホームページの充実や女性医師への環境改善、キャリアパスの充実によるものである。

##### ・ 看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。

厚生労働省の「看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」に沿って技術の到達度を確認し、看護学科、看護専門学校は「慈恵看護教育あり方検討会」で情報交換や検討を行い、慈恵における卒業時の技術到達目標を相互に理解した。

看護専門学校ではシミュレーション教育によって技術向上に取り組んでいる。また平成21年度のカリキュラム改正により卒業生の到達度が向上している。今後、学会発表等を通じて周知を進める予定である。

看護学科ではシミュレーション教育や改善したステップアップノートを活用し学生の自己評価を教員とともに振り返り技術向上へ取り組んだ。

##### ・ 看護学専攻修士課程を看護学科、看護部と連携し発展させる。

看護学専攻修士課程および看護学科はFDや研修会の共催を企画する等、看護学専攻修士課程と看護学科双方の融合に向けて積極的に取り組んだ。

また看護部で行っている研究に対しての論理的・理論的な裏付け支援、倫理的配慮支援を行い、学会発表までのサポートを行った。

なお看護部では専攻生が研究に取り組みやすいよう支援した。また研究成果を臨床へフィードバックできるよう進めている。

#### 2. 研究に関する重点施策

##### 医学・看護学研究の推進

##### ・ 各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。

平成23年9月に総合医科学研究センターに再生医学研究部を設置し研究体制が構築され、iPS細胞の利用や再生医学の臨床研究応用へ向けた体制を整えた。

##### ・ 研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。

平成23年度 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」を申請した研究プロジェクト「課



題名:安定同位体医学応用研究基盤拠点(SI医学応用基盤拠点)の形成(5年:総額320百万円)が選定された。22年度に選定された研究プロジェクト「課題名:DNAマイクロレイシシステムを基盤としたエピゲノム臨床研究と分子標的薬リード創出」(5年:総額260百万円)と合わせて実績が2件となった。

また平成23年度文部科学省科学研究費助成事業の採択件数及び総額は、合計141件、総額264,290千円(間接経費含む)であった。また、厚生労働科学研究費補助金および関連独立行政法人の研究開発費等について採択後大学が経理事務を行った研究課題は、合計48件、総額にして249,158千円(間接経費含む)だった。

・医療現場と連携して看護学研究を振興する。

附属病院の手術室、ICU等の教職員に対しインタビューやアンケートを実施し研究を推進した。研究成果については平成24年3月に実施された慈恵看護研究発表会において発表した。

### 3. 医療に関する重点施策

#### 医療安全の推進

・医療安全体制を検証し、国民に信頼される医療安全システムを構築する。

- ① 附属4病院の相互ラウンドや年間5回の附属4病院セーフティマネジメント会議を定期開催した。また各専門職(医療安全管理者、薬剤師、臨床工学技士、事務員)の定期的なミーティングを行い情報の共有と改善に向けての相互支援を行った。
- ② 附属4病院の全職員配布のセーフティマネジメントマニュアル(携帯版)にTeam STEPPSの内容を追加し周知を図った。各附属病院、看護専門学校への出張研修も含め、Team STEPPSエッセンシャルコースを21回開催した。外部からの参加者26名を含め、1,411名の参加があった。モデル部署が医療安全推進週間でのポスター展示、活動報告会での報告を行った。
- ③ 東京女子医科大学附属病院との相互ラウンドを行い、特に当院の術前合同カンファレンスへの高い評価を得た。当院において、都内11私大病院の各施設の医療安全の取り組みについての報告会を行った。
- ④ 東大・早稲田・慈恵共同研究推進会議において投薬ミス、患者誤認・業務の標準化に関する共同研究を行い「薬剤希釈確認ラベルの導入」「看護師管理下内服薬の投与忘れの減少」「中心静脈カテーテル挿入技術の可視化」を実施、成果をあげた。業務手順の標準化については、慈恵標準作成を目指し葛飾医療センター手術部をモデルとして検討を開始した。またそれらの共同研究について学会で報告を行った。

#### 感染対策の推進

- ① 感染制御部を附属4病院に設置した。また附属病院に次いで患者の重症度の高い柏病院に対し感染管理看護師2名体制を整えた。
- ② 附属4病院の相互ラウンドへの参画や感染対策委員会において4病院感染対策ベンチマーク報告を実施した。附属病院感染対策委員会において、各病院におけるアウトブレイク事例などの報告、共有を行った。
- ③ 感染対策ベーシックコースver.2の集合教育を17回(参加人数:1,925名)、出張教育43回(参加人数:683名)実施した。手指衛生指数は上昇し、手指衛生剤の使用量が増加した。
- ④ 私大感染対策協議会総会を10月15日に開催し、他大学のサイトビジットの調査員として6施設のサイトビジットに参加するとともにその報告書のとりまとめを行った。附属病院は3月7日にサイトビジットを受審し感染対策の実施状況についておおむね良好との評価を受けた。

#### 地域医療への貢献

・柏病院の救急を強化し、増床計画を含め地域医療への貢献に努める。

救命救急センター開設に向け、トリアージナースを配備した院内トリアージ体制を構築した。また情報端末を利用し、各病棟の空床・観察室の空き状況、各科の救急受入れ状況の情報共有

化の整備を行った。患者支援・医療連携センターを通じ転院・在宅移行等円滑な退院調整による空床確保も実現可能となった。

救命救急センターの指定については平成24年4月1日付で認可となった。センター運用病床数は44床である。また、平成24年3月28日付で増床許可（40床）が得られたため、管理棟（仮称）増築後に病床を開設する予定であり、今後は救急体制の強化とともに病棟の入院受入れ体制を推進する。

#### 職種間の協力体制

- ・チーム医療の推進のための人材育成を推進する。

多職種が最善の医療を提供するため、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチーム、栄養サポート（NST）チーム、感染対策チーム、医療安全推進室等の様々なチーム活動を実践した。

医療安全対策のほか、医師の業務軽減等にも有効であり、今後も推進していく。

## 4. 大学運営に関する重点施策

### 法令遵守の徹底

- ・教職員の法令遵守精神を向上させる。

新入職員に「新入職員研修の手引き」を、臨床研修医、レジデントには「教員・医師ハンドブック」を配布し、大学行動憲章、行動規範の周知徹底を図った。大学行動憲章、行動規範はホームページや「慈恵ニュース」、「The JIKEI」に掲載し教職員、同窓・父兄等学内外へ周知を図った。また、行動規範の一部を具体化したハラスメントに関する基本方針を定め、ホームページに掲載した。教職員には個人情報保護をはじめとする各種研修会や講演会を開催し、意識の向上、教育に努めた。

### 安定した財政基盤の構築（大学における収支構造の点検を行う。）

- ・第三病院の収支構造の改善を図る。

外科系救急診療体制の運用変更により救急患者の受入を強化した。また術式別原価管理分析の実施や手術室・中央材料室看護補助員の業務改善を実施し手術室の効率運用を進めた。

医療連携フォーラムの開催や地域医療機関との交流、各種広報誌の発行等の広報活動を行い紹介件数が増加した。

- ・機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。

関係各部署が作成した、学納金・医療収入・人件費・医療経費・システム経費・設備投資他の長期計画を集約し、平成35年度までの長期資金計画を策定した。また、消費税率上昇・人件費上昇等の負荷をかけたシミュレーションも行った。

- ・収支状況の月次把握ができるようにする。

昨年度より開始した月次決算の作業が定着し、概ね翌月25日前後に消費収支状況の把握が可能となった。

- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。

中期的な財務予測と新外来棟の建築計画をはじめとする大型投資計画の予測を勘案し、医療収入増加のための医療構造の分析と医療経費削減に取組んだ。後発薬品の導入、医療材料の4病院共同購入による経費削減を実施した。また、分析ソフト等を活用し疾病別DPC分析を行い病院全体及び診療科ごとの課題を抽出する等収入改善に取組んだ。

- ・抗がん剤を含めた後発薬品の採用を推進し医療経費の削減を図る。

購入額比率の高い注射薬の中で抗がん剤を含む10品目を後発薬品について薬事委員会、診療部会議にて検討、各機関で周知し後発薬品に切り替えた。

- ・IT関連経費の適正化と全体計画検討組織を整備する。

最適なIT投資実現に向けた方策を検討し、情報システム統括委員会、医療情報室、ICT戦略室の設置が理事会にて承認された。新年度から運営を行う。

### 広報活動の充実

- ・広報誌、ホームページを充実させ、本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社

会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に活用する。

教育・研究等の情報公開内容を増やす等ホームページの内容の充実を図り、併せて第三病院、葛飾医療センター及び看護職員募集ページの全面リニューアルを行う等ホームページの見直しを適宜行った。また、本学の自発的な働きかけにより先進的治療や研究をメディアにアピールした。学内広報誌、オールユーザー、高木会館掲示板等を通じ、学内外の関係者との情報共有を行った。

#### 新青戸病院開院の準備を遅滞無く進め、平成24年1月5日に開院する。

開院準備、移転については、患者の安全を最優先に計画を策定、全教職員の協力による無事開院を果たした。移転、開院前後は、計画的に患者数を制限したが、平成24年2月後半には、ほぼ通常患者数に回復し病院運営は安定した。

平成24年1月5日付で病院名称を「東京慈恵会医科大学葛飾医療センター」に改称して開院した。

#### 附属病院（本院）外来棟建築に関する具体的な検討を推進する。

本事業におけるコンサルティングを三菱総合研究所に委託することとし、基本構想および基本計画の策定スケジュール、プロジェクト実施体制確立に向けて、外来棟建築に関する具体的な検討を開始することとした。今後これまでの検討内容の検証ならびに課題の洗い出しを行う。

#### 地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。

震災以降夏の電力不足に対し節電対策委員会を発足し、患者エリア以外の照明の間引き、空調の温度28度設定等の啓蒙活動を実施、院内3箇所に電力使用状況グラフの掲示等を行い7月は前年同月比11%、8月は17%の電力量を削減した。

また平成24年3月に「慈恵大学エネルギー対策委員会」を発足した。今後、慈恵大学全体の省エネルギーに対する啓蒙活動を行っていく。

#### 大規模災害時の対応について整備する。

- ① 東日本大震災における建物の損壊状況、各附属病院の診療への影響、教職員、学生、家族の状況等を理事会、評議員会にて報告した。また、被災地支援（医療スタッフの派遣、支援物資（薬品・医療材料等）の提供）、義援金の募集、電力供給不足の対策（計画停電の対応、節電等）、広報誌やホームページを通じて取り組みを発信すると共に同窓会との連携などの対応を行った。それぞれの対応状況等詳細については、「福島・気仙沼災害医療チームの記録」「東日本大震災を受けて一大規模災害時の対応」（職員雑誌No.30）」を発行したので確認いただきたい。
- ② 災害対策整備について
  - 1) 東日本大震災の教訓から、初動体制が速やかにとれるよう災害対策マニュアルの活動内容や確認項目を簡素化した。
  - 2) 災害発生時の学内・院内滞留者のため、防災備品の追加装備を年次計画を立てて実施する。
  - 3) 防災行政無線の移設、院内PHSメール機能を活用した緊急連絡体制の改善、衛星電話機の購入などを進めることとした。
  - 4) 転倒・落下防止対策について、現状確認のためのアンケート調査、学内ラウンドを実施した。判明した問題点は、5Sの観点から整理・整頓し家具類の固定による転倒・落下の防止を順次実施した。薬品類、医療器械、検体等の取扱い、大型冷凍庫、インキュベーターなどの重量物については専門家に確認し対応方法を学内に周知した（4病院合同防災訓練を平成24年3月14日に開催）
  - 5) 行動基準について、自己防衛、消火、患者の安全、避難経路の確保など、災害発生時にとるべき行動をまとめ、配布や掲示等により、教職員に徹底した。今後、患者への対応基準などマニュアル整備を推進することとした。
  - 6) BCP（事業継続計画）の策定について検討を開始した。24年度の重点施策としている。



## 2) 平成23年度の主な建設工事

### 1. 法人事務局

- |                       |           |
|-----------------------|-----------|
| ① 各所地上デジタル放送受信設備工事    | 平成23年6月完了 |
| ② 大学1号館横教職員用立体駐車場整備工事 | 平成24年1月実施 |

### 2. 西新橋校

- |                                |            |
|--------------------------------|------------|
| ① 非常電源整備(非常コンセント増設)工事          | 平成23年7月完了  |
| ② 管理棟4階看護学科控室並びに看護学修士課程研究室設置工事 | 平成23年9月完了  |
| ③ 高木会館自家発電装置工事(大規模停電対策)        | 平成23年9月完了  |
| ④ 大学1号館GMP対応施設モニタリングシステム更新工事   | 平成23年12月実施 |
| ⑤ 大学1号館実験動物研究施設HEPAフィルター取替工事   | 平成24年2月完了  |
| ⑥ 大学1号館直流電源装置蓄電池更新工事           | 平成24年3月実施  |
| ⑦ 大学本館3階顕微鏡実習室AV装置更新工事         | 平成24年3月実施  |
| ⑧ 大学1号館冷温水機整備工事(2号機、3号機)       | 平成24年3月完了  |
| ⑨ 大学1号館実験動物研究施設アンギオ更新工事        | 平成24年3月完了  |

### 3. 附属病院

- |  |            |
|--|------------|
| ① 中央棟5階核医学検査室ガンマカメラ更新工事                        | 平成23年4月完了  |
| ② 中央棟2階アンギオ更新工事                                | 平成23年5月完了  |
| ③ 外来棟-E棟3階連絡通路ガラス断熱フィルム貼り工事                    | 平成23年5月実施  |
| ④ E棟防犯カメラ設置工事                                  | 平成23年7月完了  |
| ⑤ 中央棟空調機整備工事                                   | 平成23年7月完了  |
| ⑥ 中央棟スクリーン冷凍機整備工事                              | 平成23年7月完了  |
| ⑦ 外来棟各診療科外来番号施錠設置工事                            | 平成23年7月完了  |
| ⑧ 中央棟中央材料室オートクレープ(1・2号機)更新工事                   | 平成23年7月完了  |
| ⑨ 中央棟5階核医学検査室スペクト更新工事                          | 平成23年7月完了  |
| ⑩ 外来棟各所窓ガラス断熱フィルム貼り工事(営繕工事)                    | 平成23年7月実施  |
| ⑪ 中央棟7階CCU病室増床に伴う改修工事                          | 平成23年7月完了  |
| ⑫ E棟10階個室ファンコイル吹き出し口結露対策工事                     | 平成23年8月実施  |
| ⑬ 外来棟自家発電装置増設工事(大規模停電対策)                       | 平成23年9月完了  |
| ⑭ 外来棟文書カウンター設置工事                               | 平成23年10月実施 |
| ⑮ PHSサーバー電源の無停電源化工事                            | 平成23年11月完了 |
| ⑯ 中央棟手術部ファンコイル整備工事                             | 平成23年11月完了 |
| ⑰ E棟蒸気吸収式冷凍機(1号機)整備工事                          | 平成23年11月完了 |
| ⑱ 外来棟外壁補修工事                                    | 平成23年11月完了 |
| ⑲ 外来棟画像診断部一般撮影室(No.11・12、CT13)感染対策のため、排気設備改修工事 | 平成24年1月実施  |
| ⑳ 中央棟エレベータ(14号機)ロープ交換工事                        | 平成24年1月実施  |
| ㉑ 個室病室陰圧化工事(3病棟6室)                             | 平成24年1月完了  |
| ㉒ 管理棟4階研修室設置工事                                 | 平成23年2月完了  |
| ㉓ E棟地下2階発電機室発電機起動用蓄電池更新工事                      | 平成24年3月実施  |
| ㉔ E棟地下2階電気室直流電源装置蓄電池更新工事                       | 平成24年3月実施  |
| ㉕ E棟地下3階特高変電室機器操作用蓄電池更新工事                      | 平成24年3月実施  |
| ㉖ 中央棟避難口誘導灯消防法改正に伴う更新工事                        | 平成24年3月実施  |
| ㉗ 外来棟(A棟)非常用発電機修理工事                            | 平成24年3月実施  |
| ㉘ 中央棟東面及び西面窓ガラス断熱フィルム貼り工事                      | 平成24年3月実施  |

## 6. 平成23年度決算

### 1. はじめに

平成23年度は、葛飾医療センター完成に伴う設備支出、看護学科増員対応工事支出、並びに本院外来棟建築の為に内部蓄積実施を目指して運営されましたが、医療収入並びに補助金の増加と各機関の経費削減により、帰属収支差額（収益）は予算を上回る結果となりました。

### 2. 資金収支計算書

施設関係・設備関係支出として120億円の固定資産投資を行いました。この内、葛飾医療センター建設に伴う投資は建物52億円、医療機器26億円でした。

次年度繰越金は428億円で、前年度比▲5億円となりました。

### 3. 消費収支計算書

収入の部では、医療収入が829億円と前年度比29億円増加したことを要因に、帰属収入は929億円と前年度比29億円増加しました。

支出の部では、医療経費が前年度比21億円増加したことに加え、葛飾医療センター開院に伴う経費増を要因として消耗品費・委託費・資産処分差額等が増加し、消費支出は873億円と前年度比40億円増加しました。

この結果、帰属収支差額（利益）は56億円となり、前年度比では▲11億円となったものの、予算比では+11億円となりました。

### 4. 貸借対照表

資産の部では、建物・建設仮勘定・教育研究用機器備品の合計で66億円の有形固定資産が前年度に比べて増加していますが、これらの投資は、長期借入金と長期未払金の増加合計62億円と現金預金の減少▲5億円に支えられています。

基本金の部と消費収支差額の部は合計で56億円増加していますが、これは帰属収支差額56億円によるもので、資産の部では主に有価証券の増加53億円になっています。

尚、平成23年度末の自己資金比率は約70%となりました。

### 5. 決算開示方法について

- (1) 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。
- (2) 貸借対照表における未収入金は、徴収不能引当金168,079,254円を控除して表記しております。

以上

# 平成23年度決算書

## 1) 平成23年度消費収支計算書

自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

(単位：円)

| 消費支出の部     |                | 消費収入の部         |                |
|------------|----------------|----------------|----------------|
| 科目         | 金額             | 科目             | 金額             |
| 人件費        | 37,497,888,353 | 学生生徒納付金        | 2,791,280,000  |
| 教育研究経費     | 44,817,214,603 | 手数料            | 183,665,700    |
| 教育研究経費     | 14,209,921,723 | 寄付金            | 1,259,742,096  |
| 医療経費       | 30,607,292,880 | 補助金            | 3,952,332,950  |
| 管理経費       | 4,273,949,552  | 国庫補助金          | 3,659,372,000  |
|            |                | 地方公共団体補助金      | 290,260,950    |
|            |                | その他の補助金        | 2,700,000      |
| 借入金利息      | 268,356,411    | 資産運用収入         | 130,359,783    |
|            |                | 資産売却差額         | 0              |
| 資産処分差額     | 184,516,597    | 事業収入           | 83,384,064,732 |
| 徴収不能額      | 113,417,699    | 医療収入           | 82,921,154,197 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 168,079,254    | 雑収入            | 1,191,367,618  |
|            |                | (うち徴収不能引当金戻入額) | 254,227,376    |
| 消費支出の部合計   | 87,323,422,469 | 帰属収入の部合計       | 92,892,812,879 |
| 消費収入超過額    | 3,616,125,111  | 基本金組入額合計       | △1,953,265,299 |
| 合計         | 90,939,547,580 | 合計             | 90,939,547,580 |

平成24年6月文部科学省へ提出

## 2) 平成23年度資金収支計算書

自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日

(単位：円)

| 支 出 の 部           |                 | 収 入 の 部           |                 |
|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|
| 科 目               | 金 額             | 科 目               | 金 額             |
| 人 件 費 支 出         | 37,281,226,252  | 学 生 生 徒 納 付 金 収 入 | 2,791,280,000   |
| 教 育 研 究 経 費 支 出   | 40,652,269,235  | 手 数 料 収 入         | 183,665,700     |
| 教 育 研 究 費 支 出     | 11,257,104,647  | 寄 付 金 収 入         | 1,204,044,108   |
| 医 療 経 費 支 出       | 29,395,164,588  | 補 助 金 収 入         | 3,952,332,950   |
| 管 理 経 費 支 出       | 3,679,200,850   | 国 庫 補 助 金         | 3,659,372,000   |
|                   |                 | 地 方 公 共 団 体 補 助 金 | 290,260,950     |
|                   |                 | そ の 他 の 補 助 金     | 2,700,000       |
|                   |                 | 資 産 運 用 収 入       | 130,359,783     |
| 借 入 金 支 払 利 息 支 出 | 268,356,411     | 事 業 収 入           | 83,384,064,732  |
|                   |                 | 医 療 収 入           | 82,921,154,197  |
| 借 入 金 返 済 支 出     | 2,957,000,000   | 雑 収 入             | 937,140,242     |
| 施 設 関 係 支 出       | 6,949,529,571   | 借 入 金 収 入         | 4,900,000,000   |
| 設 備 関 係 支 出       | 5,074,798,416   | 前 受 金 収 入         | 568,904,362     |
| 資 産 運 用 支 出       | 7,298,793,583   | そ の 他 の 収 入       | 16,153,513,414  |
| そ の 他 支 出         | 13,754,719,027  |                   |                 |
| 資 金 支 出 調 整 勘 定   | △18,505,408,401 | 資 金 収 入 調 整 勘 定   | △15,267,261,925 |
| 期 末 未 払 金         | △18,505,408,401 | 期 末 未 収 入 金       | △14,434,167,563 |
|                   |                 | 前 期 末 前 受 金       | △833,094,362    |
| 次 年 度 繰 越 支 払 資 金 | 42,825,059,238  | 前 年 度 繰 越 支 払 資 金 | 43,297,500,816  |
| 支 出 の 部 合 計       | 142,235,544,182 | 収 入 の 部 合 計       | 142,235,544,182 |

平成24年 6 月文部科学省へ提出



3) 平成23年度貸借対照表  
平成24年3月31日現在

(単位:円)

| 資 産 の 部                |                 |                 |                |
|------------------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 科 目                    | 本 年 度 末         | 前 年 度 末         | 増 減            |
| 固 定 資 産                | 106,641,219,471 | 97,207,715,268  | 9,433,504,203  |
| 有 形 固 定 資 産            | 97,570,116,739  | 90,862,554,415  | 6,707,562,324  |
| 土 地                    | 6,331,139,571   | 6,331,139,571   | 0              |
| 建 物                    | 74,841,557,397  | 65,838,247,860  | 9,003,309,537  |
| 構 築 物                  | 301,993,175     | 321,824,986     | △19,831,811    |
| 教育研究用機器備品              | 10,800,825,104  | 8,472,770,049   | 2,328,055,055  |
| その他の機器備品               | 1,977,621,025   | 1,907,627,805   | 69,993,220     |
| 図 書                    | 2,844,996,954   | 2,798,981,256   | 46,015,698     |
| 車 輛                    | 700,980         | 700,980         | 0              |
| 建 設 仮 勘 定              | 448,120,625     | 5,168,100,000   | △4,719,979,375 |
| 放射性同位元素                | 23,161,908      | 23,161,908      | 0              |
| その他の固定資産               | 9,071,102,732   | 6,345,160,853   | 2,725,941,879  |
| 長 期 貸 付 金              | 388,968,126     | 376,508,091     | 12,460,035     |
| 差 入 保 証 金              | 337,232,460     | 352,003,600     | △14,771,140    |
| 有 価 証 券                | 5,852,563,220   | 3,552,563,220   | 2,300,000,000  |
| 退職給与引当特定預金             | 1,600,000,000   | 1,600,000,000   | 0              |
| ソフトウェア                 | 892,338,926     | 464,085,942     | 428,252,984    |
| 流 動 資 産                | 60,402,684,914  | 57,000,467,085  | 3,402,217,829  |
| 現 金 預 金                | 42,825,059,238  | 43,297,500,816  | △472,441,578   |
| 未 収 入 金                | 14,406,897,986  | 13,546,641,999  | 860,255,987    |
| 貯 蔵 品                  | 83,154,313      | 96,139,901      | △12,985,588    |
| 有 価 証 券                | 3,000,522,222   | 0               | 3,000,522,222  |
| 仮 払 金                  | 87,051,155      | 60,184,369      | 26,866,786     |
| 資産の部合計                 | 167,043,904,385 | 154,208,182,353 | 12,835,722,032 |
| 負 債 の 部                |                 |                 |                |
| 科 目                    | 本 年 度 末         | 前 年 度 末         | 増 減            |
| 固 定 負 債                | 34,852,742,272  | 28,400,649,098  | 6,452,093,174  |
| 長 期 借 入 金              | 12,765,800,000  | 10,928,000,000  | 1,837,800,000  |
| 退職給与引当金                | 17,132,460,375  | 16,915,798,274  | 216,662,101    |
| 長 期 未 払 金              | 4,954,481,897   | 556,850,824     | 4,397,631,073  |
| 保 証 金                  | 0               | 0               | 0              |
| 流 動 負 債                | 15,833,787,584  | 15,019,549,136  | 814,238,448    |
| 短 期 借 入 金              | 1,086,800,000   | 981,600,000     | 105,200,000    |
| 未 払 金                  | 13,895,383,492  | 12,960,902,608  | 934,480,884    |
| 前 受 金                  | 568,904,362     | 833,094,362     | △264,190,000   |
| 預 り 金                  | 281,449,730     | 242,627,166     | 38,822,564     |
| 保 証 金                  | 1,250,000       | 1,325,000       | △75,000        |
| 負債の部合計                 | 50,686,529,856  | 43,420,198,234  | 7,266,331,622  |
| 基 本 金 の 部              |                 |                 |                |
| 第 1 号 基 本 金            | 139,895,951,611 | 138,090,029,273 | 1,805,922,338  |
| 第 2 号 基 本 金            | 0               | 0               | 0              |
| 第 3 号 基 本 金            | 0               | 0               | 0              |
| 第 4 号 基 本 金            | 6,578,612,999   | 6,431,270,038   | 147,342,961    |
| 基本金の部合計                | 146,474,564,610 | 144,521,299,311 | 1,953,265,299  |
| 消 費 収 支 差 額 の 部        |                 |                 |                |
| 平成22年度消費支出準備金          | 0               | 0               | 0              |
| 翌年度繰越消費支出超過額           | △30,117,190,081 | △33,733,315,192 | 3,616,125,111  |
| 消費収支差額の部合計             | △30,117,190,081 | △33,733,315,192 | 3,616,125,111  |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 167,043,904,385 | 154,208,182,353 | 12,835,722,032 |

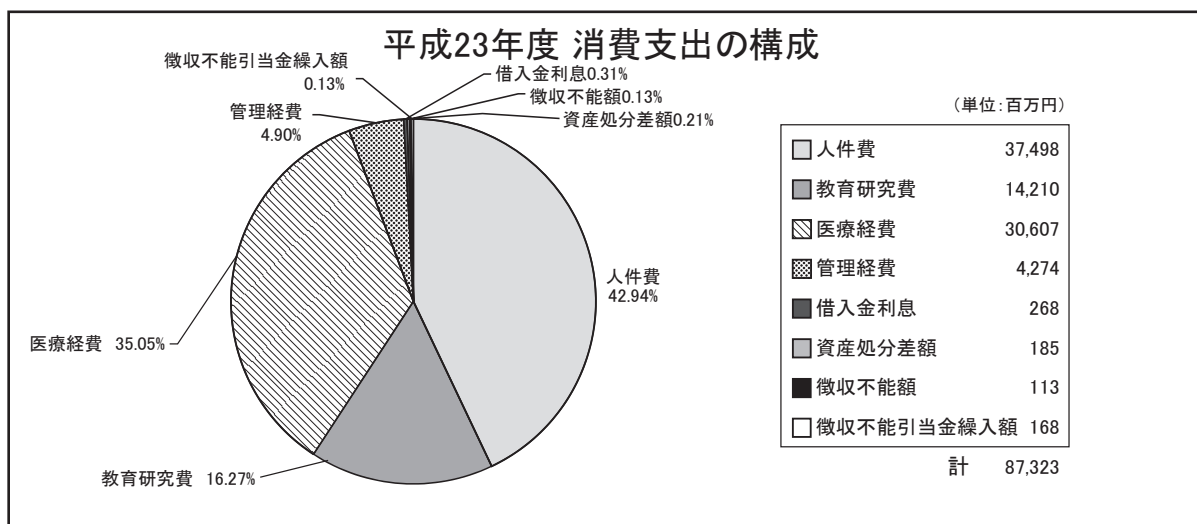
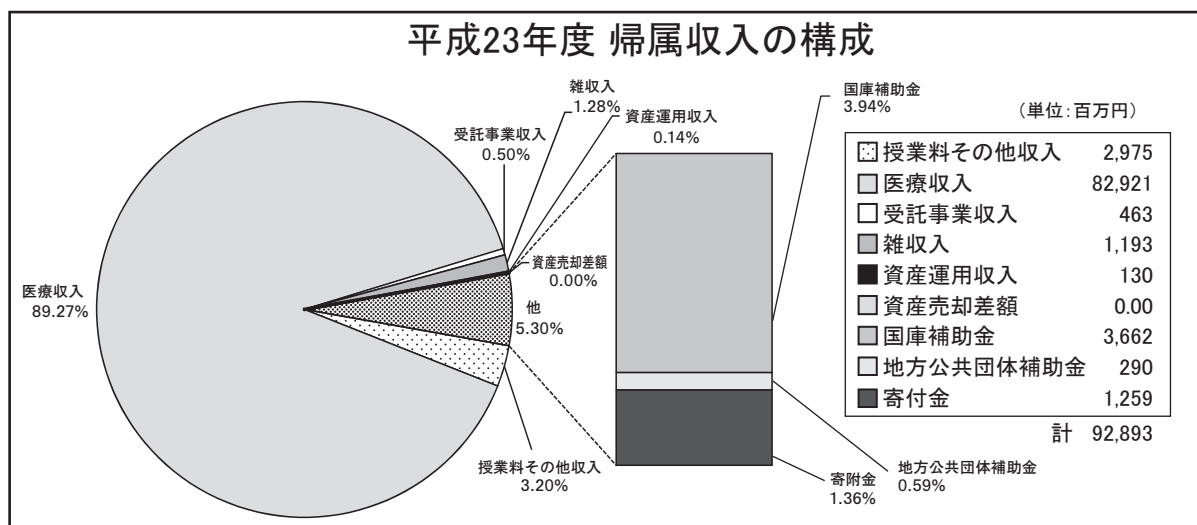
平成24年6月文部科学省へ提出

\* 徴収不能引当金168,079,254円は未収入金から控除されています。

#### 4) 主要な財務指標の推移

| 区 分                         | 平成<br>18年度 | 平成<br>19年度 | 平成<br>20年度 | 平成<br>21年度 | 平成<br>22年度 | 平成<br>23年度 |
|-----------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 消費収支関係財務比率 (単位: %)          |            |            |            |            |            |            |
| ①消費支出比率 (消費支出/帰属収入)         | 97.2%      | 96.9%      | 96.7%      | 95.7%      | 92.6%      | 94.0%      |
| ②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/帰属収入) | 3.5%       | 3.4%       | 3.4%       | 3.2%       | 3.1%       | 3.0%       |
| ③寄付金比率 (寄付金/帰属収入)           | 1.7%       | 1.3%       | 1.3%       | 1.2%       | 1.6%       | 1.4%       |
| ④補助金比率 (補助金/帰属収入)           | 4.7%       | 4.7%       | 4.7%       | 4.4%       | 4.2%       | 4.3%       |
| ⑤医療収入比率 (医療収入/帰属収入)         | 87.0%      | 86.4%      | 87.5%      | 88.9%      | 88.9%      | 89.3%      |
| ⑥人件費比率 (人件費/帰属収入)           | 45.1%      | 43.7%      | 42.9%      | 42.2%      | 41.0%      | 40.4%      |
| ⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/帰属収入)     | 47.6%      | 48.1%      | 49.0%      | 48.6%      | 46.2%      | 48.2%      |
| ⑧帰属収支差額比率 (100%-消費支出比率)     | 2.8%       | 3.1%       | 3.3%       | 4.3%       | 7.4%       | 6.0%       |
| 貸借対照表関係財務比率 (単位: %)         |            |            |            |            |            |            |
| ①流動比率 (流動資産/流動負債)           | 345.7%     | 346.4%     | 355.2%     | 360.1%     | 379.5%     | 381.5%     |
| ②固定比率 (固定資産/自己資金)           | 101.4%     | 98.4%      | 96.3%      | 92.4%      | 87.7%      | 91.6%      |
| ③固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債)) | 75.6%      | 74.6%      | 74.2%      | 72.1%      | 69.8%      | 70.5%      |
| ④負債比率 (総負債/自己資金)            | 47.6%      | 45.4%      | 43.0%      | 41.8%      | 39.2%      | 43.6%      |
| ⑤自己資金比率 (自己資金/総資産)          | 67.8%      | 68.8%      | 69.9%      | 70.5%      | 71.8%      | 69.7%      |

\* 自己資金=基本金+消費収支差額  
平成24年6月文部科学省報告



# 財 産 目 録

平成 24 年 3 月 31 日

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| I. 資産総額   | 167,043,904,385 円 |
| 内 基本財産    | 109,641,741,693 円 |
| 内 運用財産    | 57,402,162,692 円  |
| 内 収益事業用財産 | 0 円               |
| II. 負債総額  | 50,686,529,856 円  |
| III. 正味財産 | 116,357,374,529 円 |

学校法人 慈恵大学

| 科 目             | 数 量                      | 金 額(円)          |
|-----------------|--------------------------|-----------------|
| 一、基本財産          |                          | 109,641,741,693 |
| 1. 土地           | 153,491.78m <sup>2</sup> | 6,331,139,571   |
| (1)校地           | 55,338.48m <sup>2</sup>  | 1,262,224,051   |
| (2)その他          | 98,153.30m <sup>2</sup>  | 5,068,915,520   |
| 2. 建物           | 286,124.78m <sup>2</sup> | 74,841,557,397  |
| (1)法人本部         | 3,670.81m <sup>2</sup>   | 988,604,986     |
| (2)一般校舎         | 70,664.05m <sup>2</sup>  | 14,359,868,715  |
| (3)図書館          | 3,882.20m <sup>2</sup>   | 111,543,345     |
| (4)講堂           | 1,168.99m <sup>2</sup>   | 103,222,702     |
| (5)その他          | 206,738.73m <sup>2</sup> | 59,278,317,649  |
| 3. 図書           | 338,911冊                 | 2,844,996,954   |
| 4. 教具、校具、備品     | 7,862件                   | 12,778,446,129  |
| 5. 有価証券         |                          | 8,853,085,442   |
| 6. その他          |                          | 3,992,516,200   |
| 二、運用財産          |                          | 57,402,162,692  |
| 1. 現金、預金        |                          | 42,825,059,238  |
| 2. 未収入金         |                          | 14,406,897,986  |
| 3. その他          |                          | 170,205,468     |
| 資産総額            |                          | 167,043,904,385 |
| 三、固定負債          |                          | 34,852,742,272  |
| 1. 長期借入金        |                          | 12,765,800,000  |
| 2. 退職給与引当金      |                          | 17,132,460,375  |
| 3. 長期未払金        |                          | 4,954,481,897   |
| 四、流動負債          |                          | 15,833,787,584  |
| 1. 短期借入金        |                          | 1,086,800,000   |
| 2. 未払金          |                          | 13,895,383,492  |
| 3. 前受金          |                          | 568,904,362     |
| 4. 保証金          |                          | 1,250,000       |
| 5. その他          |                          | 281,449,730     |
| 負債総額            |                          | 50,686,529,856  |
| 正味財産(資産総額-負債総額) |                          | 116,357,374,529 |

上記の通り相違ありません。

平成24年 5月24日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎




# 監査報告書

平成 24 年 5 月 24 日


学校法人 慈恵大学  
理 事 会 御中

学校法人 慈恵大学

監事

濱 邦久 

監事

岡島 進一郎 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人慈恵大学寄附行為第 15 条の定めに基づき、平成 23 年度（平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。  
その結果について以下の通り報告いたします。

## 1、 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。

## 2、 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 24 年 3 月 31 日現在の財産状況、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

## 7. 関連当事者等との取引等の状況

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

| 属性   | 役員・法人等の名称    | 住所    | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業      | 議決権の所有割合 | 関係内容   |                        | 取引の内容     | 取引金額        | 勘定科目 | 期末残高 |
|------|--------------|-------|----------|----------------|----------|--------|------------------------|-----------|-------------|------|------|
|      |              |       |          |                |          | 役員の兼任等 | 事業上の関係                 |           |             |      |      |
| 関係法人 | (株)東京慈恵会(注1) | 東京都港区 | —        | 看護師養成事業、医学研究事業 | —        | 5名     | 卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている | 会費の支払(注2) | 193,771,000 | —    | —    |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当学校法人の役員及び教員が(株)東京慈恵会の役員の45%を占めている。

(注2) (株)東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は以下の通りである。

|  |  |                  |               |               |               |               |
|--|--|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 名称   | 株式会社 慈恵実業  |                  |               |               |               |               |
| 事業内容                                       | 物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理、保険代理業、リース業、労働者派遣・請負業務など |                  |               |               |               |               |
| 出資金  | 30,000,000円 60,000株                                    |                  |               |               |               |               |
| 学校法人の出資状況                                  | 30,000,000円 60,000株 総出資金額に占める割合 100%                   |                  |               |               |               |               |
| 出資の状況                                      | 昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株                         |                  |               |               |               |               |
| 当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況 | 当該会社からの受入額 (単位：円)                                      |                  |               |               |               |               |
|  | 一般寄附   | 1,320,000        |               |               |               |               |
|  | 駐車場等賃借料  | 89,285,189       |               |               |               |               |
|  | 手数料他   | 21,990,976       |               |               |               |               |
|  | 出向者人件費受入分  | 146,206,040      |               |               |               |               |
|  | 合計   | 258,802,205      |               |               |               |               |
|  | 当該会社への支払額 (単位：円)                                       |                  |               |               |               |               |
|  | 消耗雑品購入等  | 13,530,512,951   |               |               |               |               |
|  | 医療機器等リース料  | 743,430,437      |               |               |               |               |
|  | 合計   | 14,273,943,388   |               |               |               |               |
|  |  |                  | 期首残高          | 資金支出等         | 資金収入等         | 期末残高          |
|  | 当該会社への出資金等   |                  | 30,000,000    | 0             | 0             | 30,000,000    |
|  | 当該会社への貸付金  |                  | 0             | 0             | 0             | 0             |
|  | 当該会社への未払金  |                  | 3,173,838,359 | 3,173,838,359 | 3,449,508,733 | 3,449,508,733 |
| 当該会社からの借入金                                 |  | 0                | 0             | 0             | 0             |               |
| 当該会社からの未収入金                                |  | 68,341           | 1,403,445     | 68,341        | 1,403,445     |               |
| 保証債務                                       |  | 当該会社への保証債務は一切ない。 |               |               |               |               |

関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

| 属性       | 役員・法人等の名称        | 住所    | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業                                       | 議決権の所有割合 | 関係内容   |                            | 取引の内容          | 取引金額          | 勘定科目 | 期末残高       |
|----------|------------------|-------|----------|---|----------|--------|----------------------------|----------------|---------------|------|------------|
|          |                  |       |          |   |          | 役員の兼任等 | 事業上の関係                     |                |               |      |            |
| 関係法人(注3) | 慈恵ファシリティサービス株式会社 | 東京都港区 | 3,000万円  | 建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務 | —        | 1名     | 本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託 | 清掃、管理費等の支払(注4) | 1,133,489,251 | 未払金  | 95,023,655 |
|          |                  |       |          |   |          |        |                            | 出向者人件費等受入収入    | 148,853,983   | 未収入金 | 0          |

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

(単位：円)

| 属性           | 役員・法人等の名称    | 住所    | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業                    | 議決権の割合 | 関係内容   |                | 取引の内容              | 取引金額       | 勘定科目 | 期末残高      |
|--------------|--------------|-------|----------|------------------------------|--------|--------|----------------|--------------------|------------|------|-----------|
|              |              |       |          |                              |        | 役員の兼任等 | 事業上の関係         |                    |            |      |           |
| 関係法人<br>(注5) | 株式会社東京堂医科器械店 | 東京都港区 | 2,500万円  | 医科器械及び附属品計量器の販売、医療材料・消耗品等の販売 | —      | —      | 医科器械・医療消耗品等を購入 | 医科器械・医療消耗品等の支払(注6) | 17,104,029 | 未払金  | 1,967,298 |
|              |              |       |          |                              |        |        |                | 受入収入               | 0          | 未収入金 | 0         |

(注5) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注6) ㈱東京堂医科器械店への支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。



## 8. 学校法人慈恵大学の体制（平23.4.1.）

### 1) 学校法人慈恵大学

|        |  |    |            |     |     |
|--------|--|----|------------|-----|-----|
| ① 役員概要 | 定員数  | 理事 | 15人以上16人以内 | 現員数 | 16人 |
|        |  | 監事 | 2人以上3人以内   | 現員数 | 2人  |
|        |  | 顧問 | 3人以上7人以内   | 現員数 | 5人  |
| 理事長    | 栗原 敏   |    |            |     |     |
| 専務理事   | 高木 敬三、梅澤 祐二  |    |            |     |     |
| 常務理事   | 谷口 郁夫  |    |            |     |     |
| 理事     | 森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、小林 進<br>落合 和徳、羽野 寛、橋本 和弘、小路美喜子、高橋実貴雄<br>霜 礼次郎、原 貞夫、前田 新造 |    |            |     |     |
| 監事     | 濱 邦久、岡島進一郎   |    |            |     |     |
| 顧問     | 阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、佐々木正峰、真野 章  |    |            |     |     |

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上42人以内であり、現員数は42人である。

|        |  |  |  |  |  |
|--------|--|--|--|--|--|
| 評議員会議長 | 村岡 伸一  |  |  |  |  |
| 評議員    | 栗原 敏、森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、小林 進<br>細谷 龍男、橋本 和弘、落合 和徳、谷口 郁夫、上出良一<br>谷 諭、浅野 晃司、高木 敬三、寺坂 治、羽野 寛<br>松藤 千弥、櫻井美代子、蝦名 總子、加藤 一人、高橋実貴雄<br>高橋 則子、横山 秀彦、奈良 京子、宮崎 栄一、秋元 文夫<br>柳澤美津代、川久保 孝、霜 礼次郎、原 貞夫、高橋紀久雄<br>渡邊 盛雄、香川 草平、篠原 健、今井 健郎、須田 健夫、<br>村岡 伸一、赤羽 清彬、高木 公寛、米津 等史、飛鳥田一朗、<br>丸山 浩一、梅澤 祐二 |  |  |  |  |

### 2) 東京慈恵会医科大学

|              |                                  |  |  |  |  |
|--------------|----------------------------------|--|--|--|--|
| 学 長          | 栗原 敏                             |  |  |  |  |
| 医 学 科 長      | 羽野 寛                             |  |  |  |  |
| 看 護 学 科 長    | 櫻井美代子                            |  |  |  |  |
| 大学院医学研究科長    | 栗原 敏                             |  |  |  |  |
| 附 属 病 院 長    | 森山 寛                             |  |  |  |  |
| 副院長          | 落合 和徳、細谷 龍男、橋本 和弘<br>丸毛 啓史、高橋 則子 |  |  |  |  |
| 青 戸 病 院 長    | 伊藤 洋                             |  |  |  |  |
| 副院長          | 吉田 和彦、児島 章                       |  |  |  |  |
| 第 三 病 院 長    | 坂井 春男                            |  |  |  |  |
| 副院長          | 中村 敬、岡 尚省、岡本 友好                  |  |  |  |  |
| 柏 病 院 長      | 小林 進                             |  |  |  |  |
| 副院長          | 清水 光行、岸本 幸一、吉田 博                 |  |  |  |  |
| 学術情報センター長    | 兼平 千裕                            |  |  |  |  |
| 生涯学習センター長    | 阿部 俊昭                            |  |  |  |  |
| 教育センター長      | 福島 統                             |  |  |  |  |
| 総合医科学研究センター長 | 栗原 敏                             |  |  |  |  |

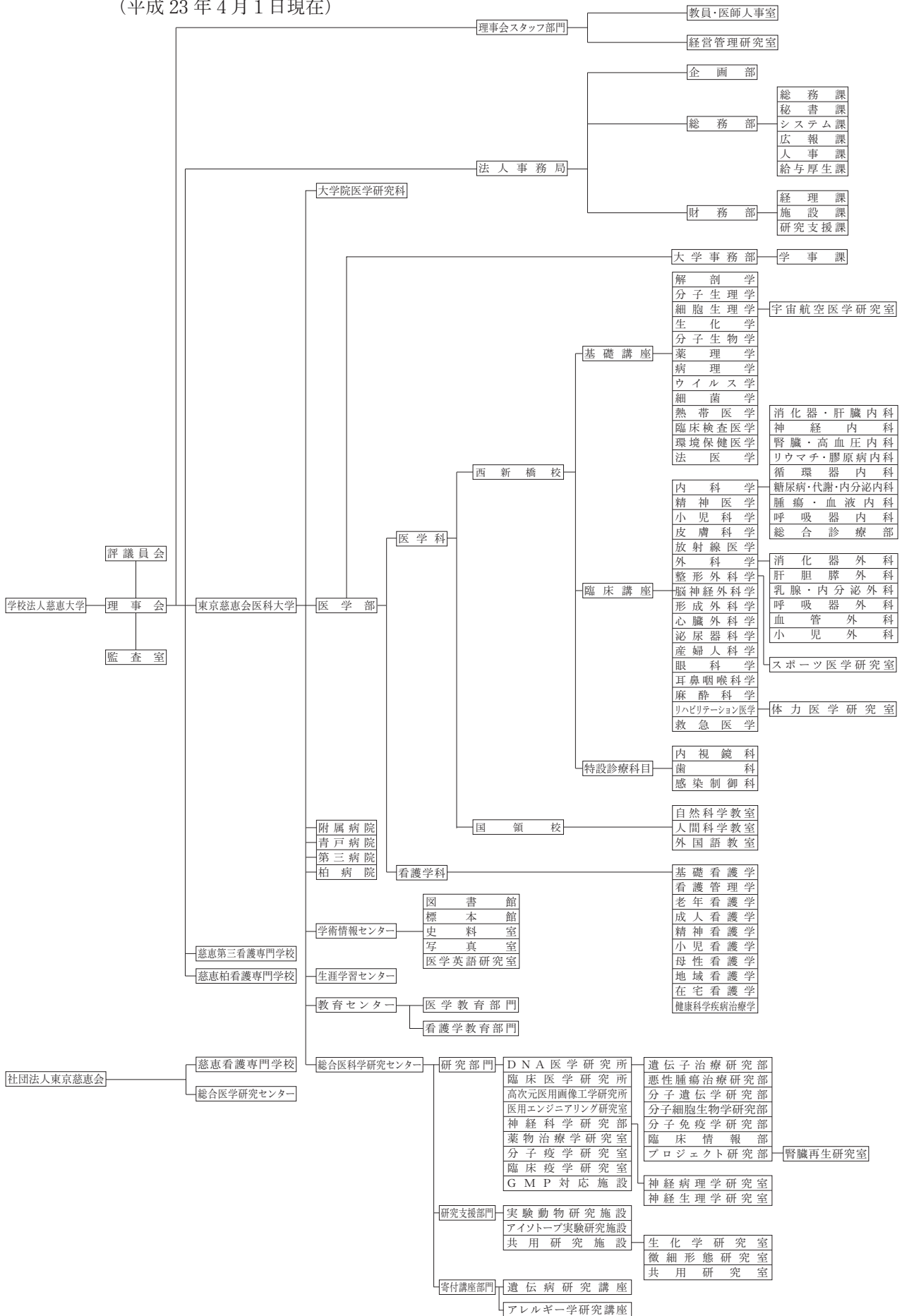
### 3) 看護専門学校

|             |        |  |  |  |  |
|-------------|--------|--|--|--|--|
| 慈恵第三看護専門学校長 | 横山 淳一  |  |  |  |  |
| 慈恵柏看護専門学校長  | 佐々木 敬  |  |  |  |  |
| [慈恵看護専門学校長] | 川村 将弘] |  |  |  |  |



# 9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成 23 年 4 月 1 日現在)



## 10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

| 議 事 内 容   |  |
|---|--|
| <p>平成23年4月28日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事（平成23年5月1日付）</p> <p>3) 附属病院長選任等規則の改定について</p> <p>4) 青戸病院の名称変更について</p> <p>5) 職員の懲戒について</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成23年度俸給表</p> <p>(2) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(3) 幹部職員一覧</p> <p>(4) 新入職員数報告</p> <p>(5) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(6) 平成22年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(7) 資産運用状況報告</p> | <p>(8) 創立130周年記念募金状況報告（3月末日現在）</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) レジデントの採用状況について</p> <p>(2) 電力対策プロジェクトチーム</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 東京医科大学再生プロジェクト報告</p> <p>2) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月27日（金）午後3時～</p> <p>議題：平成21年度決算報告、その他</p> |
| <p>平成23年5月26日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成22年度決算</p> <p>3) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p>4) 本多友彦慈恵医学教育奨励基金運用規定改定について</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成22年度事業報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>   | <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 第三病院隣地（OKストア）の件について</p> <p>2) 同窓会役員の交代について</p> <p>3) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月27日（金）午後3時～</p> <p>4) 大学役員退任者への慰労金授与</p> <p>5) その他</p>   |
| <p>平成23年6月23日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 新役員報告</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 青戸病院名称変更に伴う寄附行為の変更認可申請について</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 5月評議員会報告</p> <p>(2) 労働組合との交渉結果について</p> <p>(3) 宮崎県穆佐小学校児童招待の件</p> <p>(4) 宮崎県特別大使受入れの件</p>  | <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 電力対策（計画停電の対応、節電等）について</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 平成22年度事業報告書</p> <p>2) 東日本大震災報告</p>   |

議 事 内 容

平成23年 7月28日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 総合医科学研究センター「再生医学研究部」設置について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
  - (2) 第128回成医会総会プログラムについて
  - (3) 大学ガイド2012・大学院ガイド2012

3) 病院関係報告

- (1) 4病院院長・事務・看護部長会議報告
- (2) 青戸新病院の進捗状況について

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 青戸病院の現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 平成23年度科学研究費補助金の交付について
- 2) 今後の医学部入学定員のあり方等に関する検討会報告

平成23年 9月22日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 職員管理職人事（平成23年10月1日付）
- 3) 学則の改定について（保健師課程の選択制への変更）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 東京慈恵会医科大学130年史について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告

3) 病院関係報告

- (1) 青戸新病院の進捗状況について

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 青戸病院の現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 夏季常任理事会報告
- 2) 第128回成医会の開催について

平成23年10月27日

1. 議決事項

- 1) 教員人事

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 資産運用状況報告
  - (2) 創立130周年記念事業募金報告
  - (3) 東日本大震災義援金報告
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告
- 3) 病院関係報告
  - (1) 研修医・レジデント応募状況について
  - (2) 本学の電気使用量について

(3) 医療安全について

- ① 医療安全週間
- ② 平成22年度医療安全管理部活動報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 青戸病院の現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

議 事 内 容

平成23年11月25日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 賞与資金借入れについて

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 青戸病院の現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 業者倒産に伴う本学の債権に関する報道について

平成23年12月22日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 職員管理職人事（平成24年1月1日付）
- 3) 大学院学則改定について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況

- 3) 青戸病院の現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 評議員会の日程について
  - (1) 平成24年3月7日（水）午後3時
  - (2) 平成24年5月28日（月）午後3時
- 2) 平成24年度理事会開催日程
- 3) 「大学広報第20号」、「医学振興第73号」、「慈恵医大・附属病院職員雑誌」の配付
- 4) 文部科学省主催「学校法人監事研修会」報告
- 5) 「i-Stroke」について 脳神経外科 高尾洋之助教

平成24年1月26日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
  - (1) 寄附行為施行規則第7条および第31条に規程する人事の選任
- 2) 教員人事
- 3) 平成24年度基礎系講座定員について
- 4) 平成24年度附属4病院診療部・中央診療部定員について
- 5) 職員管理職人事（平成24年4月1日付）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 株式会社慈恵実業第37期決算報告
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告

3) 病院関係報告

- (1) 平成24年度専門修得コース（レジデント）について
- (2) 葛飾医療センター開院及び記念パーティーの開催について

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 成医会例会案内

議 事 内 容

平成23年 2月23日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
  - (1) 寄附行為施行規則第7条および第31条に  
規程する人事の選任
- 2) 教員人事
- 3) 職員管理職人事（平成24年4月1日付）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 平成24年度予算（案）について<説明>
  - (2) 関連当事者との取引の調査依頼
  - (3) 第三病院青樹寮並びに病院1号館・2号館・  
3号館の取り壊し
  - (4) 第三病院新1号館の建築、看護学科の増築  
について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 評議員会の日程について
  - (1) 平成24年3月7日（水）午後3時  
平成24年度予算（案） 他
  - (2) 平成24年5月28日（月）午後3時  
平成23年度決算、平成23年度事業報告 他

平成24年 3月22日

1. 議決事項

- 1) 平成24年度事業計画（案）について
- 2) 平成24年度予算（案）について
- 3) 教員人事

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 情報システム統括委員会の設置について
  - (2) マスタープラン検討と西新橋キャンパス整  
備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事関係報告
- 3) 病院関係報告
  - (1) 柏病院将来計画に係る設計事務所の選定に  
ついて

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 配布資料
  - (1) 教育・研究年報（2010）
  - (2) ResearchActivities（2010）
- 2) 評議員会の日程について
  - (1) 平成24年5月28日（月）午後3時  
平成23年度決算、事業報告他
- 3) 大学役員退任者への慰労金授与  
坂井春男理事、小林進理事

## 11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

| 議 事 内 容  |   |
|--|---|
| <p>平成23年5月27日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成22年度決算</p> <p>2) 平成22年度監査報告</p> <p>3) 平成22年度事業報告</p> <p>4) 附属病院長選任等規則の改定の件</p> <p>5) 附属青戸病院の名称変更の件</p> <p>6) 附属青戸病院の名称変更に伴う寄附行為変更認可申請の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成22年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件</p> | <p>3) 東日本大震災の件</p> <p>4) 大学創立130年記念事業募金の中間報告</p> <p>5) 同窓会選出大学役員報告</p> <p>3. その他</p> <p>1) 「OKストアー」の件</p>   |
| <p>平成24年3月7日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成24年度事業計画案の件</p> <p>2) 平成24年度予算案の件</p> <p>3) 第三病院青樹寮等取り壊しの件</p> <p>4) 第三病院新1号館新築および看護学科増築工事について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 葛飾医療センター開院について</p>  | <p>3) 大学創立130年記念事業募金の中間報告</p> <p>4) 東日本大震災に伴う医療支援について</p> <p>5) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について<br/>日時：5月28日(月)午後3時～<br/>場所：B会議室<br/>議題：平成23年度決算報告、その他</p> <p>3. その他</p> |

## 12. 監査室

平成23年度の内部監査は前年度に引き続き公的補助金を中心に実施した。公的補助金以外に実施した内部監査は、「事務部門における仮払金（準備金）管理業務」、「『平成21年度慈恵実業内部監査報告書』による改善指摘事項の改善状況についての検証」、「事務部門における業務手順書の整備状況」であった。

### 1. 平成23年度に実施した内部監査

#### 1) 公的補助金監査

- (1) 私立大学等経常費補助金（平成22、23年度分一般補助ならびに平成22年度分特別補助）
- (2) 文部科学省科学研究費補助金（平成22年度分）
- (3) (独) 科学技術振興機構（JST）委託研究費（平成22年度分）
- (4) (独) 日本学術振興会（JSPS）先端研究助成基金助成金（平成22年度分）
- (5) 厚生労働科学研究費補助金（平成22年度分）
- (6) がん研究開発費（平成22年度分）
- (7) 成育医療研究開発費（平成22年度分）
- (8) 精神・神経疾患研究開発費（平成22年度分）
- (9) 長寿医療研究開発費（平成22年度分）

- (10) 政策創薬総合研究事業費（平成22年度分）
- (11) 研究費に関するモニタリング（平成23年度分・期中監査）

2) 業務監査

- (1) 事務部門における仮払金（準備金）管理業務
- (2) 『平成21年度慈恵実業内部監査報告書』による改善指摘事項の改善状況についての検証
- (3) 事務部門における業務手順書の整備状況

**2. 監事並びに監査法人との連携**

- 1) 監事との意見交換 1回（平成23年4月）
- 2) 監事への内部監査報告 2回（平成23年10月、平成24年3月）
- 3) 監査法人との意見交換 1回（平成24年1月）
- 4) 監査法人への内部監査報告 1回（平成24年1月）



## Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

## 1. 教授、その他の人事（平成23年4月～平成24年3月）

### 1) 平成24年3月31日付退任教授

| 氏名     | 旧担当        | 現在           |
|--------|------------|--------------|
| 栗原 敏   | 細胞生理学      | 名誉教授の称号を贈る   |
| 大川 清   | 生化学        | 名誉教授の称号を贈る   |
| 田中 忠夫  | 産婦人科学      | 名誉教授の称号を贈る   |
| 持尾 聡一郎 | 内科学        |              |
| 坂井 春男  | 脳神経外科学     | 客員教授の称号を贈る   |
| 小林 進   | 外科学        | 客員教授の称号を贈る   |
| 内田 賢   | 外科学        | 客員教授の称号を任命する |
| 武田 信彬  | 内科学        |              |
| 白崎 嘉昭  | 外国語教室      |              |
| 芳賀 佐和子 | 基礎看護学基礎看護学 | 客員教授の称号を贈る   |
| 穴澤 貞夫  | 看護学科 健康科学  | 客員教授の称号を贈る   |

### 2) 新任教授

| 氏名        | 担当             | 就任年月日    | 経歴                     | 備考                                    |
|-----------|----------------|----------|------------------------|---------------------------------------|
| 磯西 成治     | 産婦人科学          | 平23.4.1  | 昭和56年<br>本学卒           | 産婦人科学<br>准教授より                        |
| 田崎 哲典     | 大学直属           | 平23.4.1  | 昭和58年<br>広島大学卒         | 輸血部<br>准教授より                          |
| 植田 毅      | 国領校室<br>自然科学教室 | 平23.4.1  | 昭和62年<br>慶應義塾<br>理工学部卒 | 物理学研究室担当<br>千葉大学総合メディア<br>基盤センター准教授より |
| 野呂 幾久子    | 国領校<br>人間科学教室  | 平23.4.1  | 昭和59年<br>聖路看護大卒        | 人間科学教室<br>准教授より                       |
| 嘉糠 洋陸     | 熱帯医学           | 平23.6.1  | 平成9年<br>東京大農学部卒        | 帯広畜産大学<br>教授より                        |
| 大西 明弘     | 臨床検査医学         | 平23.6.1  | 昭和54年<br>本学卒           | 臨床検査医学<br>准教授より                       |
| 岡野ジェイムス洋尚 | 再生医学部<br>研究部   | 平23.9.1  | 昭和63年<br>本学卒           | 慶應義塾大学<br>准教授より                       |
| 宮田 久嗣     | 精神医学           | 平23.10.1 | 昭和58年<br>本学卒           | 精神医学<br>准教授より                         |
| 永野 みどり    | 看護学科<br>看護管理学  | 平23.10.1 | 昭和57年<br>弘前大教育学部       | 千葉大学<br>准教授より                         |
| 鈴木 政登     | 臨床検査医学         | 平23.11.1 | 昭和46年<br>福島大学卒         | 臨床検査医学<br>特任教授より                      |
| 関根 広      | 放射線医学          | 平24.1.1  | 昭和56年<br>本学卒           | 放射線医学<br>准教授より                        |
| 清田 浩      | 泌尿器科学          | 平24.2.1  | 昭和55年<br>本学卒           | 泌尿器科学<br>准教授より                        |

### 3) 新任客員教授

| 氏名     | 所属                | 就任年月日    | 備考                |
|--------|-------------------|----------|-------------------|
| 中村 讓   | 心臓外科学             | 平23.4.1  | 埼玉県立小児医療センター院長在任中 |
| 田中 孝昭  | 整形外科              | 平23.4.1  | 国立病院機構宇都宮病院副院長在任中 |
| 池本 庸   | 泌尿器科学             | 平23.6.1  | 太田総合病院在任中         |
| 根津 武彦  | 麻酔学               | 平23.6.1  | 厚木市立病院在任中         |
| 宮村 達男  | 大学直属              | 平23.11.1 | 元国立感染症研究所所長       |
| 進藤 奈邦子 | 大学直属              | 平23.11.1 | 世界保健機関永久職員        |
| 山本 裕康  | 内科学<br>(腎臓・高血圧内科) | 平23.11.1 | 厚木市立病院院長在任中       |
| 柏木 秀幸  | 外科学               | 平24.1.1  | 富士市立中央病院副院長在任中    |
| 近藤 直弥  | 泌尿器科学             | 平24.2.1  | 町田市民病院院長在任中       |
| 海老澤 元宏 | 小児科学              | 平24.3.1  | 国立病院機構相模原病院在任中    |

### 4) 特任教授

| 氏名    | 所属                   | 就任年月日    | 備考                         |
|-------|----------------------|----------|----------------------------|
| 穴澤 貞夫 | 看護学科 健康科学            | 平19.4.1  | 特任期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日  |
| 伊藤 文之 | 看護学科 健康科学            | 平19.4.1  | 特任期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日  |
| 柿川 房子 | 看護学専攻修士課程<br>がん看護学分野 | 平21.4.1  | 特任期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日  |
| 橋本 尚詞 | 解剖学                  | 平20.6.1  | 特任期間：平成23年6月1日～平成26年3月31日  |
| 須藤 正道 | 細胞生理学<br>宇宙航空医学研究室   | 平23.7.1  | 特任期間：平成23年7月1日～平成25年3月31日  |
| 谷内 修  | 大学直轄<br>医療保険指導室      | 平17.8.1  | 特任期間：平成23年8月1日～平成25年3月31日  |
| 岡崎 真雄 | 学術情報センター             | 平23.11.1 | 特任期間：平成23年11月1日～平成27年3月31日 |
| 相澤 良夫 | 内科学<br>(消化器・肝臓内科)    | 平21.11.1 | 特任期間：平成23年11月1日～平成27年3月31日 |

### 5) 叙位・叙勲

平成23年度の受章者はなし

### 6) 計 報

|       |      |             |    |
|-------|------|-------------|----|
| 原田 萬三 | 名誉教授 | 平成23年9月18日  | 逝去 |
| 鈴木 敬  | 客員教授 | 平成23年11月28日 | 逝去 |

## 2. 教職員数

### 1) 教員数 平成23年5月1日現在

#### ① 医学科

専任教員 1,170名

(内訳) 本学を本務とする者 1,144名  
日本クラブ診療所派遣中 3名  
留学中 17名  
休職中 6名

その他教員 1,329名

(内訳) 本学を本務とする者 252名  
関連病院派遣中 581名  
留学中 39名  
休職中 118名  
上記以外(名誉・客員教授・講師  
(非常勤)) 339名

#### ② 看護学科

専任教員 31名

その他教員(講師(非常勤)) 33名

### 2) 初期臨床研修医数(平成23年5月1日現在)

1年 本 院 50名  
" 歯科 3名  
青戸病院 5名  
第三病院 25名  
柏病院 27名  
合 計 110名

2年 本 院 39名  
" 歯科 3名  
青戸病院 4名  
第三病院 20名  
柏病院 21名  
合 計 87名  
総合計 197名

### 3) 職員数(看護師を含む)(平成23年5月1日現在)

大学 \* 228名  
本院 \*\* 1,558名  
青戸病院 \*\*\* 534名  
第三病院 \*\*\* 798名  
柏病院 \*\*\* 847名  
計 3,965名

常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)

◆ 法人事務局、医学科国領校、看護  
学科、慈恵看護専門学校を含む。

\*\* 晴海トリトンクリニックを含む。

\*\*\* それぞれ看護専門学校を含む。

### 4) 看護師数(平成23年5月1日現在)

|          | 正 看    | 准 看 | その他* | 計      |
|----------|--------|-----|------|--------|
| 本 院      | 1,024名 | 0名  | 54名  | 1,078名 |
| 葛飾医療センター | 353名   | 3名  | 32名  | 388名   |
| 第三病院     | 521名   | 1名  | 33名  | 555名   |
| 柏 病 院    | 561名   | 0名  | 58名  | 619名   |
| 計        | 2,459名 | 4名  | 177名 | 2,640名 |

\*事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

### 3. 教 育

#### 1) 医学部医学科学生数など（平成23年5月1日現在）

##### (1) 学生数および各学年担当教学委員

| 学年 | 定員  | 人員  | 内 訳 |     | 学年担当教学委員  | 学 生 保 健 指 導 委 員 会   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----------|---|
|    |     |     | 男   | 女   |           |   |
| 1  | 110 | 113 | 74  | 39  | 福山 隆夫 教授  | 委員長 福田国彦 教授<br>副委員長 竹田 宏 講師                                       |
| 2  | 105 | 111 | 71  | 40  | 羽山 俊彦 教授  | 【委員】<br>銭谷 幹男 教授 (総合健診・予防医学センター)<br>中村 敬 教授 (精神医学)                |
| 3  | 105 | 103 | 71  | 32  | 近藤 一博 教授  | 秋山 政晴 講師 (小児科学)<br>中澤 靖 講師 (感染制御部)                                |
| 4  | 100 | 108 | 84  | 24  | 小川 武希 教授  | 菅野みゆき 看護師 (感染対策室)<br>松澤真由子 看護師 (第三・感染制御室)                         |
| 5  | 100 | 90  | 70  | 20  | 尾上 尚志 准教授 | 小此木英男 助教 (1年担当・内科)<br>川井 真 講師 (2年担当・内科)                           |
| 6  | 100 | 101 | 82  | 19  | 宇都宮一典 教授  | 横田 邦信 教授 (3年担当・内科)<br>原 弘道 助教 (4年担当・内科)                           |
| 計  | 620 | 626 | 452 | 174 |           | 上竹慎一郎 助教 (5年担当・内科)<br>宇都宮保典 准教授 (6年担当・内科)<br>中山 和彦 教授 (2～6年担当・精神) |

(国領校：113名 西新橋校：513名)

##### (2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

|         |          |
|---------|----------|
| ・教学委員長  | 松藤 千弥 教授 |
| ・副教学委員長 | 福田 国彦 教授 |
| 〃       | 岡野 孝 教授  |
| ・学生部長   | 中川 秀己 教授 |
| ・副学生部長  | 羽野 寛 教授  |
| 〃       | 福山 隆夫 教授 |
| ・大学事務部長 | 高橋実貴雄    |

#### 2) 医学部看護学科学生数など（平成23年5月1日現在）

##### (1) 学生数および学年担当委員など

| 学年 | 定員  | 人員  | 内 訳 |     | 学 年 担 当 委 員 等         |
|----|-----|-----|-----|-----|-----------------------|
|    |     |     | 男   | 女   |                       |
| 1  | 40  | 42  | 2   | 40  | 委 員 伊藤 文之 教授 (保健指導担当) |
| 2  | 40  | 44  | 2   | 42  | 〃 羽入千悦子 講師 (1年担当)     |
| 3  | 40  | 40  | 1   | 39  | 〃 北 素子 教授 (2年担当)      |
| 4  | 40  | 40  | 1   | 39  | 〃 嶋澤 順子 准教授 (3年担当)    |
| 計  | 160 | 166 | 6   | 160 | 〃 高橋 衣 准教授 (4年担当)     |

##### (2) 教学委員長・学生部長・学事課長

|        |          |
|--------|----------|
| ・教学委員長 | 濱中 喜代 教授 |
| ・学生部長  | 藤野 彰子 教授 |
| ・学事課係長 | 深沢 博臣    |

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成23年5月1日現在）

| 学年 | 定員  | 人員  | 内 訳 |    | 大 学 院 委 員 会              |  |  |  |  |
|----|-----|-----|-----|----|--------------------------|--|--|--|--|
|    |     |     | 男   | 女  | 委 員 長：栗原 敏 学長            |  |  |  |  |
| 1  | 66  | 32  | 22  | 10 | 委 員：松藤 千弥 教授 阿部 俊昭 教授    |  |  |  |  |
| 2  | 66  | 34  | 26  | 8  | 近藤 一博 教授 細谷 龍男 教授        |  |  |  |  |
| 3  | 66  | 19  | 16  | 3  | 岡部 正隆 教授 中川 秀己 教授        |  |  |  |  |
| 4  | 66  | 25  | 16  | 9  | 矢永 勝彦 教授                 |  |  |  |  |
| 計  | 264 | 110 | 80  | 30 | オブザーバ：高木 敬三 専務理事 山田 尚 教授 |  |  |  |  |

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成23年10月1日現在）－21年4月開設

| 学年 | 定員 | 人員 | 内 訳 |    | 大 学 院 委 員 会（修 士 課 程）   |  |  |  |
|----|----|----|-----|----|------------------------|--|--|--|
|    |    |    | 男   | 女  | 委 員 長：櫻井 尚子 専攻長        |  |  |  |
| 1  | 10 | 9  | 1   | 8  | 委 員：柿川 房子 教授 櫻井 尚子 教授  |  |  |  |
| 2  | 10 | 13 | 1   | 12 | 高島 尚美 教授 茅島 江子 教授      |  |  |  |
| 計  | 20 | 22 | 2   | 20 | 永野みどり 教授（平成23年10月1日着任） |  |  |  |

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成23年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成23年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：松藤千弥（教学委員長）、福田国彦（副教学委員長、学生保健指導委員長）、岡野孝（副教学委員長）、中川秀己（学生部長、学生担当委員長）、羽野寛（副学生部長、学生担当副委員長）、福山隆夫（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、柳澤裕之（カリキュラム委員長）、福島統（カリキュラム自己点検・評価委員長）、木村直史（試験委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、靱山俊彦（2学年担当）、近藤一博（教育施設委員長、3学年担当）、小川武希（4学年担当）、尾上尚志（5学年担当）、宇都宮一典（6学年担当）、伊坪真理子

2. 平成23年度医学科の進級、卒業者

|       |      |    |    |    |          |
|-------|------|----|----|----|----------|
| 1年：進級 | 111人 | 留年 | 0人 | 退学 | 2人       |
| 2年： " | 102人 | "  | 7人 | 休学 | 1人 退学 1人 |
| 3年： " | 102人 | "  | 1人 |    |          |
| 4年： " | 102人 | "  | 6人 |    |          |
| 5年： " | 90人  | "  | 0人 |    |          |
| 6年：卒業 | 101人 | "  | 0人 |    |          |

以上の結果、平成24年度の学生数は1年－112人、2年－119人、3年－103人、4年－108人、5年－102人、6年－90人、合計634人

3. カリキュラムの改訂と経過

1年生新入生オリエンテーションの他に一泊研修を導入した。前臨床実習の実施時期を7月中旬より5月第5週～6月第1週に移動したことにより、夏休みの開始時期を1週間早めることができた。3年生社会医学Ⅰの一部（環境衛生、地域保健、保健統計、疫学、環境保健医学演習・実習）を4年生社会医学に移動した。臨床医学Ⅰユニット「画像診断学」を9コマから11コマに拡充。臨床医学Ⅰユニット「臨床実習入門」を4年次コースから5年次コースに変更。



#### 4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成23年7月11日（月）、平成23年12月19日（月）に開催された。学生会からのおもな報告は、前年度活動報告および会計報告、平成23年度予算（案）、第54回東医体実行委員会報告、平成23年度学生会活動報告、学生による教員・教育評価活動報告、学生委員によるアンケート結果報告等であった。また、設備の改善および講義配布資料の改善に関する要望があった。

#### 5. 第57回～第61回 Faculty Development

平成23年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

##### 第57回 Faculty Development

日 時：平成23年6月18日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（41名、実行委員10名）

##### 第58回 Faculty Development

日 時：平成22年6月19日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：在宅ケア実習指導者FDワークショップ

修了証受領者（12名、実行委員2名）

##### 第59回 Faculty Development

日 時：平成23年10月29日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカル・クラークシップ指導医養成

修了証受領者（30名、実行委員10名）

##### 第60回 Faculty Development

日 時：平成23年12月10日（土）

場 所：国領校

テーマ：初年次教育に関するワークショップ

修了証受領者（26名、実行委員10名）

##### 第61回 Faculty Development

日 時：平成23年12月10日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：OSCE評価者トレーニング

修了証受領者（36名、実行委員14名）

#### 6. 第52回～第53回医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

##### 第52回医学教育セミナー

日 時：平成23年6月10日（金）

場 所：西新橋校

講 演：電子カルテと臨床実習・臨床研修

堀有行教授（金沢医科大学、医学教育学）

##### 第53回医学教育セミナー

日 時：平成24年1月17日（火）

場 所：西新橋校

講 演：新型インフルエンザとの戦い-わたしたちに出来ること-進藤奈邦子教授（WHO（世界保健機構）メディカルオフィサー、東京慈恵会医科大学客員教授）

#### 7. その他の報告事項

##### 1) 新入生オリエンテーション・スタートアップ宿泊研修

平成23年4月8日（金）～10日（日）の期間で新1年生を対象としてオリエンテーションを

実施した。8日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、カリキュラム、健康管理、学生生活の諸注意、学生生活アドバイザーとのグループ討論が行なわれた。9～10日は新入生全員を対象としてスタートアップ宿泊研修をエバグリーン富士（富士吉田市）にて実施した。参加者は、学生154名（医学科112名・看護学科42名）、教職員36名の合計190名であった。（スタートアップ宿泊研修は今年度から新たに実施）。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき特別科目等履修生を受入れた。

平成23年度は国領校で前期4名、後期5名（実質7名）、西新橋校1名、合計8名のうち6名に単位を認定した。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成23年10月8日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ4～5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成24年1月14日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室および7階実習室で、CBTは平成23年2月3日（金）に西新橋校4階講堂で実施された。OSCE受験者数108名、CBT受験者数103名（欠席者1名）であった。またCBTの再試験は3名であった。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。カリキュラム全般および臨床実習、卒業試験、医師国家試験、共用試験等に関する話題を中心に継続的な交流が図られている。4校の協力で展開している戦略的の大学連携支援事業は昨年度で終了となったが、今後も継続して本交流会を開催することが確認された。平成23年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第26回平成23年5月13日（金）東京医科大学

第27回平成23年11月18日（金）東邦大学

7) オープンキャンパス

例年8・9・10月の各月の土曜日を使って3回開催されていた医学科大学説明会は、8月の金・土曜日の連日と9月の土曜日の午後1時30分から開催した。終了後、大学1号館教育施設の見学と個別相談会を実施した。

1回目：平成23年8月19日（金）中央講堂 参加者：約590名

2回目：平成23年8月20日（土）中央講堂 参加者：約550名

3回目：平成23年9月24日（土）1号館講堂 参加者：約300名

8) 教育施設

平成25年度からの看護学科入学定員増員計画に基づき、看護学科校舎増改築について検討し3月から工事が開始された（完成は平成24年12月末予定）。来年度は両学科の授業が国領校本館をメインとして使用する予定である。これに対応するために本館1階トイレの改修を実施した（2・3階トイレは平成24年度改修予定）。また、学生会からの強い要望により体育館ボイラーの改修工事を実施した。その他の教育施設では、講義室の机・椅子一部入れ替え（70台）、医学科男子学生ロッカーを更新した。（医学科女子学生ロッカーは平成24年度更新予定）。

## II. 入学試験

1. 入学試験は、平成24年2月5日（日）に五反田TOCビルで一次試験を、2月18日（土）・19日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月22日（水）午後3時に合格発表を行った。志願者数は2,507名、入学者数は112名である。入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 84名、女子 28名
- ② 現役 53名、1浪 40名、2浪 12名、その他 7名
- ③ 地域別入学者数
 

|                |     |          |    |
|----------------|-----|----------|----|
| 北海道            | 1名  | 東北地方     | 2名 |
| 東京および関東地方      | 94名 | 甲信越・北陸地方 | 3名 |
| 東海・近畿地方        | 7名  | 山陽地方     | 1名 |
| 四国地方           | 2名  | 九州地方     | 0名 |
| その他（在外教育施設等）2名 |     |          |    |

### Ⅲ. 国家試験

#### 1. 医師国家試験

第106回医師国家試験が2月11、12、13日の3日間にわたって施行され、結果が3月19日に発表され、本学は、104名中99名合格（95.2%）、新卒は101名中98名合格（97.0%）、既卒は3名中1名合格（33.3%）であった。

国・公・私立大学の総合順位では、第15位（前年は第3位）、私立大学だけでは第6位（前年は第2位）であった。他の私立大学の状況は兵庫医科大学（99.0% 1位）、自治医科大学（98.1% 2位）、慶応義塾大学医学部（98.0% 3位）、日本大学医学部（97.3% 4位）、埼玉医科大学（95.3% 5位）北里大学（95.0% 7位）、順天堂大学医学部（94.8% 8位）であった。

全国受験者総数は、8,521名、うち合格者7,688名で、合格率は90.2%（前年は89.3%）であった。

### Ⅳ. 退任記念講義

平成24年1月31日（火）午後2時00分から大学1号館講堂において開催した。

栗原 敏 教授（細胞生理学講座）

演 題：「生理学に惹かれて」

大川 清 教授（生化学講座）

演 題：「多くの出会い、たくさんの力に支えられて」

田中忠夫 教授（産婦人科学講座）

演 題：「妊娠とがんの免疫学～習慣流産からの知見～」

基礎医学並びに臨床医学の分野で活躍された栗原、大川、田中教授の含蓄ある講義に学生及び教職員一同が大変感銘を受けた。次いで松藤千弥教学委員長から同じく定年退任される6名の持尾聡一郎教授（内科学：神経内科）、坂井春男教授（脳神経外科）、小林 進教授（外科学）、内田 賢教授（外科学）、武田信彬教授（内科学：総合診療部）、白崎嘉昭教授（外国語教室：初修外国語研究室）の略歴が紹介され、羽野医学科長より挨拶があり記念品を贈呈した。また、同窓会、父兄会、医学科学生会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される9教授を囲んで退任記念パーティーが「東京プリンスホテル マグノリアホール」において開催した。会場には、教職員、同窓、学生が参集し、盛大なうちに会は終了した。

国領校では、平成24年1月21日（土）午後2時から国領校本館講堂において白崎嘉昭教授（初修外国語：ドイツ語研究室）演題「慈恵における28年」、穴澤貞夫教授（看護学科：健康科学）演題「違いを知る」、芳賀佐和子教授（看護学科：基礎看護学）演題「日本の看護教育は慈恵から始まった」、の最終講義を実施した。終了後、ベラ食堂にて記念パーティーを開催した。

#### (2) 看護学科

### I. 教学関係

#### 1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成23年4月～平成24年3月

教学委員長 濱中 喜代

教学委員 芳賀佐和子、藤野 彰子

高島 尚美、嶋澤 順子

## 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成23年度は、1年生（20期生）42名、2年生（19期生）44名、3年生（18期生）40名、4年生（17期生）40名で新学期をむかえた。
- ② 平成23年度オリエンテーションは、4月8日から16日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、健康診断や防災、防犯についての講習会、カルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。また、今年度は、4月9日、10日で医学科新入生と合同で、看護学科新入生がスタートアップ宿泊研修（山梨県富士吉田市）に参加した。
- ③ 平成23年4月16日、塚田宏氏（日本AIS協会東京支部長）による講演会（テーマ「看護を学ぶ学生に望むこと～患者からのメッセージ」）を行なった。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
  - ・前期 平成23年6月26日  
平成23年8月26日～9月1日、9月12日～15日
  - ・後期 平成24年1月31日～2月6日
- ⑤ 平成23年7月23日、19期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、中平美雪氏（東京慈恵会医科大学附属第三病院看護部・・・本学7期生）による講演会が実施され、9月3日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。また、同日保護者会も開催し、有意義な意見交換ができた。
- ⑥ 平成23年10月22日、鮫島京子氏（看護師・心理カウンセラー）による講演会「命の大切さ！笑顔で生きる喜び」を開催した。
- ⑦ 平成23年10月8日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成23年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑨ 平成23年11月26日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑩ 平成24年3月7日、兼任教員、非常勤講師を交え、講師会を開催した。
- ⑪ 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴う、教育課程の変更の申請手続きを行なった。これにより、平成24年度入学生より、保健師の教育課程が選択制となった。
- ⑫ 特色GP補助金によるコンピュータ試験を、平成24年2月28日に、1年生を対象に実施した。
- ⑬ 平成24年3月9日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、17期生39名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

## II. 入学試験

1. 平成24年度入学試験は、平成24年2月10日に一次試験を、2月14日に二次試験を実施した。志願者数は、350名、入学者は42名、その内訳は次のとおりである。
  - ① 女子 40名、男子 2名
  - ② 現役 28名、1浪 13名、その他 1名
  - ③ 地域別入学者数

|           |     |         |    |
|-----------|-----|---------|----|
| 北海道地方     | 2名  | 東北地方    | 5名 |
| 東京および関東地方 | 30名 | 信越地方    | 1名 |
| 東海地方      | 1名  | 近畿地方    | 1名 |
| 中国・四国地方   | 2名  | 九州・沖縄地方 | 0名 |
2. 平成23年度オープンキャンパスは、平成23年7月16日と17日の2日間実施し、参加者数は590名（前年比+61名）であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された2箇所大学のガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。



4. 高等学校 4 校へ訪問し、模擬講義を行なった。

### Ⅲ. 国家試験

#### 1. 看護師・保健師国家試験

第101回看護師国家試験は、平成24年 2 月19日（日）に、第98回保健師国家試験は平成24年 2 月17日（金）に実施され、その結果が 3 月26日（月）に発表された。看護師国家試験は、17期生39名、16期生 1 名の計40名が受験し、40名合格（100.0%）、保健師は17期生39名、16期生 2 名の計41名が受験し、40名合格（97.6%）であった。

なお、全国の見護師国家試験合格率は90.1%、保健師国家試験合格率は86.0%であった。

### Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を稔り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2 年生を対象とし、比較的若手の教員が 4～5 名の学生を担当し、前期・後期それぞれ 1 回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

### Ⅴ. 看護学科開設20年記念行事

平成23年10月29日、芳賀佐和子基礎看護学領域教授による記念講演「看護学科20年の歩み～慈恵看護教育の流れの中で～」、シンポジウム「開設20年を迎えて今後への期待」、懇親会が行なわれた。

## (3) 大学院

### 1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成23年度は以下のとおり実施した。

#### 1) 新研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成23年度より以下のとおりとした。

##### ① 大学院研究助成金

・助成額：「50万円」を「30万円」とした。平成23年度採択件数：12件

##### ② 医学研究科研究推進費

・研究助成期間：「3年間」を「2年間」とした。

・1 件あたりの年間助成額：「上限500万円」を「上限300万円」とした。

平成23年度採択件数：新規 2 件、継続 5 件

#### 2) 大学院教員の更新

大学院教員基準では、大学院教員の最近 5 年間の業績を評価し、更新手続きを行うことになっている。平成19年度に任用された大学院教授を対象に更新の手続きを実施し、確認した。

#### 3) 早稲田大学との連携大学院教育

医・理工融合分野において活躍する人材の育成と教育研究協力を行うため、本学大学院と早稲田大学理工学術院先進理工学研究科との連携大学院教育に関する協定を締結することが承認された

#### 4) 大学院教員へ Faculty Development の実施

大学院委員会と倫理委員会共催でFD「臨床研究に関する講習会」を実施した。

日時：平成23年 6 月21日（火）18：00～ 講師：薄井紀子

#### 5) カリキュラムの内容の検証

・社会人大学院生のニーズにより、平成23年度から共通カリキュラムに e-learning システムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入し、実施した。履修者数16名

・大学院共通カリキュラムの特別講義では、新任の教授だけではなく、本学で活躍している若手研究者を講師として講義を行った。

平成24年度の大学院（博士課程）入試は 2 回実施し、1 回目は平成23年10月 1 日に、2 回目は

平成24年1月28日に実施した。その結果、27名（うち社会人5名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国外ではカリフォルニア大学、ボストン大学、スタンフォード大学、シーダスサイナイメディカルセンター、など、国内では防衛大学校、慶應大学および放射線医学総合研究所、国立成育医療センター、国立感染症研究所など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

## 2. 看護学専攻修士課程

平成23年度は課程の安定的な運営に努めるべく研究科委員会、大学院委員会、教学委員会、FD委員会、大学自己点検・評価委員会、入学試験委員会の有機的連携と運営を図った。

また、看護学科との連携の一環として、初めて大学院・看護学科共催のFDを平成23年9月10日（土）に開催した。

「看護実践と理論について」（日本赤十字看護大学院研究科長 筒井 真優美教授）

- 1) 院生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度による使用分と研究指導費による助成により、活動の範囲や内容を高めることが図れた。大学院研究助成制度による研究助成採択者は12名。
- 2) 入学試験は、募集を平成23年8月8日（月）～9月9日（金）間に行い、出願資格認定試験を平成22年9月17日（土）、一般入学試験を平成22年9月25日（日）に実施した。その結果、13名の応募があり、11名が合格した。
- 3) 平成21年4月入学院生1名と平成22年4月入学院生の修了式を平成23年3月23日（金）に挙行した。修了者：12名。
- 4) 看護管理学分野の後任責任者に、10月1日付で永野みどり教授が就任した。
- 5) 院生による授業評価については、開設後2年間実施した評価項目に対する数値化について、実態を反映していない（記載者が特定されやすいために、院生の抑制が働くという意味）との判断から、講義終了後に科目責任者と院生が講義内容について話し合いを持つ方式に改めた。
- 6) 講義室の拡張については、大学管理棟の4階の看護学科の新橋キャンパスでの実習用施設の移転に併せて本課程の講義室を3室設置した。
- 7) 専門看護師教育課程（認定機関：一般社団法人日本看護系大学協議会所管）は、クリティカルケア看護分野、がん看護分野において、それぞれ専門看護師教育課程の認定を23年2月16日付けにて受けた。また新たに平成24年度から専門看護師教育課程の充実化のもと下記事項が追加として求められた。
  - ・ 共通科目の必修科目増（3科目）・臨床薬理学・フィジカルアセスメント ・病態生理学
  - ・ 実習時間の増加（6→10単位）（270→450時間）
 これらに対応すべく新カリキュラムWGを立ち上げ検討を行った。
- 8) 専門看護師教育課程を受講して本年に2名が専門看護師認定試験を受験し、両名ともに合格した。（分野は急性・重症患者看護分野で1名、がん看護分野で1名）

## 6) 慈恵看護専門学校の状況

### 看護専門学校学生数（平成23年5月1日現在）

|            | 学生総定員数 | 1学年定員数 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 計   |
|------------|--------|--------|-----|-----|-----|-----|
|            | 人      | 人      | 人   | 人   | 人   | 人   |
| 慈恵看護専門学校   | 300    | 100    | 104 | 95  | 120 | 319 |
| 慈恵第三看護専門学校 | 150    | 50     | 52  | 58  | 51  | 161 |
| 慈恵柏看護専門学校  | 240    | 80     | 78  | 92  | 76  | 246 |
| 計          | 690    | 230    | 234 | 245 | 247 | 726 |



## (1) 慈恵看護専門学校

### I. 教学関係

#### 1. 運営委員会

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長、慈恵会局長の5名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任、とカリキュラム委員5人で構成され週1回開催されている。

#### 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成23年度1年生(62期生)104名、2年生(61期生)95名、3年生(60期生)120名、で新学期をむかえた。
- ② 平成23年度オリエンテーションは4月6日から4月21日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防災訓練を実施した。
- ③ カリキュラム改訂  
平成21年度入学生より新規カリキュラム(97単位)を導入。平成23年度は3学年ともに新カリキュラムの運営となった。統合科目を開講した。新カリキュラムの内容については教授内容の評価修正を行なった。3年生の臨地実習において基礎看護教育と臨床を繋ぐ統合実習を開始した。複数患者受持ち、看護管理実習、夜間実習などを行った。旧カリキュラム未履修科目を持つ者が単位を新カリキュラムの教授内容で履修できるよう単位互換の整理、および対象学生へのガイダンス、学習支援を行った。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
  - ・前期 平成23年9月15日～9月24日
  - ・後期 平成23年12月15日～12月17日  
平成23年12月19日～12月20日  
平成24年2月13日～2月20日
- ⑤ 平成23年10月28日には東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会(普門館)に2、3年生が参加。本学の学生2名が発表した。
- ⑥ 平成23年10月25日、26日、3年生の学外セミナーを実施。「ケアの本質」について話し合い看護についての学びを深めた。
- ⑦ 平成23年11月9日看護研究発表会、平成24年3月6日看護観発表会を3年生が行った。
- ⑧ 平成24年3月10日に卒業式が行なわれ、102名が卒業し成績優秀者に優等賞と同窓会恵和会賞がそれぞれ1名に贈られた。

### II. 入学試験

#### 1. 平成24年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考 [一次]平成23年10月24日(月) [二次]平成23年11月12日(土)

一般選考 [一次]平成24年1月18日(水) [二次]平成24年1月21日(土)

志願者数は409名(推薦93名・大学卒100名・一般216名)昨年度より推薦選考志望者が9名増加した。入学者は102名(推薦67名・大学卒7名・一般28名)であった。

#### 2. 平成23年度オープンキャンパスは、平成23年7月23日(土)・9月3日(土)の2回実施し、参加者数は527名(内訳は7月294名、9月233名)であった。

#### 3. 予備校主催入試ガイダンス等は、7月に6箇所、12月に2箇所、分担して教員・事務員が参加した。

### III. 国家試験

第101回看護師国家試験は、平成24年2月19日(日)に実施され、その結果が3月26日(月)に発表された。60期生102名が受験し、101名が合格した。

## (2) 慈恵第三看護専門学校

### I. 教学関係

#### 1. 会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学年主責任者、事務長で構成され、毎月約1回のペースで開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム会議、臨床実習指導者会議等である。

#### 2. 教学関連の主な事項

- ① 4月5日(火) 3校合同入学式が西新橋で行われ、当日、保護者会を開催した。平成23年度1年生(22期生)52名、2年生(21期生)58名、3年生(20期生)51名計161名で新学期をむかえた。
- ② 5月28日3校交流会を新橋校で開催した。
- ③ 6月8日～10日、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ④ 6月4日、橋本 正次による「身元確認から見た日本人の文化」のテーマで恵和会特別講演を3校学生対象に開催した。
- ⑤ 7月16日、3年生保護者会を開催し看護師国家試験の現状と対策を理解していただき、学生が実習や学習に集中できるように協力してもらうための機会とした。
- ⑥ 7月23日、9月17日、11月6日(学校祭同時開催)の3回、学校説明会を開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め392名であった。
- ⑦ 11月22日、理事長同席のもと1年生52名の戴帽式を実施した。
- ⑧ 12月10日、第5回HomeComingDayを6階大教室で開催し、卒業生教職員合わせて30名の参加があった。
- ⑩ 平成24年3月10日2校合同の卒業式が西新橋で行われた。20期生45名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

### II. 入学試験

平成24年度入学試験は、推薦入試を平成23年11月17日(木)・11月26日(土)、一般入試を平成24年1月15日(日)・1月17日(火)に実施した。

志願者数は推薦57名、一般171名、入学者は50名であった。

### III. 国家試験

第101回看護師国家試験は、平成24年2月19日(日)に実施され20期生45名と既卒者2名受験し全員が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は90.1%であった。

## (3) 慈恵柏看護専門学校

### I. 教学関係

#### 1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

#### 2. 教学関連の主な事項

- 1) 平成23年4月5日(火)、3校合同入学式を挙行了した(25期生:入学者77名)。
- 2) 平成23年度は1年生(25期生)77名、2年生(24期生)92名、3年生(23期生)75名の計244名で新学期を迎えた。
- 3) 4月6日(水)、平成23年度始めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。
- 4) 4月4日(月)に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。

- 5) 5月28日(土)に、慈恵看護専門学校5階大教室において3校合同交流会を行なった。今回はセーフティマネジメント教育・研修の一環として「チームステップ」と題し、グループワークを行った。
- 6) 6月14日(土)に慈恵看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。
- 7) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1年次の7月と3年次の5月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。
- 8) 安全教育の一環として大学主催の「チーム医療構築ワークショップ」へ3年生が年2回10名ずつ参加した。また、「医療安全と看護技術」の科目の中で医療安全について16時間の講義演習を実施した。
- 9) 平成23年10月1日(土)、学習支援対策の共同を目的として、3年生の保護者を対象とした保護者会を開催した。
- 10) 平成23年11月19日(月)、1年生(25期生)の戴帽式を挙行了(戴帽生77名)
- 11) 平成24年3月10日(土)、2校合同の卒業式を挙行了。23期生70名が卒業生し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より、千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

## II. 入学試験

1. 平成24年度推薦入学試験は、1次試験を平成23年10月26日(水)、2次試験を11月5日(土)に実施した。志願者数70名、合格者50名であった。
2. 平成24年度一般入学試験は、1次試験を平成24年1月28日(土)、2次試験を1月31日(火)に実施した。志願者数283名、合格者46名であった。
3. 推薦入試・一般入試を実施した結果、24年度の入学者は80名であり、その内訳は次の通りである。
  - (1) 現役72名、既卒者8名(内大卒5名、高卒3名)
4. 平成23年度学校説明会は、平成23年5月・7月・8月の3日間実施し、参加者数は252名であった。
5. 学生確保を目的とし、推薦入学した在学生の出身高等学校15校(千葉県10校、茨城県2校、埼玉県3校)に対して学校訪問を行った。
6. 予備校等で開催された学校相談会に出席し約120名の相談を受け付けた。また、7月～10月の土曜日に臨時の学校見学を受け入れ、約116名の参加を得た。

## III. 看護師国家試験

1. 第101回看護師国家試験は平成24年2月19日(日)に実施され、結果が3月26日(月)に発表された。23期生70名が受験し、68名が合格した(合格率97.1%)  
なお、全国の看護師国家試験合格率は95.1%であった。

## IV. 学生関係行事

- 1) 4月12日(火) 1年生健康診断実施
- 2) 4月19日(火) 2・3年生健康診断実施
- 3) 9月3日(土) 体育祭を実施
- 4) 10月22日(土) 秋芳祭を実施(講演会)
- 5) 10月22日(木) キャンドルサービスを実施

## V. 学校長、参与、副校長、教務主任、事務長

|          |       |     |
|----------|-------|-----|
| ・校 長     | 佐々木 敬 | 教授  |
| ・参 与     | 吉田 博  | 准教授 |
| ・副 校 長   | 山下 紳子 | 教員  |
| ・教 務 主 任 | 齊藤真梨恵 | 教員  |
| ・事 務 長   | 内山 茂雄 | 事務員 |

## VI. 看護専門学校学生数（平成23年 4月 5日現在）

|           | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 計   |
|-----------|-----|-----|-----|-----|
| 慈恵柏看護専門学校 | 78  | 92  | 76  | 246 |

\* 在籍者数である。

### 7) 卒後臨床研修

#### 1. 初期臨床研修

- 1) 平成23年度初期臨床研修医として、医科107名（本学卒67名、他学卒38名、定員外2名）、歯科3名の計110名が採用され、平成23年4月1日より研修を開始した。

附属4病院の採用数の内訳は以下の通りである。

本院 53名 内訳：本学卒19名、他学卒34名（定員外2名、歯科3名を含む）

定員：一般47名、小児2名、産科2名、歯科3名（計54名）

青戸病院 5名 内訳：本学卒5名

定員：一般6名（計6名）

第三病院 25名 内訳：本学卒21名、他学卒4名

定員：一般21名、小児2名、産科2名（計25名）

柏病院 27名 内訳：本学卒22名、他学卒5名

定員：一般24名、小児2名、産科2名（計28名）

- 2) 本院では、定員外採用として、ロンドン大学医学部を卒業後、英国にて臨床研修を修了した日本人医師2名を採用した。両名とも、英国での臨床研修が日本の臨床研修期間の一部として厚生労働省より認定されたため、平成23年12月31日付にて研修修了となった。

- 3) 平成24年度初期臨床研修医（医科）の採用試験を7月30日（土）、8月20日（土）に本院にて実施した。平成24年度の募集定員は以下の通りである。

本院：51名（一般47名、小児2名、産科2名）、青戸病院：6名、第三病院：25名（一般21名、小児2名、産科2名）、柏病院：28名（一般24名、小児2名、産科2名）。

附属4病院の定員である110名の採用を見込み217名のマッチング登録を行なった結果、マッチ数は107名であった。その後、追加募集を実施し2名を内定（第三病院2名）とした。

- 4) 平成24年度初期臨床研修医（歯科）の採用試験を8月27日（土）に本院にて実施した。定員3名のところ、5名のマッチング登録を行ない、マッチ数は定員と同数の3名であった。

- 5) 採用予定者の大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果、平成24年度初期臨床研修医採用数は、医科102名（本学卒59名、他学卒43名）、歯科3名となった。

附属4病院別の採用数は下記の通りである。

本院 50名 内訳：本学卒12名、他学卒38名（定員外2名、歯科3名を含む）

定員：一般47名、小児2名、産科2名、歯科3名（計54名）

葛飾医療センター 6名 内訳：本学卒5名、他学卒1名

定員：一般6名（計6名）

第三病院 24名 内訳：本学卒19名、他学卒5名

定員：一般21名、小児2名、産科2名（計25名）

柏病院 25名 内訳：本学卒23名、他学卒2名

定員：一般24名、小児2名、産科2名（計28名）

- 6) 第8回研修指導医講習会を平成23年8月12日（金）、13日（土）の2日間にわたって開催し、40名が受講、受講者全員が修了した。

なお、本講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催し、修了者には厚生労働大臣名および附属病院長名による修了証を授与した。

- 7) 他大学医学科生向けに病院説明会を2回開催し合計86名の参加者を集めた。

第1回説明会 平成23年7月2日（土）

第2回説明会 平成23年7月16日（土）

- 8) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『医学生のための臨床研修病院説明会・レジナビフェア2011in東京』（平成23年7月17日開催）に参加し、本学4附属病院のブースには210名（昨年227名）の学生が来訪した。
- 9) 今年度のCPCについて、6月から11月にかけて計6回開催した。

| 開催回数  | 開催日      | 担当科        | 臨床診断名         |
|-------|----------|------------|---------------|
| 第708回 | 6月6日（月）  | 小児科        | ポンペ病          |
| 第709回 | 6月27日（月） | 泌尿器科       | 右腎癌           |
| 第710回 | 7月4日（月）  | 呼吸器内科      | 肺癌多発性骨転移化学療法後 |
| 第711回 | 9月5日（月）  | 神経内科       | Lewy小体型認知症、肺炎 |
| 第712回 | 10月3日（月） | リウマチ・膠原病内科 | 右尿管癌、皮膚筋炎     |
| 第713回 | 11月7日（月） | 感染制御部      | AIDS          |

## 2. 専門修得コース（レジデント）

- 平成23年度は、レジデント144名[本学初期臨床研修修了者74名、他施設初期臨床研修修了者70名（うち本学卒25名）]を採用し、各科にて専門修得コースの研修を開始した。
- 平成23年7月31日付および9月30日付にて各々レジデント1名、平成24年3月31日付にてレジデント108名、リサーチレジデント2名の合計112名が専門修得コースを修了した。
- 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『初期研修医のための研修病院説明会・レジナビフェアforRESIDENT2011in東京』（平成23年6月12日開催）に参加し、本学附属病院ブースには74名が来訪した。
- 平成24年度レジデントの採用試験を平成23年9月24日（土）に実施し、その後3回の追加試験を行った結果、135名（前年比-11名）を採用した。採用者の内訳は次の通りである。  
本学初期臨床研修修了者79名、他施設初期臨床研修修了者56名（うち本学卒27名）、大学院単位取得者0名

## 8) 生涯学習センター

- 登録者数：平成24年3月現在226名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 利用者数：平成23年度は127名である。
- テレフォンサービス利用件数：平成23年は71件である。
- 月例セミナーが下記のとおり開催された。
  - 第192回・平成23年4月9日  
糖尿病合併症の治療  
宇都宮 一典（糖尿病・代謝・内分泌内科）
  - 第193回・平成23年5月14日  
薬疹の最新知見  
上出 良一（皮膚科）
  - 第194回・平成23年6月11日  
抗菌薬投与法はどう変わってきたか？  
～PK-PDをふまえて～  
堀 誠治（感染制御部）
  - 第195回・平成23年7月9日  
女性のうつ病  
中山 和彦（精神神経科）
  - 第196回・平成23年9月10日



慢性疼痛の薬物治療

：NSAIDsから麻薬まで

北原 雅樹（ペインクリニック）

⑥ 第197回・平成23年11月12日

腹腔鏡手術の応用と展望

穎川 晋（泌尿器科）

⑦ 第198回・平成24年3月10日

ここまで治る、こどもの心臓病

森田紀代造（心臓外科）

5) 第32回夏季セミナー

「医療ネットワークの現状と展望」が平成23年8月6日（土）午後4時より田中忠夫教授（産婦人科）の司会で行われ、参加者は52名であった。

1. がん診療 相羽 恵介（腫瘍・血液内科）
2. 心臓病 南井 孝介（循環器内科）
- 3-1. 脳卒中・急性期 高尾 洋之（脳神経外科）
- 3-2. 脳卒中・回復期 安保 雅博（リハビリテーション科）
4. 慈恵医大における病診連携ネットワーク 常喜 達裕（脳神経外科、患者支援・医療連携センター）
5. 懇親会



## 4. 研 究

### 1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および科学研究費補助金等公的研究費のほか各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会に提案、報告している。また、委員会は研究費の不正防止計画担当部署として、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく研究費管理の体制整備等の推進と運用の徹底を推進している。
- ① 平成23年度の委員会は、委員長：岡部正隆、委員：羽野寛、柳澤裕之、相羽恵介、井田博幸、寺坂治、北素子各教授及び高木敬三専務理事で構成された。
  - ② 平成23年度文部科学省科学研究費助成事業の採択件数及び総額は、合計141件、総額264,290千円（間接経費含む）であった。また、厚生労働科学研究費補助金および関連独立行政法人の研究開発費等について採択後大学が経理事務を行った研究課題は、合計48件、総額にして249,158千円（間接経費含む）だった。その他各種民間財団等から公募があり大学を通じて応募、あるいは研究者個人が直接応募して報告を受けた助成金等は、18件（応募件数108件）、金額は34,000千円であった。
  - ③ 平成23年度科学研究費助成事業に採択された研究者に対し学内説明会を開催した。
    - ・学術助成基金助成金交付申請等説明会（5月11日）
    - ・科学研究費助成事業使用説明会（6月14日柏病院、6月16日第三病院・国領校、看護学科、6月21日・7月2日西新橋）
  - ④ 平成24年度科研費補助金公募に係る学内説明会を9月22日に開催した。
  - ⑤ 平成24年度教育研究経費関係予算の立案および研究機器等の選定を行った。
    - ・学生教育用実習機器購入費
    - ・文部科学省私立大学等研究設備費等補助金費
    - ・慈恵大学一般研究設備費
    - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
    - ・日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」
    - ・私立大学等経常費補助金（特別補助）
  - ⑥ 公募研究の学内選考を行った。
  - ⑦ 検収担当者について  
公的研究費等による購入物品の納品検収について、西新橋キャンパスでは大学1号館玄関の附室で実施している。この納品検収は、大学全体として研究者を支援する体制とし、基礎および臨床各講座から選任された一部の研究補助員、研究技術員等常用職員の輪番制により実施されているが、産休や退職などで担当者が減少してきたため、各講座に所属する常用の研究補助員、研究技術員全員が検収業務を担当することにした。
  - ⑧ 「研究費に関する主なQ&A」作成について  
研究費使用についての日常よくある問い合わせや相談事項等に関するQ&Aを取りまとめて学内イントラネット「研究推進のページ」に掲載した。
  - ⑨ 科学研究費補助金の経理管理・監査実施状況等実施検査の対応  
平成23年9月7日、文部科学省研究振興局学術研究助成課企画室研究推進係による科学研究費補助金経理管理・監査の実施状況についての立ち入り検査が実施された。
  - ⑩ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」について平成23年10月3日に文部科学省に提出した。
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトへ申請選定等）を審議している。
- ① 平成23年度の委員会は、委員長：岡部正隆教授、委員：阿部俊昭、森山寛、田尻久雄、

水之江義充の各教授と高木敬三専務理事で構成された。

- ② 平成23年度に委員会が審査を実施し、応募申請した大型研究プロジェクト事業は次のとおりであった。

- ・武田科学振興財団「特定研究助成金」
- ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

※私立大学戦略的研究基盤形成支援事業については2件の研究課題が採択された。

- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。

- ① 平成23年度の委員会は、委員長：水之江義充教授、委員：阿部俊昭、森山寛、田尻久雄、岡部正隆の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
- ② 平成23年度は7件の発明の届出があった。何れの発明についても特許権等の権利を大学が承継することになった。なお、共同出願している発明のうち、平成23年度国内特許登録となったものが、3件あった。
- ③ 共同発明特許の出願企業が権利を放棄することになり、大学が特許権等を承継した国内特許のうち1件について発明者に権利を譲渡することにした。

## 2) 総合医科学研究センター

総合医科学研究センター各研究施設では、本学の特色ある研究と臨床に還元できる先進的な研究が積極的に進められている。平成23年度は、センター内に再生医学研究部が設置されiPS細胞の利用や再生医学の臨床研究体制が構築されるなど、学内研究の活性化がより一層図られた。なお、3研究所（DNA医学研究所・高次元医用画像工学研究所・臨床医学研究所）の活動状況は次のとおりである。

### (1) DNA医学研究所

概要：DNA医学研究所は6研究部（遺伝子治療、分子免疫学、悪性腫瘍治療、分子細胞生物学、分子遺伝学、臨床情報部）と、1プロジェクト研究部（腎臓再生研究室）からなる。平成23年度は科学研究費等公的研究費18件、公益財団等からの研究費7件を獲得した。研究成果は論文発表され、このうち英語論文は40編であった。更なる研究活性化を目指してDNA医学研究所セミナーを18回開催した。このうち4回は学内及び学外の研究者を招請して行った。また、各部は学部及び大学院の教育に講義、演習、実習、研究で参加した。研究は主として下記の疾病に対する診断および先端的治療法の開発を行った。

- ① 悪性腫瘍：前立腺がんに対する新規腫瘍マーカーの検索。ナノ粒子を使った甲状腺癌の高精度・高感度・迅速診断法の開発。iPS細胞ワクチンを用いた腫瘍血管標的免疫療法の開発。機能的ペプチド配列から構成される人工蛋白質を用いた腫瘍免疫法の開発。巨核芽球性白血病の分子生物学的解析と分化誘導療法の開発。脳腫瘍に対する超音波医療のための核酸デリバリーシステムの開発。膵臓がんに対する遺伝子治療法の開発。超音波を利用した脳腫瘍治療法の開発。薬剤耐性機構の解明。臨床研究としては消化器内科との共同でWTワクチンと抗腫瘍薬の併用による臨床治験を継続した。さらに、GMP施設を使用した臨床治験として、樹状細胞をワクチンで刺激した新たな研究と脳腫瘍に対する樹状細胞・腫瘍細胞の融合を用いた免疫療法を継続して行った。
- ② 遺伝病・再生医療：遺伝病寄附講座との共同でライソゾーム病に対し、疾病由来のiPS細胞を作製した。ライソゾーム蓄積症の治療法の心大血管病変に対する効果の比較検討。血中難溶性ユビキチン化タンパク質の測定によるポンペ病骨格筋病変評価法の開発。腎臓再生医療では大型哺乳動物を用いたヒト腎の作製を試みた。
- ③ 免疫・アレルギー：花粉症や食物アレルギーなどの分子機序解明とその治療法の開発。スギ花粉症緩和剤の経口投与による有効性・安全性の評価、および臨床治験の準備をした。
- ④ 他の進行中の研究として、脊髄性筋萎縮症の病因解明とその治療法の開発。蛍光シリコンナノ粒子の開発などが行われた。

## (2) 高次元医用画像工学研究所

高次元医用画像工学研究所は、生体内部の詳細な立体構造やその動態を可視化できる三次元・四次元画像技術を用い、十年後の未来の医療を少しでも早く臨床応用できるように研究活動を行なっている。

本年度は、経済産業省委託事業である「内視鏡下手術支援システムの研究開発プロジェクト」が最終年度を迎え、最終評価へ向けて、内視鏡型手術ロボットやそのトレーニングシステムをより臨床適用へ近づけるためのさまざまな研究開発を行なった。また文部科学省科学研究費・新学術領域研究（研究領域提案型）の「医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治療支援の高度化」研究プロジェクトは3年目となり、計算解剖学の応用分野を担当するわれわれは腹部外科領域における術中ナビゲーションシステムへ計算解剖学を活用した研究開発を行なった。また本学外科学講座、耳鼻咽喉科学講座、形成外科学講座との共同研究において、次世代型術中ナビゲーションシステムの研究開発を第三病院内のハイテクナビゲーション手術室での臨床試験と並行して行なった。三次元画像解析技術の法医学領域への応用を目指した研究開発も本学法医学講座と共同で引き続き行ない、殺人未遂事件における被害者の創傷の解析をX線CT画像により実施し、裁判用の鑑定資料を作成した。なお、今年も多く国内外からの研究者、政府関係者などの見学者を研究所に迎え、今後の共同研究体制構築、協力関係の構築を行った。また年度内に複数のテレビ局の科学系番組により研究所内の研究開発の状況や研究のポリシーなどが放映され、結果として一般の方々への研究活動の啓蒙が実施された。

## (3) 臨床医学研究所

「患者さん中心の最高・最善の医療を研究面から支援し、かつ推進する」という理念の下、平成23年度は、専任教員（専任研究員）として常勤2名、兼任2名、事務、技術職員（計3名）のほか、総合診療部、中央検査部、消化器・肝臓内科、循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科など柏病院診療部ならびに大学に所属する教職員が一般研究員として登録・参加し、それぞれの研究テーマに取り組み成果を上げた。さらに他施設との共同研究も積極的に進められている。以下、代表的研究内容を記す。

- ① 酸化ストレス誘導性の肝腫瘍原性遺伝子に関する機能解析：分子標的治療への基礎的検討（基盤研究C）
- ② 肝内・銅代謝におけるATP7Bの局在解析と機能解析
- ③ 肝細胞におけるribavirin transporterの同定・機能解析及びC型慢性肝炎療法におけるTransporter gene SNPsの意義に関する研究
- ④ 肝疾患の新規治療及び疫学に関する多施設共同研究（厚労省他）
- ⑤ がんの診断や治療を目指した磁性ナノ粒子の開発（産業技術研究助成事業（新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO））
- ⑥ 次世代ナノ診断・治療を実現する「有機・無機ハイブリッド籠型粒子」の四次元精密操作（先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム））
- ⑦ 放射性セシウムを効率よく迅速回収できる磁性除染剤の実用化（DOWAテクノフェンド）  
その他、我が国の食事の抗動脈硬化としての有用性、高免疫原性細胞ワクチンと化学療法との併用療法の確立、動脈硬化リスクの評価におけるLp(a)コレステロールの意義（基盤研究C）、新規抗菌薬療法による潰瘍性大腸炎の粘膜フローラの変化と治療効果の研究、心筋障害における可溶性LR11のバイオマーカーとしての可能性の探求などガン、動脈硬化、炎症の分野を中心に臨床に直結する研究を行なった。



## 5. 診 療

### 1) 病院概況

(1) 本 院 (院長:森山寛、副院長:細谷龍男、落合和徳、橋本和弘、丸毛啓史、高橋則子、事務部長:今出進章)

(1) 患者数

① 外来1日平均患者数:3,020名 (対前年度比+17名)

② 入院1日平均患者数:904名 (対前年度比+11名)

(2) 病床利用状況

平成23年度の病床利用率は稼働床1,051床に対して86.0%(昨年比+0.9%)、平均在院日数は、11.6日(昨年比-0.2日)であった。

(3) 患者紹介率

平成23年度の紹介率は年間平均で医療法54.0%(昨年比+0.9%)、保険法43.6%(昨年比+0.1%)であった。

(4) 初期臨床研修

平成23年度採用者は医科50名(内訳:本学卒19名、他学卒31名)、歯科3名の計53名であった。

(5) 行政監査・指導・検査

① 医療法第25条第1項による特定機能病院の立入検査(東京都) (平成23年11月2日)

② 医療法第25条第3項による特定機能病院の立入検査(関東信越厚生局)  
(平成23年11月2日)

③ 精神病院等実地指導 (平成23年11月2日)

(6) 先進医療(高度医療含む)

新規申請・承認(申請4件、承認3件)

① 先天性難聴の遺伝子診断(耳鼻咽喉科) 平成23年7月27日付承認

② 早期胃癌におけるセンチネルリンパ節を指標としたリンパ節転移診断と縮小手術の有  
用性に関する臨床試験(消化管外科) 平成23年8月申請中(新規高度医療)

③ パクリタキセル静脈内投与、(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチ  
ン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法(産婦人科)

平成23年12月28日付承認

④ パクリタキセル腹腔内投与反復投与療法(消化管外科) 平成23年1月28日付承認

(7) 臨床研究、保険適用外診療(平成23年度審査状況)

承認件数:新規申請167件、変更申請(期間延長など)73件

(8) 病院改修について

・中央棟5階核医学検査室-2に鉛入り防護扉を設置 (平成23年4月28日)

・外来棟3階グループ診療室を処置室へ用途変更及び改修 (平成23年6月20日)

・中央棟7階CCU病床を4床⇒6床に増床 (平成23年8月1日)

・外来棟1階外来会計、お薬呼出窓口の改修 (平成23年10月11日)

・外来棟1階CT13室ダクト改修 (平成24年1月12日)

・E棟6階(5616・5620)、9階(5917・5918)、中央棟16階(1603・1605)の個室陰圧化工事  
(平成24年2月1日)

(9) 地域がん診療連携拠点病院の指定について

がん診療の充実を図るため、平成23年4月に腫瘍センターを設置。併せて地域がん診療  
連携拠点病院の指定に向けたWG活動による作業を進めた結果、3月9日に厚生労働省  
で開催された検討会において推薦を得、平成24年度からの厚生労働大臣の指定を受ける  
に至った。

(10) 医療安全管理

① セーフティマネジメント委員会、4病院セーフティマネジメント会議、フロアセーフティ  
マネージャー会議、医療安全運営会議等を主管し、医療問題発生防止並びに医療安全推

進活動を実践した。(通年)

- ② 発生した医療安全問題について、必要に応じて関係者を招集し、問題点の検証や以後の対策を組織として決定し、実践した。(通年)
- ③ パソコンによる医療問題の発生源入力システム safe master を利用した問題事例の収集と分析を通じ、再発防止策を立案し実践した。(通年)
- ④ 基礎研修、一般研修、専門研修の3部門より構成されるセーフティマネジメント教育・研修計画を策定し、年度内に一人2回以上の出席を目標に開催した。  
また、出席時に配布するシールを各部署の一覧表に貼付して管理した。(通年)
- ⑤ システム工学の見地からみた医療問題分析手法について、東大・早大・慈恵共同研究を継続した。(通年)
- ⑥ 医療安全院内ラウンドを実施した。
  - ・全外来・中央診療部門、病棟、手術部門、診療支援部門対象ラウンド
  - ・附属病院間の相互ラウンド
  - ・私立大学病院間の相互ラウンド
- ⑦ 全ての教職員や委託・派遣職員に対し、携帯版セーフティマネジメントマニュアルを配布し、医療安全に必要な事項の周知徹底を図った。(平成23年4月)
- ⑧ 医療安全推進週間を実施した。(平成23年11月)

#### (11) 院内感染対策

- ① 感染対策強化病棟への介入  
ICU、NICUを中心に感染リスクの高い部署に対しデータのフィードバックと改善のための支援を行った。
- ② サーベイランスの実施  
サーベイランスを行い医療処置感染の発生状況の把握とフィードバックを実施した。
- ③ 教育啓発活動  
感染対策の基本の周知徹底をはかるため、本年度も感染対策ベーシックコース(Ver.2)をはじめ集合研修を20回、各部署への出張で72回開催した。その他、医療安全推進室との共催で研修会を10回開催し、合計4,961名の参加があった。
- ④ 抗菌薬適正使用の推進  
広域スペクトラム抗菌薬については投与症例をラウンドし、適正使用の推進を行った。
- ⑤ 職業感染対策  
結核についてはハイリスク部署(呼吸器内科・感染制御部医師および看護師、救急部医師および看護師、放射線技師、放射線部看護師等)教職員に対するQFT検査を実施した。
- ⑥ 学校法人慈恵大学総合感染対策会議の設置  
慈恵各機関における感染予防・拡大防止に関する情報の共有ならびに緊急対応を効率的に行うことを目的とした「学校法人慈恵大学総合感染対策会議」の設置に際し、主管部署として会議開催および各委員への連絡等の調整業務にあたった。
- ⑦ 私立医科大学病院感染対策協議会関連業務  
協議会事務局として総会・運営委員会・各専門職部会等、それぞれの運営について中心となり活動を行った。また、中澤室長・美島ICNがサイトビジット調査員として埼玉医科大学・帝京大学・大阪医科大学の3施設を訪問した。

#### (12) 保険関係承認・届出関係

- ① 強度変調放射線治療(IMRT)(平成23年5月1日)※新規届出
- ② 画像誘導放射線治療加算(IGRT)(平成23年6月1日)※新規届出
- ③ 特別の療養環境の提供実施報告(平成23年6月1日)※差額室料金改定に伴う届出
- ④ 回数を越えて受けた診療実施報告(平成23年7月28日)※リハビリ料金改定に伴う届出
- ⑤ 在宅血液透析指導管理料(平成23年9月1日)※新規届出
- ⑥ 特定集中治療室管理料1(平成23年9月1日)※CCU4床→6床への増床に伴う届出

- ⑦ 特別の療養環境の提供実施報告（平成23年9月1日）※差額室料金改定に伴う届出  
その他、施設基準に係る新規・変更・辞退届出等、合計18項目の届出と定例報告を行った。
- (13) 患者支援・医療連携センター
- ① 院内改修工事の兼ね合いからセカンドオピニオン室の一室として患者支援・医療連携センター面談室内にシャーカステン等を設置し、環境整備を整えた。（5月）
  - ② 在宅療養支援部門において看護専門学校生の実習受け入れを開始した。（5月～9月）
  - ③ 近隣医療機関へ医療連携強化のための戸別訪問を実施した。（7月～平成24年2月）
  - ・ソーシャルワーカー部門（9施設）、医療連携部門（同窓会支部長訪問・13施設）
  - ④ 医療機関情報に関するアンケート調査を1都3県の医療機関（計1,345件）に対して郵送にて実施した。（平成24年1月）
  - ⑤ 東京都慢性腎臓病対策事業に係る事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。
  - ・医療従事者向け研修会を開催した。（平成24年2月）
  - ⑥ 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。
  - ・総会、広報誌作成委員会、作業部会（3回）、区民公開講座を開催した。
  - ・広報紙は、区中央部医師会事務局を訪問し協力要請を行った。（4月～平成24年3月）
  - ⑦ CPAPに関連した未受診患者の対策を講じた。（11月～平成24年3月）
  - ⑧ PFMシステム整備、スクリーニングシートの運用について平成23年度内に取り纏め、24年度より運用開始することになった。（11月～平成24年3月）
  - ⑨ 平成22年度に引き続きソーシャルワーカー部門が主体となり、子ども虐待対応チーム（CAPS）新設に向けたワーキンググループを3回開催した。平成24年度より運用開始となることとなった。（11月～平成24年3月）
  - ⑩ 同窓開業医マップの作成に向けて協議、検討し、平成24年度より始動することとなった。  
なお、本件は、同窓会理事会の承認を得ている。（平成24年3月）
- (14) 臨床試験支援センター
- ① 治験の実施：継続54件（前年比+17）、新規承認24件（-5）、終了21件（+7）  
継続及び新規承認78件のうち、国際共同治験は37件（47%）前年比+19%であった。
  - ② 臨床研究への支援：4件  
前年度と同じプロトコルの継続で、主に被験者対応・症例報告書の作成を行った。
  - ③ SMO（治験施設支援機関）の派遣CRC導入治験：11件（13%）前年比+5件  
定期的に新規治験の依頼がある皮膚科と、周手術期など短期間に業務が集中する医療機器の治験にSMOを導入し、円滑な治験実施をサポートした。
  - ④ 治験審査委員会委員を対象とした、勉強会の実施：3回
  - ⑤ 治験開始時のミーティングの開催：21件
  - ⑥ 外来プラズマ・ディスプレイへの治験・臨床試験関連の情報提供
  - ⑦ インターネット・ホームページを介して、一般市民向けおよび治験依頼者向けに、治験の情報提供、治験契約に係る書類等の案内を掲載した。
- (15) 診療体制の整備
- ① 文書カウンターの開設  
医師事務作業の軽減の一環として、平成23年5月18日外来棟1階外来会計内に設置。
  - ② 病棟関連事務業務効率化検討会  
平成23年度配置計画病棟（中央棟16H～21H）については、業務融合に伴う配置を完了し、完成形である2病棟3人体制への移行を開始した。また、平成24年度計画病棟の一部について前倒しで計画を開始した。
  - ③ 外来関連事務業務効率化検討会  
平成23年8月31日付で看護部より外来事務業務効率化に関する提案項目について、メッセージ業務、カルテ横搬送など改善を行い、業務効率化・簡素化が図られた。なお、本検討会は概ねの目的が達成されたので発展的に解散。今後は、文書カウンターWG



を中心に、文書の代行登録の適応疾患を拡大するなど、医師の事務作業軽減に繋がる業務に積極的に関与する。

- ④ 6 E病棟・9 E病棟・16H病棟各個室2床を陰圧室へ改修し、感染症流行時の対策を行った。(平成24年2月1日)
- ⑤ 循環器系ハイリスク症例増に伴い、7 HCCU病床を4床⇒6床へ増床し、平成23年8月1日より運用開始した。

(16) 患者サービス

- ① 外来待ち時間調査を実施した。(平成23年10月28日)
- ② 外来患者満足度調査を実施した。(平成24年2月16日、17日)
- ③ 入院満足度調査を実施した。(平成24年2月1日～29日)
- ④ 入院患者向けフロアコンサート(高木会館1階ロビー)
  - ・平成23年6月25日(土) 渡邊加奈さん、三上繭子さん(フルートとオカリナ演奏)
  - ・平成23年12月10日(土) 教職員等による有志
  - ・平成23年12月22日(木) 原田真二さん(歌手)
- ⑤ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第27号(平成23年4月)第28号(平成23年6月)第29号(平成23年10月)第30号(平成24年1月)を発刊した。
- ⑥ 「新みんなの健康教室」を開催した。※NHK放送博物館と共催
  - 1.日 時：平成23年6月18日(土)(第4回) 参加者41名
  - 2.日 時：平成23年10月8日(土)(第5回) 参加者26名
  - 3.日 時：平成24年2月9日(木)(第6回) 参加者36名
- ⑦ 平成23年4月10日の統一地方選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成23年4月7日(木)を中心に実施し、104件の申し込みがあった。

(17) 医療安全講演会、シンポジウムの開催について

【初期臨床研修医対象】

- ① 平成23年4月4日 初期臨床研修医オリエンテーション
- ② 医療安全研修医カンファレンス(小グループに分かれての警鐘事例の考察と発表)3回開催

【新規採用教職員・転入職員対象】

- ① 平成23年4月1日 新入職員オリエンテーション(全機関新入職員)
- ② セーフティマネジメント基礎研修会 2回開催
- ③ 平成23年11月15日 新入職員研修パートⅢセーフティマネジメントの基本
- ④ 中途採用者オリエンテーション 2回開催

【全教職員対象】

- ① 転倒・転落予防のための勉強会 2回開催
- ② 平成23年4月18日 セーフティマネジメント基礎研修会 2回開催
- ③ 平成23年5月19日 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム 3回開催
- ④ 平成23年9月13日 院内暴力対策研修会
- ⑤ 平成23年12月5日 第10回慈恵医大褥瘡セミナー
- ⑥ 平成24年1月25日 個人情報保護研修会
- ⑦ 医療安全DVD研修会 3回開催

【委託・派遣職員対象】

- ① 委託・派遣職員向け医療安全研修会 4回開催

※その他医療安全講習会に関することは、医療安全管理部活動報告を参照

- (18) 第2回緩和ケア研修会開催平成24年1月28日(土)～29日(日)大学1号館6階講堂及び6階実習室で開催

(19) 慈恵ICLSコース、慈恵BLSコース

- ① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵ICLSコース」(年間5回)

(日本救急医学会認定コース、各機関持ち回りで年間5回開催、受講定員毎回24名)

日 時：平成23年 5 月29日 (日) 午前 8 時30分～午後 6 時 青戸病院 参加17名  
日 時：平成23年 7 月31日 (日) 午前 8 時30分～午後 6 時 本院 参加21名  
日 時：平成23年 9 月25日 (日) 午前 8 時30分～午後 6 時 第三病院 参加25名  
日 時：平成23年11月27日 (日) 午前 8 時30分～午後 6 時 柏病院 参加16名  
日 時：平成24年 1 月29日 (日) 午前 8 時30分～午後 6 時 本院 参加24名

② 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵BLSコース」を年間5回開催した。

日 時：平成23年 6 月 4 日 (土) 午後 1 時～午後 2 時50分、  
午後3時～午後 4 時50分 参加25名  
日 時：平成23年 8 月 6 日 (土) 午後 1 時～午後 2 時50分、  
午後 3 時～午後 4 時50分 参加34名  
日 時：平成23年10月 1 日 (土) 午後 1 時～午後 2 時50分、  
午後 3 時～午後 4 時50分 参加31名  
日 時：平成23年12月 3 日 (土) 午後 1 時～午後 2 時50分、  
午後 3 時～午後 4 時50分 参加31名  
日 時：平成24年 2 月 4 日 (土) 午後 1 時～午後 2 時50分、  
午後 3 時～午後 4 時50分 参加33名

(20) 鏡視下手術トレーニングコース

鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験を実施した。(STEP 1 計 4 回, STEP 2 計 5 回)

(21) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。

平成23年11月1日 献血者84名 (申込者数119名)

(22) 慈恵医大晴海トリトンクリニック (所長：阪本要一)

- ① 平成23年度の患者数実績は、1日平均外来患者数123.4人 (昨年比-13.7人)、うち健診は24.8人 (昨年比-1.3人) である。
- ② 平成23年 3 月31日をもって歯科診療を終了した。
- ③ 歯科診療終了に伴い外来改修工事を実施した。
- ④ 平成23年 4 月超音波検査装置を更新した。
- ⑤ 人間ドック受診者満足度調査を実施し改善を図った。

(23) 保険診療講習会の開催

1 回目 平成23年 4 月 5 日 午後 1 時20分～2 時40分 大学 1 号館 3 階講堂  
2 回目 平成24年 2 月 6 日 午後 6 時～7 時 大学 1 号館 3 階講堂

(2) 葛飾医療センター (院長：伊藤 洋、副院長：吉田和彦、児島章、事務部長：横山秀彦)

(1) 病床利用率

- ① 平成23年度の病床利用率 (稼働床) は、86.7%、平均在院日数は10.9日であった。

(2) 患者紹介率

- ① 平成23年度の患者紹介率は医療法で47.3%、保険法で41.7%であった。

(3) 諸官庁への届出・報告等 (関東信越厚生局他)

- ① 医師事務作業補助体制加算 (平成23年 4 月 1 日)
- ② 脳血管疾患等リハビリテーション料 (平成23年 4 月 1 日)
- ③ 輸血管管理料Ⅱ (平成23年 4 月 1 日)
- ④ 地域連携診療計画管理料 (平成23年10月 1 日)  
※連携医療機関の変更に伴う届出
- ⑤ 超急性期脳卒中加算 (平成23年10月 1 日)  
※医師変更に伴う届出

- ⑥ 救急搬送患者地域連携紹介加算 (平成23年11月1日)  
※連携医療機関追加に伴う届出
- ⑦ 地域連携診療計画管理料 (平成23年11月1日)  
※連携医療機関の変更に伴う届出
- ⑧ 無菌製剤処理料 (平成23年12月1日)  
※新病院移転に伴う届出
- ⑨ 救急搬送患者地域連携紹介加算 (平成23年12月1日)  
※連携医療機関追加に伴う届出
- ⑩ 特別の療養環境の提供の実施報告書 (平成24年1月1日)  
※新病院に伴う届出
- ⑪ 新病院移転に伴う届出 (平成24年1月1日)  
※22項目
- ⑫ 特定集中治療室管理料1 (平成24年2月1日)
- ⑬ がん患者カウンセリング料 (平成24年3月1日)
- ⑭ がん性疼痛緩和指導管理料 (平成24年3月1日)  
その他、病院名称変更に伴う変更届・報告等を合計30項目行った。

(4) 患者サービス

- ① 新病院において再来受付機・自動精算機を導入し、受付・会計業務の簡素化を図った。
- ② 診察予約システムの導入により、予約管理の適正化、診察待ち時間の短縮に取り組んだ。
- ③ 電子カルテシステム・部門システムの導入により、運用の効率化・患者動線の簡素化を図った。

(5) 地域医療連携

- ① 平成23年4月に東京都からの受託事業である、区東北部糖尿病医療連携検討会の座長(糖尿病・代謝・内分泌内科 蔵田診療部長)および事務局を昨年度に引き続き継続受託した。
- ② 平成23年8月に嬉泉病院、平成23年9月に高砂協立病院とそれぞれ「医療連携に関する覚書」を締結した。
- ③ 平成23年9月29日に南かつしか病院ネットワーク実務者協議会を開催した。(足立共済病院・東立病院・金町中央病院・梶原病院・山田記念病院・堀切中央病院・第一病院・亀有病院・亀有中央病院・亀有みんなのクリニック・嬉泉病院)
- ④ 平成23年度より葛飾区地域医療連携協議会(葛飾区保健所が主管)が設立され、本協議会の下部組織となる在宅医療部会の設置に伴い、看護部・ソーシャルワーカー・事務員(計3名)が委員となり検討部会に参加した。
- ⑤ 江戸川地区医療機関との連携を強化するため、松江病院を訪問し新たな後方病院開拓を行った。

(6) 青戸病院リニューアル

〈式典・その他〉

- ・定礎序幕式及び竣工式 平成23年10月31日 新棟1階・5階 参加197名
- ・新棟内覧会 平成23年11月1日、2日 新棟内 参加1,275名
- ・開院記念パーティー 平成24年3月3日 マンダリンオリエンタル東京 参加407名

〈IT関係〉

- ① システム導入経過
  - ・電子カルテ操作研修 平成23年7月20日～8月11日
  - ・運用・システムの検証リハーサル 平成23年11月12日(第1回)、11月26日(第2回)、12月10日(第3回)

〈引越し関係〉

- ・入院患者移送 平成23年12月30日 患者75名

〈その他〉

・平成23年4月9日、青戸病院第1・2・3会議室にて、青戸リニューアルプロジェクト第6フェーズキックオフを開催した。(出席者 131名)

(7) 指導・監査

① 平成23年11月11日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査及び放射線使用施設を有する病院に対する立入検査が実施された。

(8) 防火・防災

① 平成23年6月9日、本館3階3C病棟において防火訓練を実施した。

② 平成23年10月25日、本田消防署管内での自衛消防隊訓練審査会が開催され、青戸病院自衛消防隊が参加し三位入賞した。

③ 平成24年3月14日、4病院合同災害対策訓練講演会を開催した。

(9) 病床運用

① 平成24年1月より許可床を382床から356床へ変更した。

(10) 医療安全・感染対策

〈研修関係〉

① 平成23年4月4日、1年目研修医を対象に医療安全の基本研修とオリエンテーションを実施した。

② 平成23年4月19日、5月16日、新入・転入教職員を対象にリスクマネジメント基本研修を開催した。

③ 平成23年4月26日、放射線安全セミナーを開催した。

④ 平成23年5月19日、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムを開催した。

⑤ 平成23年6月4日、薬剤安全セミナーを開催した。

⑥ 平成23年6月10日、6月14日、DVT予防研修会を開催した。

⑦ 平成23年6月27日、28日4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムDVD研修会を開催した。

⑧ 平成23年6月29日、7月7日、7月21日、8月18日職員対象に移乗動作介助技術研修を開催した。

⑨ 平成23年7月11日、15日、放射線安全セミナーDVD研修会を開催した。

⑩ 平成23年7月30日、医師を対象に超音波ガイド下穿刺法の基本研修会を実施した。

⑪ 平成23年7月16日、全教職員・学生を対象にチーム医療構築ワークショップを開催した。

⑫ 平成23年8月13日、10月17日、教職員対象に術後疼痛コントロール研修会を開催した。

⑬ 平成23年9月8日、感染対策セミナー「結核の院内感染に注意しよう」を開催した。

⑭ 平成23年11月1日、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムを開催した。

⑮ 平成23年11月～12月、全教職員・部署を対象に5S活動コンテストを開催した。

⑯ 平成24年1月25日、4病院合同個人情報保護に関する研修会を開催した。

⑰ 平成24年2月2日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。

⑱ 平成24年3月6日、研修医、レジデントを対象に呼吸療法の基礎研修会を開催した。

⑲ 平成24年3月9日、教職員対象に術後疼痛コントロール研修会を開催した。

⑳ 平成24年3月21日、3月23日、3月28日、インシデント管理システム導入研修会を実施した。

㉑ その他、画像診断部、臨床工学部の協力のもと、医療機器安全講習会開催した。

〈院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係〉

① 平成23年5月25日、3E病棟の医療安全ラウンドを実施した。

② 平成23年6月29日、3B病棟・3C病棟・4A病棟の医療安全ラウンドを本院医療安全推進室と合同で実施した。

③ 平成23年9月28日、3A病棟・3D病棟・4D病棟の医療安全ラウンドを第三病院医療安全推進室と合同で実施した。



- ④ 平成23年10月27日、外来・中央診療部門医療安全ラウンドを実施した。
- ⑤ 平成23年11月7日、8日、9日、医療安全推進週間中に院長ラウンドと院内5Sラウンドを実施した。
- ⑥ 平成24年2月23日、私立医科大学医療安全相互ラウンドに自治医科大学附属さいたま医療センターが来院した。
- ⑦ 平成24年3月2日、私立医科大学医療安全相互ラウンドで北里大学北里研究所メディカルセンター病院を訪問した。

※いずれのラウンドも感染部門と合同で実施している。

〈その他〉

- ① 平成23年4月27日、全病棟に対して5Sラウンドを実施した。
  - ② ハイリスク症例術前合同カンファレンスを10例開催した。
- (11) 成医会青戸支部例会開催
- ① 平成23年10月8日 第106回青戸支部例会（ポスター展示方式および特別講演）
- (12) 公開セミナー開催
- ① 第29回 平成23年6月4日「たばこと肺の病気」（参加人数43名）
  - ② 第30回 平成23年9月10日「胃がんと大腸がんのお話」（参加人数87名）
  - ③ 第31回 平成24年2月25日「腰痛のお話」（参加人数145名）
- (13) 症例検討会（CPC）開催
- ① 第41回 平成23年5月31日 担当科：消化器・肝臓内科  
「HBV・HCV陽性肝硬変を基盤に発生した肝臓癌に対する塞栓術後、急変した一例」
  - ② 第42回 平成23年9月29日 担当科：外科  
「汎発性腹膜炎術後、敗血症性ショック・DICで死亡した一例」
  - ③ 第43回 平成24年3月6日 担当科：糖尿病・代謝・内分泌内科  
「糖尿病とパーキンソン病の経過中、誤嚥性肺炎とともに誤嚥による窒息が疑われた一例」
- (14) 病院運営
- ① 平成23年4月7日、東京都知事選挙（統一地方選挙）不在者投票を実施した。
  - ② 平成23年5月20日、青戸病院BSC及び各部署のBSCを作成し、戦略目標に沿ったアクションプランの実行に努めた。教職員全体でBSCに関する情報を共有し可視化されたビジョンと戦略を周知するために、全体報告会を開催し、平成22年度総括、平成23年度BSCの報告を行った。
  - ③ 平成23年6月14日、吉田副院長（社保支払基金特別審査委員）を講師に「保険診療について」のテーマで保険診療講習会を開催した。
  - ③ 電気事業法27条電気使用制限等規則に基づく使用最大電力の制限について以下の内容で病院としての制限緩和（削減率0%）を受けた。  
制限を行う期間 平成23年7月6日から9月22日（土日祝日を除く）  
制限を行う時間 午前9時から午後8時まで  
但し、病院としての自主節電目標値を5%と定めて実施した結果、約17%の削減を達成した。
  - ④ 平成23年7月19日、青戸病院納涼会をテクノプラザかつしかにて開催した。  
（参加人数277名）
  - ⑤ 平成23年8月1日、京成青砥～青戸病院間の路線バスが開通し、開通式を行った。
  - ⑥ 平成23年8月1日、仮設駐車場は、三菱地所マンション建設による土地一部返却のため、第2駐車場の駐車台数を28台に変更した。（第1駐車場80台、第2駐車場50台）
  - ⑦ 平成23年10月27日、平成23年度の初期臨床研修医のマッチングの結果は、定員6名に対し6名のマッチングが決定した。（マッチング率100.0%）
  - ⑧ 平成23年12月17日、青戸病院忘年会をテクノプラザかつしかにて開催した。  
（参加人数325名）

- ⑨ 平成24年1月1日、午前0時より、病院情報（電子カルテを含む）システムが稼動した。
- ⑩ 平成24年1月5日、東京慈恵会医科大学附属青戸病院から東京慈恵会医科大学葛飾医療センターに名称変更し、同日開院となった。
- ⑪ 平成24年3月5日、青戸中学校において3年生を対象としたBLS＋AED講習会を開催した。
- ⑫ 平成24年3月29日、「平成24年度診療報酬改定について」のテーマで保険診療講習会を開催した。
- ⑬ 平成23年度のBLS＋AED講習会を計8回開催した。

(2) **第三病院**（院長：坂井春男、副院長：岡尚省、中村敬、岡本友好、事務部長：井出晴夫）

(1) 患者数・病床利用状況

平成23年度1日平均患者数 入院462名(前年比－2名)、外来1,388名(前年比－14名)であった。紹介率は医療法42.4%（昨年度40.7%）、保険法34.9%（昨年度32.8%）であった。平均在院日数13.5日（前年度13.8日）、病床利用率82.4%（前年度82.2%）

(2) 医療連携

平成23年5月12日 第20回第三病院医療連携フォーラム

「全身疾患としての多発性嚢胞腎－最近の進歩と治療について－」

平成23年11月10日 第21回第三病院医療連携フォーラム

「放射線治療のパラダイムシフト」

「診療部紹介と診療トピックス ①消化器・肝臓内科②泌尿器科③耳鼻咽喉科」

(3) 第三病院医療セミナー

平成23年6月7日 第55回第三病院医療セミナー「震災における医療の役割と今後の節電対策」

平成23年6月22日 第56回第三病院医療セミナー「世界に視野を広げる医療者となる心構え」

(4) 公開健康セミナー

平成23年4月23日 第49回公開健康セミナー「血圧と健康」

平成23年5月21日 第50回公開健康セミナー「健康診断で白血球が多いと言われた一さあ、どうしようー」

平成23年6月4日 第51回公開健康セミナー「前立腺肥大症ってなんだろうーいつから、どんな治療が必要なの？ー」

平成23年7月2日 第52回公開健康セミナー「膵臓と健康ー予防しよう膵臓の病気ー」

平成23年9月24日 第53回公開健康セミナー「放射線治療ー放射線について正しく知って安心して治療を受けるためにー」

平成23年10月8日 第54回公開健康セミナー「閉経後に潜む婦人科悪性腫瘍」

平成23年12月3日 第55回公開健康セミナー「腹痛ー放っておけない痛みとは？ー」

平成24年1月28日 第56回公開健康セミナー「糖尿病による足病変」

平成24年2月18日 第57回公開健康セミナー「めまいー耳鼻咽喉科から見ためまい疾患ー」

平成24年3月17日 第58回公開健康セミナー「頭痛ー本当に危ない頭痛を知っていますか？ー」

(5) ちょうふ市内・近隣大学公開講座

平成23年11月4日 めまいー耳鼻咽喉科から見ためまい疾患ー

平成23年11月10日 まぎらわしい名前の目の病気ー白内障と緑内障ー

平成23年11月18日 生活改善で高血圧を治そう！

平成23年11月25日 いざ手術といわれた時のために役に立つ日常生活法

(6) こまえ市民大学医療講座

平成23年5月21日 腰と足の痛みについて



- 平成23年11月12日 おしりの病気ーあなたのおしりは？ー
- (7) 第三病院癒し企画 (入院患者向け)
- 平成23年 4月23日 お琴・尺八コンサート 駒井 孝子様他3名
- 平成23年 6月25日 ソプラノコンサート  
看護学科音楽講師 加藤万吏乃と看護学科音楽選択学生
- 平成23年 7月 2日 七夕ロビーコンサート 慈恵医大音楽部管弦楽団
- 平成23年 8月 6日 落語 立川志の吉様
- 平成23年10月22日 ヴァイオリンコンサート スズキ・メソードの子供たち
- 平成23年12月 3日 クリスマスコンサート 慈恵医大音楽部管弦楽団
- 平成24年 1月21日 ギターコンサート 阿部 忍様
- 平成24年 2月 4日 沖縄系音楽コンサート 青木文子様 他2名
- 平成24年 3月 3日 民謡・三味線コンサート みすじ会 (藤本 秀光郁 他7名)
- (8) 諸官庁への届出・報告等 (関東信越厚生局東京事務所)
- 平成23年 4月27日 特掲診療料の施設基準「麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ」変更届出  
特掲診療料の施設基準「ペースメーカー移植術及び交換術」変更届出  
特掲診療料の施設基準「大動脈バルーンパンピング法」変更届出
- 平成23年 5月23日 放射線部治療常勤医の再配置により、「医療安全機器管理料2」、「外来放射線治療加算」、「放射線治療専任加算」の再届出提出
- 平成23年 7月15日 入院基本料等の実施状況報告書提出
- 平成23年 8月16日 基本診療料の施設基準「救急搬送患者地域連携紹介加算」連携病院追加届出
- 平成23年12月28日 計画管理病院から連携保険医療機関(回復期)に変更のため、特掲診療料の施設基準「地域連携診療計画管理料」辞退届提出し、改めて「地域連携診療計画退院時指導料(1)」を届出する。
- 平成24年 2月15日 酸素の購入価格に関する届出書
- 平成24年 2月24日 地域歯科診療支援病院歯科初診料の報告
- (9) 工事関係
- 1) 第三病院
- ① 非常電源自動切替盤更新工事 特別会計 (H23.9.30完了)
- ② 都道拡幅工事に伴う駐車場整備工事 特別会計 (H23.10.23完了)
- ③ 病院病理ホルマリン対策及び改修工事 特別会計 (H23.11.15完了)
- ④ 新1号館新築工事 特別会計 (H24.3.12着工)
- ⑤ 本館外壁塗装及び屋上屋上防水工事 特別会計 (H24.4.30完了)
- ⑥ 本館9B病棟廊下床材貼り替工事 (H23.5.14完了)
- ⑦ 本館病棟個室インターネット設置工事 (H23.10.14完了)
- ⑧ 精神神経科外来改修工事(第1期工事) (H23.12.20完了)
- ⑨ 精神神経科外来改修工事(第2期工事) (H24.3.22完了)
- ⑩ 脳神経外科外来改修工事 (H24.2.23完了)
- ⑪ 本館病棟個室陰圧化工事 (H24.2.28完了)
- ⑫ 本館手術棟用ガス給湯器更新工事 (H24.2.28完了)
- ⑬ 本館地下埋設A重油タンクライニング工事 (H24.3.18完了)
- ⑭ 本館中央棟系揚水配管更新工事 (H24.3.31完了)
- 2) 国領校
- ① 国領校1階男女トイレ整備工事 (H24.4.22完了)
- ② 国領校樋口体育館ボイラー更新工事 (H24.4.28完了)
- (10) 行政監査・実地検査
- 平成23年12月 1日 医療法第25条に基づく精神科実地指導

- 平成24年 2月21日 医療法第25条に基づく立入検査（病院）、放射線使用施設の立入検査  
平成24年 2月28日 粕江消防署による消防査察病院全館
- (11) 行事関係  
平成23年 4月 2・4日 平成23年度研修医オリエンテーション  
平成23年 4月 4日 平成23年度研修医歓迎会  
平成23年 7月 1日 職員本採用辞令交付  
平成23年 7月22日 第三病院納涼会  
平成23年12月 2日 第三病院忘年会並びに成医会第三支部懇親会  
平成24年 2月24日 診療部会議懇親会
- (12) 特記事項  
平成23年 4月21日 統一地方選挙不在者投票  
平成23年 6月 1日 マナーキャンペーン実施（6月30日まで）  
平成23年 7月22日 第三病院納涼会開催  
平成23年 9月13日 個人情報漏洩の防止・抑止対策実施（FTPサーバー、USBメモリの規制を設けた）  
平成23年12月 1日 東京都精神科病院等実地指導  
平成23年12月 2日 第三病院忘年会開催  
平成23年12月 9日 倫理委員会講習会（虐待・DV症例の対応とフローチャート等の活用について）  
平成23年12月20日 感染症・感染管理講習会緊急集会「感染性胃腸炎現状と対策、吐物処理の演習」  
平成24年 1月25日 個人情報保護セミナー開催  
平成24年 2月14日 感染症・感染管理講習会緊急集会「インフルエンザ発生状況と対策、院内における予防策徹底事項」  
平成24年 2月21日 東京都医療監視  
平成24年 3月23日 緩和ケア・オープンカンファレンス  
平成24年 3月23日 年間ベスト診療科賞表彰（麻酔部・ICU）
- (13) 成医会  
平成23年 7月 1日 成医会第三支部例会 特別講演  
大西 清 東邦大学医療センター大橋病院 形成外科教授  
『形成外科診療—その概要とupdate』  
平成23年12月 2日 成医会第三支部例会 特別講演  
脳神経外科 坂井春男教授（第三病院院長）  
「医師と作家」  
整形外科 浅沼和生准教授  
「骨腫瘍と人工材料」
- (14) 医療安全  
平成23年 5月19日 4病院合同リスクシンポジウム  
平成23年 6月23日 医療安全特別講演  
「病院における5S活動について」磐田市立総合病院 伊藤 隆氏  
平成23年 7月27日 第1回Team STEPPS講習会  
平成23年10月27日 第1回研修医医療裁判傍聴  
平成23年11月 1日 医療安全推進週間（11/1～11/14）  
平成23年11月 1日 4病院合同リスクシンポジウム  
平成23年11月30日 第2回Team STEPPS講習会  
平成24年 2月 2日 4病院合同リスクシンポジウム  
平成24年 2月15日 第2回研修医医療裁判傍聴

(15) 救急・防災関係

- 平成23年 4月 1日 平成23年度の救急隊指導医として平本淳他14名の医師が委任を受ける  
平成23年 6月17日 粕江救急業務連絡協議会定例総会開催（於：第三病院）  
平成23年10月 4日 救命救急士再教育に伴う病院実習実施（11月29日まで）  
平成23年10月27日 粕江消防署合同自衛消防訓練  
平成23年11月 6日 ホスピタルフェア開催（粕江消防署参加）  
平成23年12月16日 第1回救急症例検討会実施（於：粕江消防署防災教室）  
平成24年 1月 6日 粕江消防署依頼の救命救急士再教育実習受入れ（2月21日まで）  
平成24年 2月28日 粕江消防署査察  
平成24年 3月14日 四機関合同災害対策訓練

(16) その他研修

- 平成23年 5月18日 第1回メンタルヘルス研修会（新人向け）  
平成23年 5月24日 第2回メンタルヘルス研修会（新人向け）  
平成23年10月14日 メンタルヘルス研修会（ライン・スタッフ向け）  
平成23年11月14日 院内教育・図書委員会主催「病院教職員接遇セミナー」

(4) 粕病院（院長：小林 進、副院長：清水光行・岸本幸一・吉田 博、事務部長：宮崎栄一）

(1) 患者数・病床稼働率・患者紹介率等

- ① 一日平均外来患者数：外来1,492名（前年度比+16名）  
② 一日平均入院患者数：531名（前年度比-1名）  
③ 病床稼働率：91.4%（昨年度91.3%）  
※稼働床582床（平成23年 4月 1日現在）に対して  
④ 平均在院日数：13.2日（昨年度13.8日）  
⑤ 患者紹介率：医療法61.3% / 保険法50.4%

(2) 保険関係承認・届出関係

- ① 平成23年 4月 1日 特掲診療料「がんリハビリテーション料」の算定を開始した。  
② 平成23年 9月 1日 特掲診療料「栄養サポートチーム加算」の算定を開始した。  
③ 平成23年10月 1日 特掲診療料「腹腔鏡下小切開腎部分切除術・腹腔鏡下小切開腎摘出術・腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術」「腹腔鏡下小切開副腎摘出術」「腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術」の算定を開始した。  
④ 平成23年10月 1日 特掲診療料「皮下連続式グルコース測定」の算定を開始した。

(3) 医療連携

- ① 平成23年10月25日 「平成23年度慈恵医大粕病院医療連携フォーラム」を三井ガーデンホテル粕にて開催した。連携登録医・連携登録病院を含む医療機関から54施設104名、粕病院から院長以下95名が出席し、総勢199名が出席した。

(4) 患者サービス関連

- ① 患者サービスに向けた基礎データの収集を目的として、入院患者を対象とした患者満足度調査を平成24年 1月16日（月）～2月10日（金）まで実施した。

(5) 成医会粕支部例会

- ① 平成23年 7月 2日 第44回成医会粕支部例会を開催した。  
② 平成23年12月 3日 第45回成医会粕支部例会を開催した。

(6) 症例検討会（CPC）

- ① 平成23年 6月15日 第29回症例検討会（CPC）  
「血球貪食症候群を合併した骨髄原発悪性リンパ腫」  
② 平成24年 3月14日 第30回症例検討会（CPC）

「意識障害と痙攣発作を併発した子宮悪性腫瘍の一例」

(7) 行事・その他

- ① 平成23年7月22日 納涼盆踊り大会を開催した。
- ② 平成23年12月27日 病院忘年会を開催した。

(8) 指導・監査

- ① 平成23年10月7日 千葉県柏市保健所による医療機関立入検査（医療監視）が行われた。

(9) 先進医療関連

- ① 平成24年1月1日付で「パクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る。）の併用療法上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん」が承認された。（産婦人科）

(10) 地域がん診療連携拠点病院関係

【研修関連】

- ① 平成23年7月9日～10日 緩和ケア基礎研修会
- ② 平成23年11月10日 地域緩和ケア症例検討会（二次医療圏の医療従事者）

【公開講座】

- ① 平成23年9月3日 第7回市民公開講座「今、知っておくべき最新情報」
- ② 平成24年3月3日 第8回市民公開講座「もっと知ってほしい大腸がんのこと」

【交流会】

- ① 平成23年6月9日 がん・緩和ケア交流会「リンパ浮腫の発生・悪化を防ぐためのセルフケア」
- ② 平成23年10月13日 がん・緩和ケア交流会「抗がん剤治療の代表的な副作用と対策について」
- ③ 平成24年2月9日 がん・緩和ケア交流会「アロマの基本とハンドマッサージ」

【サポートプログラム】

- ① 平成23年10月22日 がん生活調整サポート「がんの成り立ち、人間の回復する力などについて」
- ② 平成23年11月26日 がん生活調整サポート「がん再発予防・治療の効果を高めるための食事」
- ③ 平成23年12月24日 がん生活調整サポート「日常生活に取り入れられる快の刺激・免疫力アップ」
- ④ 平成24年1月28日 がん生活調整サポート「日常に取り入れられる運動」
- ⑤ 平成24年2月25日 がん生活調整サポート「日常生活に取り入れられるストレス対処・リラクゼーション」

(11) 東葛北部地域難病相談・支援センター事業関係

【会議関連】

- ① 平成23年4月21日 平成23年度第1回運営会議
- ② 平成23年12月15日 平成23年度第2回運営会議

【研修・講演会関連】

- ① 平成23年6月16日 平成23年度第1回吸引実技研修会
- ② 平成23年7月13日 神経難病について医療講演会
- ③ 平成23年10月20日 排泄について講演会
- ④ 平成24年3月1日 在宅支援に関わる研修会
- ⑤ 平成23年12月1日 平成23年度第2回吸引実技研修会

(12) 医療安全・院内感染対策

【研修関連】

- ① 平成23年4月6日 医療安全研修(1年目研修医)
- ② 平成23年4月25日 医療安全研修(新人看護職員)

- ③ 平成23年 5月19日 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム  
「リスクマネジメントからセーフティマネジメントへー新たなる挑戦ー」
- ④ 平成23年 5月24日～27日・30日 感染対策研修会
- ⑤ 平成23年 5月30日  
・医療安全セミナー「アナフィラキシーショックについて」  
・医薬品安全管理セミナー「中枢神経系作用薬について」
- ⑥ 平成23年 6月1日・3日～9日 感染対策研修会
- ⑦ 平成23年 6月9日 医療安全勉強会  
・チェストドレーンバッグ&メラサキュームの正しい知識と安全な管理について
- ⑧ 平成23年 6月15日～16日 感染対策研修会
- ⑨ 平成23年 6月25日 チーム医療構築ワークショップ
- ⑩ 平成23年 7月9日 感染対策研修会
- ⑪ 平成23年 7月26日 セーフティマネジャー研修会「医療事故とその対応」
- ⑫ 平成23年10月3日 感染対策セミナー  
「東日本大震災の教訓を次に繋ぐー感染制御の視点」
- ⑬ 平成23年10月17日 倫理委員会講習会「倫理委員会が果たすべき役割と今後の展望」
- ⑭ 平成23年11月1日 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム  
「医療安全活動における患者とのパートナーシップ」
- ⑮ 平成23年12月5日 4病院合同褥瘡セミナー
- ⑯ 平成23年12月17日 チーム医療構築ワークショップ
- ⑰ 平成24年 1月13日 医療安全勉強会「静脈血栓塞栓症の予防と管理」
- ⑱ 平成24年 1月25日 個人情報保護研修会  
「医療従事者としてこれだけは知っておきたい」
- ⑲ 平成24年 2月2日 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム  
「今年度の各病院における医療安全推進活動の成果について」
- ⑳ 平成24年 2月22日 チームステップス研修会
- ㉑ 平成24年 2月29日 医薬品安全管理セミナー「麻薬の取扱いとインシデント事例」
- ㉒ 平成24年 3月2日 感染対策セミナー「H I V感染症とエイズ」
- 【医療安全推進週間（平成23年11月1日～11月14日）】
- ・平成23年11月1日～14日 患者アンケート実施  
医療従事者が患者に行うべき安全確認行為の実態調査とフィードバック
  - ・平成23年11月1日 4病院合同リスクシンポジウム  
テーマ「医療安全活動における患者とのパートナーシップ（外部講師の招聘）」
  - ・患者確認行動の強化を目的に標語（スローガン）を募集（応募総数112題）し、応募作品中、最優秀作品を各部署に掲出し、備忘啓発ポスターとする。
  - ・各部署における5S活動報告（報告部署32部署）
  - ・平成23年11月8日 院長、看護部長らによる院内医療安全ラウンド
- (13) 防火・防災
- ① 平成23年 7月7日 トリアージ訓練を実施した。
- ② 平成23年 9月26日 柏市自衛消防隊競技会に参加した。（男女各1隊）
- ③ 平成24年 2月13日 柏市東部消防署及び周辺地域との合同消防訓練を実施した。
- ④ 平成24年 3月14日 4病院合同災害対策訓練を実施した。
- (14) 工事関係
- ① 本館A棟屋上遮熱塗装工事 平成23年 6月完了
- ② 本館1階外来トイレ改修工事 平成23年 7月完了
- ③ 患者支援・医療連携センター改修工事 平成23年 8月完了



- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| ④ 診療棟屋上塗装工事               | 平成23年9月完了  |
| ⑤ 本館A B棟とC棟エキスパンション修繕工事   | 平成23年10月完了 |
| ⑥ 外来再来機・待ち番号表示システム付帯工事    | 平成23年11月完了 |
| ⑦ 本館A B棟冷温水発生機更新工事        | 平成24年2月完了  |
| ⑧ 本館A B棟とC棟外部エキスパンション修繕工事 | 平成24年3月完了  |

(15) 病床数

- ① 病床数(稼働床) (平成23年4月1日現在)

|             |       |
|-------------|-------|
| 個 室         | 45    |
| 2 人 室       | 16    |
| 3 人室以上      | 521   |
| 合 計         | 582   |
| 比率(内科系:外科系) | 35:65 |

- ② 病床数(届出床) (平成23年4月1日現在)

|             |       |
|-------------|-------|
| 個 室         | 53    |
| 2 人 室       | 36    |
| 3 人室以上      | 535   |
| 合 計         | 624   |
| 比率(内科系:外科系) | 35:65 |

(16) 研修医関連

- ① 平成23年度研修医は医師国家試験の結果、27名(一般プログラム24名、小児科医育成プログラム2名、産科医育成プログラム1名)を採用し、平成22年度研修医21名と併せて、柏病院の研修医は48名である。

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 銭谷 幹男  
 新橋健診センター 所長 和田 高士  
 晴海健診センター 所長 阪本 要一

1) 23年度実績 (新橋健診センター)

|        |         |
|--------|---------|
| 年間受診者  | 17,372名 |
| (内訳)   |         |
| *人間ドック | 7,724名  |
| *入社健診  | 464名    |
| *定期健診  | 7,143名  |
| *特殊検診  | 1,493名  |
| *予防接種  | 274名    |
| *その他   | 274名    |

2) 契約企業対象の健康医学セミナーを毎年開催している。

平成23年度は、2月15日(水)開催した。参加人数は35名であった。講演内容は「全社禁煙導入の実際」について慈恵医大晴海トリトンクリニック内科非常勤診療医 齋藤礼郎先生と「職場の禁煙対策の最前線」ファイザー株式会社医療推進部禁煙サポート担当課長 河崎多佳子氏が講演した。

3) 日本総合健診医学会による優良施設認定期間が更新され認定証が交付された。

4) 健康の医学のニュースを年4回(5月・8月・11月・2月)発行した。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数 (使用床)

(平成23年4月1日現在)

|                | 本 院     | 青 戸     | 第 三     | 柏       | 合 計   |
|----------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 個 室            | 289     | 26      | 68      | 58      | 441   |
| 2 人 室          | 6       | 34      | 46      | 36      | 122   |
| 3 人 室 以 上      | 754     | 293     | 446     | 488     | 1,981 |
| 合 計            | 1,049   | 353     | 560     | 582     | 2,544 |
| 比率 (内科系 : 外科系) | 42 : 58 | 44 : 56 | 56 : 44 | 35 : 65 |       |

(2) 病床数 (届出床)

(平成23年4月1日現在)

|                | 本 院     | 青 戸     | 第 三     | 柏       | 合 計   |
|----------------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 個 室            | 298     | 26      | 77      | 66      | 467   |
| 2 人 室          | 6       | 34      | 52      | 56      | 148   |
| 3 人 室 以 上      | 771     | 322     | 452     | 502     | 2,047 |
| 合 計            | 1,075   | 382     | 581     | 624     | 2,662 |
| 比率 (内科系 : 外科系) | 42 : 58 | 44 : 56 | 56 : 44 | 35 : 65 |       |

(3) 平成23年度診療実績

(平成23年度)

|             | 本 院   | 青 戸   | 第 三   | 柏     | 晴海トリトン | 合 計   |
|-------------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 一日平均外来患者数   | 3,020 | 1,052 | 1,388 | 1,492 | 129    | 6,952 |
| 一日平均入院患者数   | 904   | 307   | 462   | 531   |        | 2,204 |
| 利用率 (稼働床)   | 86.0  | 86.7  | 82.4  | 91.2  |        | 86.5  |
| 予 算 達 成 率   | 101.1 | 103.8 | 98.6  | 100.3 | 99.9   | 100.8 |
| 紹 介 率 医 療 法 | 54.0  | 47.3  | 42.4  | 61.3  | 10.4   |       |
| 〃 保 険 法     | 43.6  | 41.7  | 34.9  | 50.4  | 4.3    |       |

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院 (5病院)

(平成23年4月1日現在)

|   | 病 院 名             | 院 長          | 副 院 長  | 常勤医数<br>(慈恵関係者) | 病 床 数 |
|---|-------------------|--------------|--|-----------------|-------|
| 1 | 国立病院機構<br>西埼玉中央病院 | 池内 健二 (昭57)  | 小野寺達之 (昭60)  | 48<br>(29)      | 325   |
| 2 | 富士市立中央病院          | 小野寺 昭一 (昭47) | 鈴木 康之 (昭53・他学)<br>笠井 健司 (昭56)<br>諸岡 暁 (昭56)<br>鈴木 優子 (看護)    | 73<br>(55)      | 596   |
| 3 | 厚木市立病院            | 山本 裕康 (昭60)  | 五味渕一三 (昭59)<br>増渕 正隆 (昭59・他学)<br>吉塚 弥生 (看護)                  | 51<br>(47)      | 356   |
| 4 | 町田市民病院            | 近藤 直弥 (昭53)  | 羽生 信義 (昭53)<br>佐藤 裕 (昭53・他学)<br>金崎 章 (昭56)<br>櫻本千恵子 (昭59・他学) | 74<br>(33)      | 447   |
| 5 | 東 急 病 院           | 徳留 悟朗 (昭56)  |  | 24<br>(14)      | 135   |

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院) 平成23年4月1日現在

|                    |                      |                  |
|--------------------|----------------------|------------------|
| <b>内科学講座</b>       | 太田総合病院               | 都立北療育医療センター      |
| ○国立病院機構西埼玉中央病院     | <b>※糖尿病・代謝・内分泌内科</b> | 川崎社会保険病院         |
| ○富士市立中央病院          | 川口市立医療センター           | 東京都立小児総合医療センター   |
| ○厚木市立病院            | 衣笠病院                 | 湘南病院             |
| ○町田市民病院            | 町立津南病院               | 国立成育医療研究センター     |
| 神奈川リハビリテーション病院     | 野村病院                 | 東京都立大塚病院         |
| 神奈川県立汐見台病院         | <b>※腫瘍・血液内科</b>      | 神奈川県立こども医療センター   |
| 国立病院機構宇都宮病院        | 川口市立医療センター           | 狭山病院             |
| 社会保険大宮総合病院         | がん研有明病院              | 葛飾赤十字産院          |
| 社会保険桜ヶ丘総合病院        | 衣笠病院                 | 多摩南部地域病院         |
| 国立病院機構東京医療センター     | 羽田共生病院               | <b>皮膚科</b>       |
| 東京通信病院             | <b>※呼吸器内科</b>        | ○厚木市立病院          |
| <b>※消化器・肝臓内科</b>   | 国立国際医療研究センター         | 東京警察病院           |
| ○東急病院              | 国立病院機構東京病院           | N T T 東日本関東病院    |
| 国立病院機構相模原病院        | 埼玉県立循環器・呼吸器病センター     | 東京通信病院           |
| 虎の門病院              | 国立がん研究センター中央病院       | <b>放射線科</b>      |
| パナソニック東京健康管理センター   | 神奈川県立循環器呼吸器病センター     | ○富士市立中央病院        |
| 川口市立医療センター         | <b>※総合診療部</b>        | ○厚木市立病院          |
| 松島病院大腸肛門病センター      | 静岡県立静岡がんセンター         | 神奈川県立汐見台病院       |
| <b>※神経内科</b>       | <b>精神医学</b>          | 放射線医学総合研究所       |
| 総合川崎臨港病院           | ○富士市立中央病院            | 日本赤十字社医療センター     |
| 国立精神・神経センター病院      | ○厚木市立病院              | 大田原赤十字病院         |
| 亀田総合病院             | ○町田市民病院              | J R 東京総合病院       |
| 兵庫県立姫路循環器病センター     | 栃木県精神保健福祉センター        | パナソニック東京健康管理センター |
| 国立国際医療研究センター       | パナソニック東京健康管理センター     | がん研有明病院          |
| 日本赤十字社医療センター       | 北辰病院                 | 星総合病院            |
| <b>※腎臓・高血圧内科</b>   | 横手興生病院               | 荏原病院             |
| ○東急病院              | 湘南病院                 | 東京歯科大学市川総合病院     |
| 東京都済生会中央病院         | 成増厚生病院               | 東京労災病院           |
| 益子病院               | 成田病院                 | 立川総合病院           |
| 東京都健康長寿医療センター      | 総武病院                 | 藤沢市民病院           |
| 川口市立医療センター         | 東条病院                 | 聖マリアンナ医科大学       |
| 沼津市立病院             | 放射線医学総合研究所           | <b>外科</b>        |
| 養生会かしま病院           | 西熊谷病院                | ○国立病院機構西埼玉中央病院   |
| 東京都済生会向島病院         | 国立成育医療研究センター         | ○富士市立中央病院        |
| パナソニック東京健康管理センター   | 常心会川室記念病院            | ○厚木市立病院          |
| <b>※リウマチ・膠原病内科</b> | 栃木県立岡本台病院            | ○町田市民病院          |
| 国立病院機構相模原病院        | 豊後荘病院                | ○東急病院            |
| <b>※循環器内科</b>      | 久喜すずのき病院             | 神奈川リハビリテーション病院   |
| ○東急病院              | 高田西城病院               | 神奈川県立汐見台病院       |
| 埼玉県立循環器・呼吸器病センター   | 那須高原病院               | 社会保険桜ヶ丘総合病院      |
| パナソニック東京健康管理センター   | 両毛病院                 | 社会保険大宮総合病院       |
| 衣笠病院               | 河津浜病院                | がん研有明病院          |
| 魚沼病院               | 芳野病院                 | 埼玉慈恵病院           |
| 湘南病院               | 光生会平川病院              | 湘南病院             |
| 聖隷三方原病院            | <b>小児科</b>           | 川口市立医療センター       |
| 大洗海岸病院             | ○富士市立中央病院            | 総合高津中央病院         |
| 国立がん研究センター中央病院     | ○厚木市立病院              | 賛育会病院            |
| 町立津南病院             | 神奈川リハビリテーション病院       | 藤村病院             |
| 東京武蔵野病院            | 神奈川県立汐見台病院           | 春日部中央総合病院        |
| 古川橋病院              | 国立病院機構宇都宮病院          | 守谷慶友病院           |
| 京橋病院               | 国立病院機構相模原病院          | 藤立病院             |
| 国立病院機構東埼玉病院        | 埼玉県立小児医療センター         | 金町中央病院           |
| 横須賀市立うわまち病院        | 町立津南病院               | 青山病院             |

|   |  |  |
|---|--|--|
| 麻生総合病院<br>国立成育医療研究センター<br>佐々木病院<br>日比谷病院<br>第三北品川病院<br>安田病院<br>市川第二病院<br>益子病院<br>東葛辻仲病院<br>武蔵野総合病院<br>行田中央病院<br>佐倉中央病院<br>川村病院                        | ○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>○町田市民病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>茅ヶ崎市立病院<br>深谷赤十字病院<br>杏雲堂病院<br>太田総合病院<br>国立成育医療研究センター<br>立正佼成会附属佼成病院<br>こころとからだの元氣プラザ<br>谷津保健病院<br>東京都がん検診センター<br>横浜市立みなと赤十字病院                                      | 太田総合病院<br>東京共済病院<br>東京厚生年金病院<br>東京歯科大学市川総合病院<br>豊島病院<br>同愛記念病院<br>国立がん研究センター東病院<br>東部地域病院<br>国保旭中央病院<br>東京臨海病院<br>佐久総合病院                             |
| <b>整形外科</b>   |  | <b>麻酔科</b>   |
| ○国立病院機構西埼玉中央病院<br>○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>○東急病院<br>神奈川県リハビリテーション病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>国立病院機構宇都宮病院<br>社会保険桜ヶ丘総合病院<br>第三北品川病院<br>とちぎリハビリテーションセンター<br>豊島病院 | <b>泌尿器科</b><br>○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>○町田市民病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>社会保険大宮総合病院<br>星総合病院<br>J R東京総合病院<br>東京都リハビリテーション病院<br>平塚共済組合病院<br>立正佼成会附属佼成病院<br>国立成育医療研究センター<br>栃木県立がんセンター<br>太田総合病院                                | ○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>○町田市民病院<br>○東急病院<br>川口市立医療センター<br>国立病院機構宇都宮病院<br>社会保険大宮総合病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>埼玉県立循環器・呼吸器病センター<br>虎の門病院<br>がん研有明病院<br>国保旭中央病院 |
| <b>脳神経外科</b>  |  | <b>リハビリテーション科</b>  |
| ○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>東大宮総合病院<br>秋葉病院<br>麻生総合病院<br>宇都宮第一病院<br>大森赤十字病院<br>聖マリアンナ医科大学病院<br>明徳会佐藤第一病院  | <b>眼科</b><br>○厚木市立病院<br>○町田市民病院<br>○東急病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>社会保険桜ヶ丘総合病院<br>国立病院機構相模原病院<br>東京労災病院<br>国立病院機構東京医療センター<br>田中農協病院<br>二本松眼科病院<br>八潮中央総合病院<br>衣笠病院<br>新松戸中央総合病院<br>国立障害者リハビリテーションセンター<br>東京警察病院 | 神奈川県立リハビリテーション病院<br>東京通信病院<br>中伊豆リハビリテーションセンター<br>東京都立大塚病院<br>東京都立墨東病院<br>とちぎリハビリテーションセンター<br>東京都リハビリテーション病院<br>初台リハビリテーション病院                        |
| <b>形成外科</b>   |  | <b>病理学</b>   |
| ○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>○町田市民病院<br>東京厚生年金病院<br>第三北品川病院<br>都立駒込病院<br>本島総合病院  |  | ○国立病院機構西埼玉中央病院<br>○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>立正佼成会附属佼成病院<br>国立病院機構千葉東病院   |
| <b>心臓外科</b>   |  | <b>歯科</b>  |
| ○富士市立中央病院<br>○町田市民病院<br>埼玉県立循環器・呼吸器病センター<br>埼玉県立小児医療センター<br>横浜総合病院<br>豊島病院<br>佐久総合病院<br>新東京病院<br>東京都立小児総合医療センター                                       |  | ○町田市民病院<br>社会保険大宮総合病院  |
| <b>産婦人科</b>   |  | <b>内視鏡科</b>  |
| ○国立病院機構西埼玉中央病院  | <b>耳鼻咽喉科</b><br>○富士市立中央病院<br>○厚木市立病院<br>○東急病院<br>神奈川県立リハビリテーション病院<br>神奈川県立汐見台病院<br>がん研有明病院<br>湘南病院<br>聖路加国際病院<br>大森赤十字病院   | 益子病院<br>松島クリニック<br>社会保険中央総合病院<br>川村病院  |
|   |  | <b>感染制御科</b>   |
|   |  | 神奈川県立汐見台病院   |
|   |  | <b>法医学</b>   |
|   |  | 東京都監察医務院   |
|   |  | <b>分子生理学</b>   |
|   |  | 東京歯科大市川総合病院  |

## (3) 特殊派遣機関（6機関）

(平成23年4月1日現在)

| 病 院 名             | 科 名   | 病 院 名       | 科 名   |
|-------------------|-------|-------------|-------|
| 日本航空インター<br>ナショナル | 内 科   | 衆議院診療所      | 内 科   |
|                   | 精神医学  |             | 皮膚科   |
|                   | 整形外科  |             | 眼 科   |
|                   | 放射線医学 |             | 耳鼻咽喉科 |
|                   | 眼 科   | 出版健康保険組合診療所 | 内 科   |
|                   | 耳鼻咽喉科 |             | 眼 科   |
| 全 日 空             | 内 科   | 東京国税局診療所    | 内 科   |
|                   | 整形外科  |             | 精神医学  |
|                   | 眼 科   |             | 外 科   |
|                   | 耳鼻咽喉科 |             |       |
|                   | 内視鏡科  |             |       |
| 航空医学研究センター        | 内 科   |             |       |
|                   | 精神医学  |             |       |
|                   | 眼 科   |             |       |
|                   | 耳鼻咽喉科 |             |       |

## (4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

(平成23年4月1日現在)

| 病 院 名           | 科 名     |
|-----------------|---------|
| 英国 ロンドン 日本人 クラブ | 内 科 学   |
|                 | 小 児 科 学 |



## 6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕 (放射線医学) (平成19年4月より)  
同 図書館国領分館長 茅島 江子 (母性看護学) (平成22年4月より)

### 1) 平成23年度統計 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

#### (1) 図書館

|               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ① 蔵書冊数        | 256,403冊                |
| ② 現在受入雑誌数     | 976種 (和768種、洋208種)      |
| ③ 電子ジャーナル提供数  | 約6,275種                 |
| ④ 館外貸出冊数      | 12,564冊                 |
| ⑤ 他学との文献相互貸借数 | 貸出4,660件 借受3,876件       |
| ⑥ 複写サービス      | 486,907枚                |
| ⑦ 情報検索サービス    | 77,258件 (代行とセルフサービスの合計) |

#### (2) 国領分館

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| ① 蔵書冊数    | 82,508冊           |
| ② 現在受入雑誌数 | 383種 (和331種、洋52種) |
| ③ 館外貸出冊数  | 8,664冊 (視聴覚資料含む)  |

#### (3) 標本館

|         |               |          |
|---------|---------------|----------|
| ① 標本数   | マクロ標本         | 1,620点   |
|         | 顕微鏡標本         | 2,549点   |
| ② 視聴覚資料 | ビデオ・プログラム     | 1,798セット |
|         | スライド・プログラム    | 601セット   |
|         | 16mmフィルム      | 37セット    |
|         | コンピュータ・ソフトウェア | 61セット    |
|         | 語学プログラム       | 204セット   |
|         | その他           | 79セット    |

#### (4) 史料室

見学者数160名 (学内17名、学外143名)

#### (5) 写真室

|                        |              |
|------------------------|--------------|
| ① 撮影・スライド作成            | 58件(1,977枚)  |
| ② レントゲンフィルム複製          | 254件(1,862枚) |
| ③ ビデオ編集                | 45件(114.5時間) |
| ④ カラープリント出力 (ポスター作成含む) | 315件(2,160枚) |
| ⑤ 35mmスライドのデジタル化       | 42件(2,155枚)  |

### 2) 主な事項

#### (1) 医学部学生演習

医学科1年生・2年生の「医学総論」、医学科3年生・4年生の「医療情報：EBMコース」、看護学科3年生の「研究方法論：文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーションを担当した。

#### (2) ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス(AutoAlertサービス)を、引き続き実施している。また、新聞4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービスも継続した。

#### (3) 学術リポジトリの構築

学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開するためのシステムであ

- る学術リポジトリの運用を担当している。東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal、教育・研究年報、Research Activitiesの最新の内容を登録し、インターネット経由で参照できるようにした。
- (4) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2010（第30号）』および『Research Activities 2010』の編集  
両年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (5) 教員評価システム管理委員会への参加  
教員評価システムの業績データ入力機能の管理を担当し、学内教職員を対象とした入力方法の説明会を3回実施した。関連して、研究開発支援総合ディレクター（ReaD）の学内管理者を担当し、ReaDへのデータ登録に関する学内からの問い合わせに対応した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催  
Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による以下の講習会の開催を担当した。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。
- ・「実験科学研究における論文執筆過程」（4月28日）  
（山本俊彦教授・薬理学講座）
  - ・「Natureセミナー」（5月10日）  
（中村康一氏・NPGネイチャー アジア・パシフィック 専務取締役、堀内典明氏・Nature Photonics誌 Associate Editor）
  - ・「How to prepare and present your research paper」（5月17日）  
（小原平教授、Mark Alder講師・英語研究室）
  - ・「Common Pitfalls for Japanese Medical Writers」（5月24日）  
（岡崎真雄准教授・学術情報センター）  
（開催時間は、いずれも18時～19時30分）
- (7) 教材・研究資料の作成支援  
学内教職員・学生、同窓生を対象に、静止画・動画の撮影、アナログ・デジタル写真の加工、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化（パワーポイントファイルへの変換）の各サービスを実施した。
- (8) レントゲンフィルムの複製  
教育・研究用、病院保管用の資料作成、他病院・関連機関への情報提供のためのレントゲンフィルム複製の業務を担当した。
- (9) 広報活動支援業務  
学内行事の撮影、および各種広報用画像データの保管・提供を担当した。
- (10) 情報技術支援業務  
学事課・システム課・教育センターの職員との協力による情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当した。
- (11) リモートアクセスサービスの開始  
大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外（自宅や派遣先）からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」（平成21年度開始）を継続した。利用登録者は、平成23年度末現在で1,090人に達した。
- (12) 「東京慈恵会医科大学創立130年記念誌編集委員会」への参加  
「東京慈恵会医科大学130年史（平成23年度発行）」の編集・校正、掲載写真の用意、配付に関する作業、また関連して、学内でのパネル展示等の作業を担当した。

## 7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。医学教育及び看護学教育の推進のため、教育センター内を改組し、医学教育部門と看護学教育部門の2部門にした。平成23年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

- 1) 大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業として、本センターが主管として取り纏める公開講座を、今年度は25回開催し、1,977人の参加が得られた。本公開講座に関しては、大学および4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ運営し、一般市民および地域医療者を対象としている。学内に情報の提供を広く呼びかけ、公開講座の推進を図り、大学のホームページに掲載し、情報発信を行った。開催内容については下記のとおり。

- (1) 附属病院あたご健康セミナー 3回
- (2) 慈恵医大葛飾医療センター公開セミナー 2回
- (3) 慈恵医大第三病院公開健康セミナー 10回
- (4) 柏病院市民公開講座 2回
- (5) 新橋健診センター公開講座 6回
- (6) 看護学科公開講座 2回

なお、これまで大学が主催する公開講座の運営に関しては、私立大学経常費補助金の対象項目の一つとされていたが、今年度より除外された。

また、研究成果の社会還元・普及事業として、(独)日本学術振興会の委託を受け、ひらめき☆ときめきサイエンス「働き者の腎臓を知ろう ～血圧維持から再生医療まで～」を腎臓・高血圧内科・横尾隆講師を責任者に、7月29日6階実習室で実施し、高校生15名(申込時22名、キャンセル7名)が参加した。

- 2) 地域医療者対象公開講座を教育センター主管で7回開催し、参加者総数は98名であった。対象は本学の学外実習施設の看護師とした。開催場所は全てシミュレーション教育施設(C棟7階)で行った。

- (1) 心音セミナー 2回  
4月23日(土) 14:00-16:00 参加者9名  
9月3日(土) 14:00-16:00 参加者16名  
講義①心臓の基礎知識 福島 統 教授  
講義②心音の基礎知識 岡崎 史子 助教  
実習①シミュレータ「イチロー」を使っての心音聴取

- (2) 呼吸音セミナー 3回  
11月12日(土) 14:00-16:00 参加者20名  
11月19日(土) 14:00-16:30 参加者12名  
1月28日(土) 14:00-16:30 参加者15名  
講義①呼吸器系の基礎知識 福島 統 教授  
講義②胸部診察・呼吸系について 岡崎 史子 助教  
実習①シミュレータ「ラング」を使っての呼吸音聴取

- (3) 在宅人工呼吸器管理と救急処置 1回  
8月27日(土) 14:00-16:30 参加者16名  
司会: 柵山 年和 准教授  
講義・実習①『在宅での呼吸管理』吉澤 明孝 非常勤講師  
講義・実習②『呼吸のリハビリについて』岩城 基 要町病院理学療法室 室長

(4) 在宅緩和ケアとオピオイド 1回

9月10日(土) 14:00-16:30 参加者10名

司会: 柵山 年和 東京慈恵会医科大学 教育センター 准教授

講義『在宅緩和ケアとオピオイドの使用法』

実演『シミュレータを使っての特殊な疼痛管理の実演』

腫瘍・血液内科 井上 大輔 准教授

3) 医学科・看護学科学学生の学外実習34施設の看護師を対象に、地域医療者のシミュレーション教育に関するアンケートを実施した。

アンケート実施日: 平成23年1月25日～4月17日

回収数: 213名

アンケート集計結果をもとに、シミュレーション教育の公開講座「在宅人工呼吸器管理と救急処置」、「在宅緩和ケアとオピオイド」を実施した。

4) シミュレーション教育施設に関しては、平成22年4月より現在のC棟7階に移転後も利用件数は、増加傾向にある。学生の臨床実習のみならず、研修医の自己学習、レジデント教育、外来・病棟単位での看護師勉強会等、利用者・部署の範囲が拡大している。一方で既存シミュレータの老朽化による故障や使用不能等も発生しており、機器更新の対応(購入、次年度計画等)が突発的に発生している。なお、今年度の施設・機器利用件数は、西新橋校435件、国領校50件であった。

また、葛飾医療センターに新設されたシミュレーション教育施設への機器、運用方法等に関する支援を行った。

5) 文部科学省平成22年度大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム「学生一人ひとりを育てる学習評価システム」は福島統教授(教育センター長)を責任者として、次のように実施した。

<医学科>

(1) コンピュータ試験

8月22日(月) 医学科2年生111名 ユニット名「生体調節のしくみ」

1月6日(金) 医学科4年生108名 ユニット名「病理学各論」

2月28日(火) 医学科5年生90名 「総括試験」

(2) Faculty Development

6月18日(土) 13:00-17:00 参加者 教員41名

テーマ: 試験問題作成 講師: 薬理学講座 木村 直史 教授他

(3) Staff Development

3月23日(金) 18:00-19:30 参加者 大学事務部職員21名

テーマ: 学生支援について 講師: 教育センター 福島 統 教授

(4) 海外視察

目的: fitness to practiseを育成するための学生支援等について

視察先: 英国キングス大学 視察者: 教育センター 福島 統 教授

期間: 3月5日～9日

<看護学科>

(1) コンピュータ試験

2月29日(水) 看護学科1年生42名 コンピュータ試験

(2) Faculty Development

3月15日(土) 10:30-16:30 参加者 教員26名

テーマ: 試験問題作成 講師: 薬理学講座 木村 直史 教授他

(3) 海外視察

目的：ポートフォリオの活用について

視察先：米国ミネソタ大学 視察者：成人看護学 村田 洋章 講師

期間：2月25日～3月2日

- 6) 地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人准教授（臨床疫学研究室・教育センター・総合診療部）を責任者として実施した。

【2期生・受講生12名】

- (1) 講義（eラーニング）：6コース 全44回

家庭医療学、EBMから始まる臨床研究、疫学臨床研究、質的研究、生物統計学コース、医療倫理と研究倫理

- (2) 第5回ワークショップ 6名参加 6月3日 6階講堂

【H22年度生・受講生14名】

- (1) 講義（eラーニング）：6コース 全44回

- (2) 第3回ワークショップ 13名参加 2月18-19日 G・H会議室

- (3) 第4回ワークショップ 10名参加 9月16日 6階講堂

【H23年度生・受講生14名】

- (1) 講義（eラーニング）：6コース 全37回

- (2) 第1回ワークショップ 14名参加 5月19-20日 G・H会議室

- (3) 第2回ワークショップ 11名参加 10月6-7日 G・H会議室

- 7) 看護キャリアサポートセンター主催で第1回エデュケーションナース研修を開催した。

目的：各部署の看護職員全体の臨床看護の質向上

対象：本学看護師4等級レベルの教育担当者 4機関47名参加

日時：8月22日～11月26日 20日間

8) 教育情報の公表

教育補助金検討委員会が主導し、経常費補助金「情報の公表」に係る項目のデータを、関係部署にデータ提供のご協力を得て、平成23年9月30日に本学ホームページに掲載した。

- 9) 卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングの支援を行った。eラーニングは年間31コース257回を実施した。内訳は次の通り。

- (1) 医学科学生 13コース、55回（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）

- (2) 看護学科学生 7コース、23回（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）

- (3) 看護専門学校学生 2コース、4回（1年次情報リテラシーなど）

- (4) 大学院博士課程 6コース、63回（疫学臨床研究、生物統計学など）

- (5) 卒後教育(研修医、看護師、地域医療者など) 9コース、175回(鏡視下手術トレーニングなど)  
(6コース63回分は大学院博士課程と共通)

- 10) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを運営し、年間8回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は4病院合同セーフティーマネジメント、成医会、災害対策会議などであった。



## 8. その他

### 1) 成医会

(1) 第128回成医会総会は、平成23年10月6日(木)・7日(金)の2日間にわたって開催された。

#### ① 特別講演

田尻 久雄 教授(消化器・肝臓内科)

「新しい内視鏡観察法の開発と今後の展望」

上園 晶一 教授(麻酔科学講座)

「麻酔方法が術後アウトカムに及ぼす影響」

#### ② 宿題報告

鈴木 直樹 教授(高次元医用画像工学研究所)

「本学における内視鏡型手術ロボット開発の歴史と現状」

鈴木 正章准教授(病理学講座)

「腎細胞癌の臨床病理学的分析」

伊介 昭弘准教授(歯科)

「高齢者の顎関節症の病態と治療」

藤田 哲二准教授(消化管外科)

「外科侵襲学の研究がLancetに認知されるまでの歩み」

#### ③ シンポジウム

「がん分子標的医療の現状と展望」

司会 山田 尚(DNA医学研究所)

相羽 恵介(腫瘍・血液内科)

##### 1. 分子標的薬2011Overview

荒川 泰弘(腫瘍・血液内科)

##### 2. HER2 蛋白

鈴木 正章(病理学講座)

##### 3. 乳癌

小林 直(腫瘍・血液内科)

##### 4. 上部消化管腫瘍

三森 教雄(消化管外科)

##### 5. 腎癌

波多野 孝史(泌尿器科学講座)

##### 6. 肝癌

伊坪 真理子(教育センター、消化器・肝臓内科)

##### 7. 慢性骨髄性白血病

矢野 真吾(腫瘍・血液内科)

##### 8. 特別発言

羽野 寛(病理学講座)

#### ④ パネルディスカッション

「慈恵医大における救急医療」

司会 小川 武希(救急医学講座)

##### 1. 災害時における医療支援

大槻 穰治(救急医学講座)

##### 2. 新病院における新たな診療体制について

又井 一雄(青戸病院救急部)

##### 3. 第三病院における救急体制

岡 尚省(第三病院救急部)

4. 柏病院救急医療の変遷と救命救急センターへ向けて  
小山 勉（柏病院救急部）
  5. 救急医療における携帯端末使用の展望  
中田 典生（放射線医学講座）
  6. 脳卒中領域における画像診断補助システム（i-stroke）の活用について  
高尾 洋之（脳神経外科学講座）
  7. 救急患者搬送車の導入  
橋本 和弘（心臓外科学講座）
- (2) 第1257回成医会例会は、平成24年2月17日（金）に行われ「心が遺伝子のスイッチをONにする～感動や笑いが可能性を引き出す～」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、小川武希（成医会運営委員長）が務め、筑波大学名誉教授の村上和雄先生が講演し、最後に栗原敏成医会会長（学長）が総括を行った。
  - (3) 第129回成医会総会については、平成24年10月11日（木）、12日（金）の2日間にわたって開催の予定。

## 2) 各種行事

- (1) 平成23年4月7日（木）、平成23年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成23年8月8日（月）～8月10日（水）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で37回目となる。
- (3) 平成23年10月1日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成23年10月8日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成23年10月22日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭36年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成23年10月28日（金）、第107回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成24年1月31日（火）、栗原敏教授、大川清教授、田中忠夫教授、持尾聰一郎教授、坂井春男教授、小林進教授、内田賢教授、武田信彬教授、白崎嘉昭教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成24年2月24日（金）、献体者遺族に対して文部科学大臣よりの感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成24年3月9日（金）、第87回医学科、第17回看護学科卒業式を挙行了した。

## 3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」
  - 1) 平成23年7月に「The JIKEI 17号」を発行した。  
特集記事は「座談会：大学創立130年を振り返って」である。
  - 2) 平成24年1月に「The JIKEI 18号」を発行した。  
特集記事は「東京慈恵会医科大学葛飾医療センター開院」である。  
同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、教職員、医療連携病院などに送付した。
- (2) 慈恵ニュース  
平成23年7月に「189号」、平成24年1月に「190号」を発行した。  
その他、号外として平成23年6月に「春季団体交渉結果」、平成23年7月に「学校法人慈恵大学中期目標・中期計画・平成23年度事業計画」を発行し、教職員に配布した。
- (3) 大学ガイド  
平成23年5月に医学部入試案内として「大学ガイドブック2012」を発行した。
- (4) 大学入試ポスター  
平成23年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科・看護学科別に発行した。

- 高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に送付した。
- (5) 大学院ガイド
    - 1) 平成23年5月に「大学院看護学専攻修士課程の受験に関するインフォメーション」を発行した。
    - 2) 平成23年7月に「大学院ガイド・募集要項（博士課程）」を発行した。
    - 3) 平成23年9月に「大学院ガイド（看護学専攻修士課程）」を発行した。
    - 4) 平成23年11月に「大学院二次募集要項（博士課程）」を発行した。
  - (6) 大学広報
    - 平成23年12月に「大学広報第20号」を発行した。
    - 掲載テーマは「葛飾医療センターの開院と今後の本学事業計画」である。
    - 同窓、医学部父兄、教職員などに送付した。
  - (7) 大学広報
    - 発行なし。
  - (8) 大学公報
    - 毎月（年12回）発行した。
  - (9) 大学ホームページ
    - 1) 平成23年9月に情報公開ページ（教育研究、修学に関する情報等）を充足させた。
    - 2) 平成23年11月に第三病院ホームページの全面リニューアルを行った。
    - 3) 平成24年1月に青戸病院ホームページを全面リニューアルし、葛飾医療センターのホームページを開設した。
    - 4) 平成24年1月に職員採用ページの全面リニューアルを行った。
    - 5) 平成24年2月に看護職員募集ページの全面リニューアルを行った。
    - ホームページを利用した情報収集が一般化し、大学ホームページへの総訪問者数及び訪問回数は年々増加傾向にある。平成23年度のホームページ新規作成及び更新依頼は約400件あったが、関連部署ならびに関連委員会と連携してホームページ掲載内容の充実を図るとともに、常に最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。
  - (10) イン트라ネット
    - 「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」等の更新業務を担当した。イントラネットは、各部署にて更新した情報が掲載されており、学内での情報共有の有効な手段として活用した。
  - (11) オールユーザーメールの活用
    - 講演会、研修会等の開催のほか、教職員のテレビ・ラジオ・講演会等への出演や新聞・雑誌等への掲載情報を主として、平成23年度は430件のオールユーザーメールを発信した。

## 〔付〕 1. 平成23年度 事業計画に対する実施結果一覧

| 中 期 計 画   | 平成23年度事業計画   | 平 成 23 年 度 実 施 結 果  |
|---|--|---|
| <p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の改善充実を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。</p> <p>⑦大学間連携を推進する。</p> | <p>①-1 学生の要望を踏まえ新カリキュラムの全般的な検証を実施する。</p> <p>①-2 高学年への教養科目導入を検討する。</p> <p>②研究室配属、選択実習（基礎選択）のあり方を検討する。基礎医学者の育成を図る。</p> <p>③-1 「クリニカルクラークシップ指導医養成」を継続的に開催する。モデルコアカリキュラムを視野に入れて、カリキュラムの見直しを行う。</p> <p>③-2 継続的に臨床疫学に関するカリキュラムの充実を図る。</p> <p>④看護学科のクラス編成方式について教員および学生からの評価に基づき検討する。</p> <p>⑤選択臨床実習の期間を延長し、自由度を拡大する。</p> <p>⑥医師国家試験の傾向に沿った医学卒業総括試験を行う。</p> <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京医大、昭和大学、東邦大学との連携を継続する。</li> <li>・首都大学東京からの特別科目等履修生受入を継続し、効果を検証する。</li> <li>・職員のスキルアップに効果的なSD研修を行う。</li> </ul> | <p>学事予定・時間割について学生の意見が反映出来るように学生会と連携を取ることとした。新カリキュラムの検証はカリキュラム自己点検・評価委員会を中心に実施している。また、今年度より医学科・看護学科合同で新入生スタートアップ宿泊研修を実施した。</p> <p>医学科一カリキュラム委員会にて検討し、大学としての方向性を確認した。<br/>看護学科一平成24年度改正カリキュラムにおいて、4年次に教養科目である日本国憲法を設定した。</p> <p>カリキュラム委員会、教学委員会にて検討し、平成24年度から新ユニット「Early research exposure」を開講することとした。MD-PhDコースの導入に向けて平成24年度に医学教育セミナーを開催する予定である。</p> <p>H23.10にクリニカルクラークシップ指導医養成FDを開催した。平成22年度改訂版モデルコアカリキュラムを各委員会にて教員へ周知した。</p> <p>医学科コース「臨床疫学Ⅰ～Ⅳ」からコース「医療情報・EBMⅠ～Ⅳ」に改訂し、コース「医療情報・EBMⅣ」では、ユニット「Evidence-based clinical practice」として内容を刷新して予定通り実施した。</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱでは、区分責任者会議や学生評価の結果、能力別クラスを設定するとともに、外国語Ⅱでは、学生の第2希望の範囲内で検討を実施した。</p> <p>6年生選択実習は平成21年度よりPhase Vを新設し、年間を通じて履修可能としている。また、平成23年度からはプライマリケア・選択学外臨床実習を2年生から選択可能とし、1年生もボランティア参加についてのみ選択を認めることとした。</p> <p>試験問題作成FD・医学卒業総括試験委員会を通じて、最近の医師国家試験問題の動向を試験問題作成者に伝え、学内試験に取り入れている。その他、5,6年生対象のオリエンテーションにて最近の国家試験の動向を説明している。</p> <p>医学生のための腫瘍学教材を東京医大、昭和大学、東邦大学と本学の4大学で共同開発した。本学ではeラーニングで教材活用し、教育ICT活用大会で成果発表を行った。（教育センター）<br/>4大学学生教育交流会を定例で開催し、4大学間SD、選択実習の相互受入れを実施している。国領校、西新橋校でそれぞれ首都大学東京から特別科目等履修生として学生を受け入れた。国領校は〔1年:医療総論演習〕を前期4名、後期5名が受講した。西新橋校は〔4年:社会医学Ⅱ後期〕を1名が受講した。（学事課）</p> |
| <p>①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。<br/>・トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。</p>   | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星薬科大学と学術交流の協定を締結し、臨床研究を推進する。</li> <li>・臨床研究推進のため、大学院生研究助成金、研究科研究推進費を有効運用する。</li> <li>・FD活動を継続して行う。</li> </ul>   | <p>学術交流の一環として大学院共通カリキュラムの単位互換について継続して検討している。<br/>新制度の大学院生研究助成金、研究科研究推進費は順調に運用された。<br/>（研究助成金採択件数：12件、研究推進費採択件数：7件）<br/>FDについては6月に倫理委員会と共催で倫理講習会「臨床研究に関する倫理指針」を実施した。今後もFDについて継続していく。</p>   |

| 中 期 計 画   | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果  |
|---|---|--|
| <p>②社会人入学の推進を図る。</p> <p>③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</p> <p>④共通カリキュラムの改善を図る。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程における研究を充実させ質を高める。</p>  | <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入したeラーニングの運用状況について検証する。</li> <li>ホームページ、慈大新聞などを通じて社会人の入学を推進する。</li> </ul> <p>③大学院共通カリキュラム「医学教育学」の内容を大学院生からの意見・要望をもとに継続的に検証する。</p> <p>④社会人大学院生のニーズを取り入れ共通カリキュラムの内容を継続的に検討する。</p> <p>⑤大学院委員会および各委員会の有機的連携により看護学専攻修士課程の安定した運用を図る。</p>   | <p>大学院博士課程の教材を作成しeラーニングを6コース（疫学臨床研究、生物統計学など）、63コマ実施した。</p> <p>社会人大学院の入学試験案内等、関係する情報をホームページ、慈大新聞に2回掲載して積極的な広報活動を展開した。その結果、社会人大学院学生数は5名となった。</p> <p>医学教育学は、修士課程と共修で行い、学生アンケートを行った結果、受講した大学院生には好評であった。引き続き、学生アンケートをもとに検討していく。</p> <p>社会人大学院生のニーズに応じ、eラーニングを共通カリキュラムに導入した。今後も継続して有効的な運用方法を検討していく。</p> <p>研究助成制度（大学院研究助成、研究指導費助成）により、学会参加、学会発表支援を行なった。教育以外の負担軽減を目指して、会議開催を同日開催にし、かつ多くの情報の共有化を図り、平成24年度より大学院委員会と教学委員会を統合することとなった。教員・学生の質を高めるためのFDを講演会を実施した。また、看護学科との連携において修士FD委員には、看護学科FD委員長が加わることとなり、協力関係を深めることができた。</p>  |
| <p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <p>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</p> <p>②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</p> <p>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</p> <p>④医学科の交換留学制度を充実させる。</p> <p>⑤レジデント教育プログラムを改善して医学生に公開する。</p> | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学科では積極的な相談会活動を展開する。</li> <li>広報媒体「受験インフォメーション」を看護学科でも作成し周知を図る。</li> <li>医学科一次試験の成績開示を行う。</li> <li>看護学科では平成22年度入試状況を分析し、定員増に向けた検討を継続する。</li> </ul> <p>②学生アンケート調査等を含め21改正カリキュラム実施状況の点検作業を行う。平成24年度のカリキュラム改正に向け評価・改善を行う。</p> <p>③カリキュラム委員会、カリキュラム自己点検委員会で検証した内容を次年度カリキュラムに反映させる。</p> <p>④外国人留学生受け入れ専任窓口の設置について具体化案を作成する。</p> <p>⑤-1 レジデント教育プログラムの見直しを随時図るよう医局に呼びかけプログラムの充実を図る。</p> <p>⑤-2 シミュレーション教育コースを充実し、医学生への活用を検討する。</p> | <p>医学科ー</p> <p>受験相談会については、他学とその場で受験生が比較検討できるような効果的な相談会参加展開を図った入学試験成績開示は、一次試験不合格者に対して実施を行った。</p> <p>看護学科ー</p> <p>平成24年度入試では、志願者数が350名と昨年より35名増加した。新たに受験インフォメーションを作成し、広報活動を行った効果があったと考える。</p> <p>広報活動は、広報委員会・入試検討委員会・入試委員会が連携し、ホームページ掲載・オープンキャンパス・受験インフォメーション配布活動を実施した。平成24年度からは京王線広告を新たに導入することを決定した。</p> <p>定員60名増に向けては、校舎の増改築により学習環境の改善・理科の試験範囲の縮小を検討した。看護学科の魅力を最大限に伝え、志願者数の増加に努めている。</p> <p>カリキュラム自己点検評価委員会にて「学生による授業・教員評価アンケート」、教育センターにて「卒業生に対するカリキュラム評価アンケート」を実施した。次年度には「4年生講義について」のアンケートを学生、教員の双方向から実施する予定である。新たなカリキュラム改訂に向けての基礎資料作りを行っている。</p> <p>基礎医学研究者の育成、グローバルヘルス実習に対応したカリキュラムをカリキュラム委員会、教学委員会にて検討し、その取組みを開始している。</p> <p>今年度、国際交流委員会の下に国際交流室を学事課内に設置し、放射線科の関谷教授を室長として任命した。国際交流室の専用パソコンを購入設置し、受入窓口として準備を行なっている。平成24年度からハワイ大学との交換留学実施に向け交渉を始めた。人の配置は、英語の堪能な課員を配置する必要がある。</p> <p>平成23年度には腫瘍・血液内科のレジデントコースにがん診療コースが加わるなどの改善が図られた。また、今年度も次年度募集要項の作成にあたり、各科にプログラム見直しを依頼し見直しを行った。</p> <p>患者安全の視点からレジデント、初期臨床研修医、医学生のシミュレーション教育について、患者安全シミュレーションセンターワーキンググループで検討を行った。平成24年度に答申書を提出する予定。</p> |



| 中 期 計 画   | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|---|---|---|
| <p>⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的にを行い、看護学科受験者増を図る。</p> <p>⑦看護学科の定員を増やす。</p> <p>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。</p> <p>⑨看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。</p> <p>⑩看護学科の海外実習を推進する。</p> | <p>⑥看護学科の志願者を増やすために継続して広報活動を行う。</p> <p>⑦“看護学科定員増に関するプロジェクト”で継続して看護学科定員増に向けた準備を推進する。</p> <p>⑧看護学科の講義：実習、演習比率を見直し実践能力を向上するようカリキュラム改正を行う。</p> <p>⑨-1 改善したステップアップノートを活用し臨床技能を高める。</p> <p>⑨-2 看護におけるシミュレーション教育の更なる改善を図る。</p> <p>⑨-3 キャリアサポートセンターを設置し、看護技術の向上に努める。</p> <p>⑩アメリカ看護研修、国際看護交流協会研修生受入れと交流、招聘講演会を企画する。</p> | <p>オープンキャンパス、高校模擬講義、予備校説明会等積極的な広報活動を継続して行なった。保健師課程選択制や入学試験範囲の縮小、定員増、校舎増改築など大きな変更事項については、ホームページ等を通じて周知に努めた。次年度の、特に定員増に対応するために、新規広報活動の導入について検討を行なった。</p> <p>看護学科増築計画に基づき、工事が着工された。引き続き、学生増員検討プロジェクトに、必要に応じてワーキンググループを組織し、検討を行なっている。</p> <p>実習、講義の比率を見直し、平成25年度定員増も踏まえ、カリキュラム改正を行った。</p> <p>学生の自己評価を教員とともに振り返り、技術向上につなげた。</p> <p>"シミュレーション教育の看護師の使用実績は42企画684名であった。主な内訳は次の通り。<br/>・看護シミュレーションセンター教育18企画（フィジカルアセスメント・静脈注射・急変対応など）計257名・本院BLS：合計199名・4病院ICLS：合計16名"</p> <p>4機関看護師対象の第1回エデュケーションナース研修を20日間実施し、47名が受講した。各部署の臨床看護の質向上と新人看護職員教育の改善を図った。</p> <p>アメリカ看護研修に学生9名が参加した。3月16日に招聘講演を実施した。</p>   |
| <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。</p> <p>②講義室などの教育環境整備を行う。</p> <p>③教育能力向上のための教育研修を実施する。</p>   | <p>①教員医事人事室にて資料に基づき教員の適切な人数を設定する。</p> <p>②-1<br/>・教育環境の整備点検については継続して実施する。<br/>・平成25年看護学科定員増に向け、看護学科校舎増改築検討委員会でよりよい教育環境について検討する。</p> <p>②-2 継続してシミュレーション教育施設でのシミュレーション教育環境の改善を図る。</p> <p>③-1<br/>・医学科は継続的にFDを開催し、学生に対する教育効果を検討する。またSDを行い、教育体制の充実を図る。<br/>・看護学科は国領校と共に年2回ワークショップを開催する。</p>                        | <p>平成24年度定数設定に関しても、臨床教員に関しては院長と、基礎教員に関しては専務理事と資料に基づき検討を行い、決定した。特に、臨床では葛飾医療センターのリニューアルオープンに伴い、同院からの意見を参考として検討を進めた。</p> <p>医学科-学生教育設備の更新(モニター・BD/DVD等)を実施した。また、教育用に使用している共用パソコン全てに対してウイルス対策ソフトをインストールして安全で円滑な利用環境を整備した。学生演習室に定期清掃を依頼し入ることとなった。看護学科-看護学科校舎増改築計画案を作成し、平成24年3月から工事を開始した。</p> <p>葛飾医療センターシミュレーション教育施設の新設について、シミュレータ、機器備品の環境整備を支援した。</p> <p>医学科-年間5回のFDを開催し、教育体制の充実を図った。SDは4大学(昭和、東邦、東医、慈恵)間連携を中心に開催した。初年次教育に関するワークショップ(FD)を国領校と看護学科教員を中心として行い、効果的な初年次教育について検証した。今年度は、今年から新生を対象として開始された[スタートアップ宿泊研修](医学科・看護学科新生対象)についての検証と来年度以降の実施内容等についての検討を行った。</p> <p>看護学科-本年度、①大学院(修士課程看護学専攻)との共催、②国領校との共催、③看護学科主催の3回のワークショップを企画した。①は看護倫理の教育・実践への活用をテーマに9月に実施し、参加者から好評を得た。②は初年時教育について12月に、③はMCQ作成と評価について3月に実施した。</p> |

| 中期計画  | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果  |
|---|--|---|
| <p>④教員・医師人事評価制度の運用と体系的人事制度を構築する。</p>  | <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯教育のための月例セミナー及び夏季セミナーを継続的に開催する。</li> <li>学外実習の指導者を対象とした心音セミナー、聴心セミナーを開催する。</li> </ul> <p>④-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員評価システムへの個別入力を促進することで、昇格審査に活用する。</li> <li>情意考課の実施に向けて具体的な検討を進める。</li> </ul> <p>④-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学科一学生アンケート分析結果に基づきカリキュラム自己点検委員会でカリキュラム改訂を実施する。評価結果を適切にフィードバックする。</li> <li>修士課程一継続して授業アンケートを各科目責任者にフィードバックし授業改善につなげる。</li> </ul> | <p>生涯学習センター主催のセミナーは、予定通り開催されている。4月より3月に月例セミナーを7回開催し、合計127名の参加であった。また、8月に夏季セミナーを開催し、52名の参加であった。(総務課)</p> <p>心音セミナー2回、呼吸音セミナーを3回を実施した。、さらに、地域医療者のシミュレーション教育に関するアンケートを実施した集計結果を分析し、在宅医療に関するセミナー2回を新規で開催し、計7回のセミナーを実施した。(教育センター)</p> <p>教員評価システムのデータは教員ごとに単票で出力できるよう改修し、学長諮問会議での昇格審査資料として活用している。該当教員には、昇格審査に利用されることを周知し、必要なデータの入力を促した。また、医師の認定資格などについては教員・医師人事室にて一部入力を補佐し精度向上に努めている。一方、情意考課については継続課題となっている。</p> <p>医学科一学生アンケート評価結果は教学委員会で分析し、必要に応じてコース・ユニット責任者へフィードバックしている。今年度より過去5年間の経年評価を開始した。結果の一部はイントラネットで公開している。</p> <p>修士課程一数値評価方式を改めて、科目責任者と受講生が講義最終日に話し合いを行ない結果を記述し、管理のFD委員会に報告する方式に改めた。その結果、理解度が進み後期授業から、教育環境の改善が進んでいる。</p>  |
| <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>①学生支援のための教員組織を充実させる。</p> <p>②学力に問題のある学生に対する体制を改善する。</p> <p>③奨学金制度を充実させる。</p> <p>④精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。</p> | <p>①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生生活アドバイザーの他、全学年の学生支援できる仕組みを確立する。</li> <li>学外実習での評価データを蓄積する学習ポートフォリオを検討する。</li> <li>看護学科学生、卒業生を対象とした就職・進路指導に関する委員会を設置する。</li> <li>ハラスメント対策を検討する。</li> </ul> <p>③改訂後の教育ローンの運用状況について検証する。</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生アンケートを基に更なる効果的な学生生活アドバイザー制度について検討する。</li> <li>感染症への対応(ワクチン接種等)について引き続き実施する。</li> <li>継続して問題のある学生の対応について学生健康管理チームの活動を実施する。学生相談窓口を本実施する。</li> </ul>           | <p>学生の学習ポートフォリオとして医学科は学外実習のレポートや学生支援記録を蓄積し、看護学科では臨地実習自己評価などのデータ蓄積を行うことを検討した。(教育センター)</p> <p>本年度より全学年のオリエンテーションにおいて、学習態度や立ち居振る舞いに関する講義を取り入れ内容を充実させた。また、教学委員長・学年担当教学委員・オリエンテーション担当者を中心に、学習方法や学生生活に関する注意事項などの説明を行なった。学生のサポートとして学生アドバイザーとは別に、学年担当教学委員が必要に応じて学生と面談を行った。2年生に対して教学委員長主催の昼食会を開催した。(医学科)</p> <p>アドバイザーによるグループ活動を各グループ1回以上実施した。就職・進路指導委員会を設置し、専属の面接室を設け、資料を自由に閲覧できるようにした。進路についてのアンケート調査を行い相談にのった。</p> <p>ハラスメント対策については、本年度より全学年でのオリエンテーションの実施の際に教育をしている。クラブの各部長および顧問に対して飲酒でのパワハラ厳禁を周知した。(看護学科)</p> <p>個人情報保護の観点から、紹介は行うが手続き・結果等については当事者と銀行間で行う制度とした。本年度から本多友彦医学教育奨励基金を10名に増員した。</p> <p>学生保健指導委員会、学生相談室、感染対策室と連携し学生の健康管理を行った。</p> <p>感染症対策は、附属病院感染対策室をはじめ各機関の担当者と連携をとり感染予防に努めた。今年度も小児感染症ワクチン接種のほか、インフルエンザ予防接種を実施した。結核対策としては、ツベルクリン反応検査・BCG接種に替えてQFT検査を実施した。メンタルな悩みを抱えている学生を早期に発見できるよう、教員と連携を図った。その場合には必要に応じて学生相談室へ受診をすすめている。学生相談室の広報は学生便覧への掲載、新入生オリエンテーションでの説明、学生掲示板にも常時掲示すると共に学生相談室の体制強化を行った。</p> |

| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果  |
|--|---|--|
| <p>(5) 看護専門学校に関する目標</p> <p>①看護教員の確保に努める。</p> <p>②看護実践を重視した看護教育を行う。</p> <p>③学生確保のため積極的に広報活動を行う。</p> <p>④学生生活支援を積極的に行う。</p> <p>⑤ 4 病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。</p> | <p>①看護教員確保に必要な具体的な措置を講じ、教員を確保する。</p> <p>②技術体験・見学体験の機会を増加させる。臨地実習では経験しにくい技術等のシミュレーションモデルを活用してプログラムを開発する。</p> <p>③ホームページ、オープンキャンパス、説明会の充実、様々な広報媒体を用いて積極的な広報活動を継続的に行う。</p> <p>④学習についていけない学生や生活上で問題のある学生への支援・指導、保護者との連携・協力、奨学金制度の充実を継続的に行う。</p> <p>⑤看護専門学校再編後の4病院を活用した実習カリキュラムを推進する。</p>    | <p>ホームページ・教員養成課程を通じて募集活動を実施したが新採用は新橋1名・第三2名・柏1名である。平成24年度は新橋19名、第三13名、柏16名でスタートする予定である。外部からの教員採用が困難になってきている。学内からの教員養成のシステムを構築していく必要がある。</p> <p>臨地実習において多くの技術が習得できるように臨床の指導者と協力している。昨年度の技術習得度に比較しよい結果の出ている項目もある。新カリキュラムでは患者に直接行えない技術についてシミュレーション教育も強化しており、成果といえる。各シミュレーションモデルの充実がさらに必要である。</p> <p>広報活動、高校訪問を積極的に行い、各校ともオープンキャンパスの参加者、推薦・一般入試応募者の増加をみた。各校定員数を確保した。</p> <p>学習指導・生活指導に関わる時間が増加している。新橋・第三は学生相談（心理）が活用できている。柏が活用できるシステムが望まれる。被災学生に対し授業料の減免措置がとられた。慈恵の奨学金について一年分一括貸与が可能になった。柏看護専門学校に特化した奨学金が開設された。</p> <p>臨地実習における4病院を効果的に活用している。青戸病院移転のため一部の実習を4病院以外に配置した。新橋・第三は看護学科と臨地実習について調整を継続していく必要がある。</p>   |
| <p>2. 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究水準及び研究成果に関する目標</p> <p>①教員の職位に応じた論文発表を評価する。</p> <p>②国際誌への投稿を推進する。</p> <p>③Jikeikai Medical Journalの充実に努める。</p>                    | <p>①-1 教員評価システムへの論文発表データ登録の簡便化、機能強化を行い、各講座・研究施設の担当者に転送方法について直接説明し、教員評価システムへの業績データ登録の促進を図る。</p> <p>①-2 研究科教授の研究業績を再評価する。</p> <p>②医学論文書きかた講習会の開催を含め、国際誌への投稿推進策を策定する。</p> <p>③MEDLINE 収載を目標に Jikeikai Medical Journal の掲載論文の質、量の充実に努める。東京慈恵会医科大学学術リポジトリの更新により、掲載論文への国内外からのアクセス性の向上を図る。</p> | <p>平成22年度に発注したシステム改修が4月に終了した。改修による新機能の周知と、教員評価システムへの業績データの促進を図るために、業績データ入力説明会を、7月に3回実施した（参加者：合計81名）。</p> <p>研究科教授の研究業績を再評価するため、研究科教授（但し、平成19年度以前に任用された教授）から過去5年間分の業績を提出させ、大学院委員会にて確認し評価を行った。</p> <p>「医学論文の書きかた講習会（平成23年度：全4回）」の開催を担当し、論文作成のルールと国際誌に受理されるための留意点の周知を図った。また、平成23年度から、「医学論文の書きかた講習会」の説明資料をイントラネットに掲載した。論文を執筆する際に必要となる各種データベースの操作説明会を、5月、9月、10月に開催した（参加者：合計42名）。</p> <p>Jikeikai Medical Journal (JMJ) 編集委員会と慈恵医大誌編集委員会の合同委員会を開催し、今後の2誌のあり方や、JMJへの論文投稿の促進、掲載論文の質の向上に向けた方策について審議を重ねた。</p> <p>平成22年度に引き続き、学術リポジトリにより、JMJ掲載論文を冊子発行前からインターネット上に公開した。投稿規程内に、利益相反（COI）や倫理規程に関する記載を含めるために、関連事例の調査を進め、COI申告書と投稿規程の文案を作成した。次年度は、学内での承認、周知を進める。査読の遅れにより発行時期が不定期となることを避けるために、査読を依頼されても迅速に対応できない場合の手続きを定めた。</p> |

| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果  |
|--|---|--|
| <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <p>①臨床研究支援体制を構築する。</p> <p>②先端研究を推進する体制を作る。</p> <p>③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。</p> <p>④寄付講座を振興する。</p> | <p>①学内の研究実体の把握が出来るようになったことから臨床研究で利用頻度の高い研究を優先的に支援できる体制を構築する。共用研究施設の利用を促進する。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端医療・先端研究のアンケートを実施し、研究者間の共同研究の振興と新たな先端研究を推進する体制を強化する。</li> <li>・iPS細胞を用いた遺伝病の病態解析、癌幹細胞の病理解析を実施する。</li> <li>・大型プロジェクトの申請に向けて準備を進める。</li> </ul> <p>③-1 スーパー特区に採択された事業で得られた成果を基に実用化を進めるため、企業との協同体制の整備と研究費の獲得に取り組む。</p> <p>③-2 再生医療研究体制を整備して先端研究を推進する。GMP対応施設の管理体制をさらに充実させ、細胞治療及び再生医療を推進する。</p> <p>④寄付講座の増設に向けて取り組む。</p> | <p>学内研究については、採択された競争的研究資金による研究活動が順調に行なわれた。研究支援部門である総合医科学研究センター共用研究施設の機器の利用は一部の研究者に限定されている。受託事業については研究者から委託される内容が高度なものとなってきている。</p> <p>総合医科学研究センター内に設置された再生医学研究部の整備は進んでおり、研究体制も構築されてきた。iPS細胞の利用や再生医学の臨床研究へ向けての体制が整った。遺伝病患者由来のiPS細胞の作製、並びに同細胞の心筋への分化研究も進んだ。大型プロジェクト研究の申請に向け大型プロジェクト対策委員会は、研究プロジェクトの学内公募を実施し審査した。</p> <p>平成23年10月1日、スーパー特区に採択された事業の報告会が開催され公開シンポジウムの形で研究の成果が一般に公表され学外の一般参加者から好評を得た。研究自体もさらに発展した。平成22年度に採択された最先端・次世代研究開発支援プログラム事業（臨床医学研究所・熱帯医学講座）についても研究は順調に実施された。</p> <p>再生医療研究体制を整備するため、総合医科学研究センターに再生医学研究部が設置され整備も進めた。プロジェクト研究部腎臓再生研究室では異種同胚を用いたヒト腎臓再生研究が実施され、またGMP対応施設を用いた臨床研究での治療が順調に行われた。</p> <p>遺伝病研究講座に加えて平成23年4月に開設された「アレルギー学研究講座」も順調に推移した。</p> |
| <p>(3) 総合医科学研究センターに関する目標</p> <p>①自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。</p> <p>②研究成果を積極的に開示する。</p> <p>③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。</p>         | <p>①自己点検評価、外部評価のありかたについて更に検討を重ねる。総合医科学研究センター各研究施設の内部評価を実施する。</p> <p>②「DNA医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」の規模の拡大を検討する。</p> <p>③総合医科学研究センターのホームページ更新により共同利用の促進を図る。大型の研究費の獲得状況など活動状況をホームページで公開する。</p>   | <p>学内の年報等を通じて自己点検・評価を外部に公開した。総合医科学研究センター評価委員会は、評価結果を学長に答申した。</p> <p>平成23年7月11日に「DNA医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」が開催された。本年度、医用エンジニアリング研究室、並びに神経生理学研究室の参加があった。</p> <p>大学のホームページの充実を図った。総合医科学研究センターのホームページを更新し、共同利用機器等の情報がさらに分かりやすくなった。研究費の獲得による機器の説明会等についても学内のオールユーザーメール等を通じて周知され、情報公開が進んだ。</p>  |
| <p>(4) その他</p> <p>①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。</p>   | <p>①市民および地域医療者の公開講座を継続し、補助金を活用して積極的に開催する。</p>   | <p>公開講座を大学および4附属病院主催で25回開催し、一般市民および地域医療者を対象として1,977人の参加が得られた。また、(独)日本学術振興会の委託を受け、高校生を対象とした「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施し、15名の参加があった。</p>   |



| 中期計画  | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果  |
|---|--|---|
| <p>3. 附属病院（4病院）に関する目標</p> <p>(1) 医療安全の推進</p> <p>①医療安全・感染対策管理体制の点検・評価を実施する。</p> <p>②教職員の教育・研修の定期的開催と医療安全文化を醸成する。</p> <p>③医療問題および感染症発生時の迅速な対応体制を確立する。</p> <p>④私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。</p> <p>⑤システム工学を応用して業務を可視化し根本原因の検索とシステム改善を行う。</p> | <p>①附属4病院リスクマネジメント委員会や4病院相互ラウンドによる連携強化と問題解決を行う。</p> <p>②【医療安全】全附属病院でTeam STEPPSを取り入れることを目標とし、講義を含めた積極的な活動を行う。</p> <p>【感染対策】感染対策の基礎研修である感染対策ベーシックコースの普及を目指す。</p> <p>③【医療安全】附属4病院リスクマネジメント委員会での事例検討と改善策共有、日々の業務の中で病院間の連携を図り医療問題の解決へ取り組む。</p> <p>【感染対策】本院感染対策委員会を中心に連携強化していく。</p> <p>④【医療安全】新たにラウンドする施設の取り組みを参考に当院の医療安全推進活動の見直しを行う。</p> <p>【感染対策】私大協議会の事務局として、相互ラウンド、サイトビジット、各作業部会などの事業を推進する。</p> <p>⑤投薬ミス（本院、第三）、患者誤認（青戸・柏）をテーマに東大・早稲田・慈恵共同研究を行い、各現場での取り組みの浸透を目指す。</p> | <p>【医療安全】附属4病院の相互ラウンドや年間5回の附属4病院セーフティマネジメント会議を定期開催した。また、各専門職（医療安全管理者、薬剤師、臨床工学技師、事務員）の定期的なミーティングを行い情報の共有と改善に向けての相互支援を行った。</p> <p>【感染】附属4病院の相互ラウンドへの参画や感染対策委員会において4病院感染対策ベンチマーク報告を実施した。附属病院感染対策委員会において、各病院におけるアウトブレイク事例などの報告、共有を行った。</p> <p>【医療安全】附属4病院の全職員配布のセーフティマネジメントマニュアル（携帯版）にTeam STEPPSの内容を追加し周知を図った。各附属病院、看護学校への出張研修も含め、Team STEPPSエッセンシャルコースを21回開催し、1,411名の参加があった（他に外部からの参加者26名）。モデル部署が医療安全推進週間でのポスター展示、活動報告会での報告を行った。</p> <p>【感染】感染対策ベーシックコースver.2を集合教育17回（参加人数：1,925名）、出張教育43回（参加人数：683名）実施した。手指衛生指数5.03（2010年度）→7.71（2011年度）へ上昇し、手指衛生剤の使用量の増加が認められた。3月7日に医大協感染対策協議会のサイトビジットを受審し感染対策の実施状況についておおむね良好との評価を受けた。</p> <p>【医療安全】4病院のセーフティマネジメント委員会を通して各病院で発生した事例に対しディスカッションし改善策を共有した。</p> <p>【感染】第三病院で発生したアウトブレイク事例対応への支援を実施した。</p> <p>【医療安全】東京女子医科大学附属病院との相互ラウンドを行い、特に当院の術前合同カンファレンスへの高い評価を得た。また、東京女子医科大学附属病院での術前タイムアウトを参考に、当院の術前タイムアウトの見直しを検討する。当院において、都内11私大病院の各施設の医療安全の取り組みについての報告会を行った。</p> <p>【感染】私大感染対策協議会総会を10月15日に開催した。他大学のサイトビジットの調査員として6施設のサイトビジットに参加するとともにその報告書のとりまとめを行った。</p> <p>投薬ミス、患者誤認・業務の標準化に関する共同研究を行い「薬剤希釈確認ラベルの導入」・「看護師管理下内服薬の投与忘れの減少」・「中心静脈カテーテル挿入技術の可視化」を行い成果をあげた。又学会での報告を行った。</p> |
| <p>(2) 先進医療の推進</p> <p>①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。</p>  | <p>①-1 低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを周知させ振興する。</p> <p>①-2 患者ニーズに対応した先進医療を提供するため、各診療科からの申請に迅速に対応する。また、幅広く情報提供を行い先進医療の拡大を推進する。</p>   | <p>同運営委員会として各医師に訓練室の利用促進について働きかけた。受験者、合格者とも堅調に推移しており、手術室をはじめ院内での認知度は着実に増加している。</p> <p>年々増加する高度・先進医療の申請に対し、推進を行っている。本年度については、先進医療審査委員会を3回実施するなど、医療技術の推進に貢献した。</p>  |



| 中期計画   | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果  |
|--|--|---|
| <p>(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進</p> <p>①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。<br/>(医師・看護師・SW等が協働できる体制)</p> <p>②ボランティア受入れ体制を整備・強化する。</p> <p>③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。</p> | <p>①BSCを用い、更なる訪問活動、懇談会への参加を通し関係医療機関等の情報把握、共有に努める。</p> <p>②ボランティアの定着と更なる人員増に努め、活動範囲の拡大を推進する。</p> <p>③前年に続き、院内PFM構築に参画し切れ目のない支援体制整備にする。</p>  | <p>次の項目を実施し、連携体制の整備に取り組んだ。<br/>戸別訪問9施設、同窓会支部長訪問13施設を実施した。<br/>大学同窓会の協力の下、同窓開業医マップ作製を開始した。<br/>1都3県の医療機関へアンケート調査(1,345件)を行い、439件の回答を得て一覧表に纏めた。これを基に、今後イントラネットに掲載されている「後方支援リスト」の情報を更新する。</p> <p>平成23年度新規活動登録者数は66名で、総活動登録者数は131名となった。活動状況は、月平均活動実人数75名、月平均活動延べ人数139名である。今年度は、小児病棟での活動休止期間が約4週間あったが、活動実人数、延べ日数とも前年度より増加した。活動内容は現在の固定された場所以外にも、要請に応じて講演会の会場案内等の活動にも参加した。</p> <p>退院支援スクリーニング、入院時の病棟訪問を継続して実施。<br/>30日以上入院患者状況を病棟、入院調整と共有し協働して支援を行った。</p>   |
| <p>(4) 効率的な医療の推進</p> <p>①DPCに対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。</p> <p>②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。</p>                                  | <p>①-1クリパスWG等によるDPCに対応したクリニカルパスの導入により、抗癌剤のジェネリック採用などを推進し、標準化、安全と効率化を図る。</p> <p>①-2購入額比率の高い注射薬のうち後発薬品に切替可能な品目を検討、薬事委員会に答申する。</p> <p>①-3外来疾病別原価分析を実施する。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者勤務適正化委員会を中心に、医師の業務軽減に関する検討を継続する。</li> <li>・事務業務分掌規程に合致した業務標準作業書の作成・推進活動を行う。</li> <li>・医師の事務業務作業の軽減に向けて組織体制を見直す。</li> </ul> | <p>DPC分析に基づいたクリニカルパスの追加及び変更には至らなかった。クリパスWGでは、眼科：白内障クリパスについて、使用クリパスの標準化より、旧来システムからバスマスタへの移行作業を計画し、システム課及び診療科と調整を行った。抗癌剤の後発品への切り替えについては、平成24年3月に実施した。(本院)</p> <p>抗癌剤投与におけるクリニカルパスを始め、13種の新規パスの作成を行い標準化し効率を図った。また、前年度までのパスの見直しを行い、現行に沿ったパスへと変更した。(第三)</p> <p>旧病院のクリニカルパスは35症例であったが、新病院では電子化し85症例に増やすことができた。適用数も大幅に増加し効率化と標準化が進捗した。(葛飾)</p> <p>当院はがん診療連携拠点病院であることから5大がん(乳がん、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん)を中心に新規クリニカルパスを作成し、運用を開始した。後発薬品への切替等については、順次対応し、パスの見直し作業を進めている。(柏)</p> <p>購入額比率の高い注射薬のなかで抗癌剤を含む10品目を後発薬品に切り替えるべく薬事委員会に答申した。その後、診療部会議に諮った後、各機関で周知を十分行った後、後発薬品に切り替えた。</p> <p>当初は、(株)メディアスの原価計算ソフトを導入し外来疾病別原価分析を行う予定であった。しかし、タイの洪水の影響で設置予定のサーバーの納期が遅れたことや給与システムの変更等により原価計算ソフト導入検証業務に遅れが生じ、今年度は未実施となった。導入後は診療部会議へ報告する等、各診療科の改善に繋げたい。</p> <p>業務課員の病棟配置を行う中で事務業務の効率化を進める病棟事務業務効率化3ヵ年計画において、平成23年度計画病棟の配置を終了し、平成24年度計画病棟の準備を行った。今後、配置を進める中、事務員が担当する業務拡大及び医師、看護師との業務分担を進める。(業務課)</p> <p>今年度も医療従事者勤務適正化委員会にて、業務課を中心に検討が進められた。その結果、診断書の下書きや病棟における診断書の受付、DPC調査における事務代行入力などの運用が開始されるなど、医師業務の軽減に向けた支援策の構築が順調に進められている。(医師人事)</p> <p>西新橋事務部門において標準作業手順書WGを発足し、各部署にて定例業務に関する手順書を作成した。平成24年度は作成した手順書のブラッシュアップを図り、各機関へ拡大を図る予定。(人事課)</p> |

| 中 期 計 画   | 平成23年度事業計画   | 平 成 23 年 度 実 施 結 果  |
|---|--|---|
| ③共通操作性のあるオーダーリングシステムの導入を検討する。   | ③青戸病院リニューアル後のシステム稼動評価を経て、4附属病院のシステム化を検討する。   | 本年1月より葛飾医療センターが開院し、各種システムの稼動を開始した。現在システム稼動評価中であり、評価内容を基に第三病院のシステム化に向けてベンダ選定・導入を検討する予定である。   |
| (5) 予防医学の推進<br>①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。<br>②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。 | ①<br>・病院オーダーリングシステムとの連携を継続検討していく。<br>・予防医学として禁煙教室を広めていく。<br>・ドック受診後精密検査該当者の追跡調査を行う。<br>②-1 健診・予防医学センターと連携しシステムを構築する。<br>②-2 体力医学研究を推進し学会発表や論文発表を行い研究の活性化を図る。 | 胸部・腹部CT及び頭部MRのオーダーリング導入により病院との連携ができた。また、卒煙教室の開催及び看護師による追跡調査は、今後も継続していく。<br><br>希望者に対してメディカルチェックを実施した。<br><br>学会発表など行った。   |
| ●附属病院（本院）に関する目標<br>①特定機能病院としての機能を充実させる。                                       | ①各診療科へ病院としての具体的な支援策強化や実施申請方法の簡素化を継続して行う。   | 特定機能病院としての機能充実のため、本年度は高度医療技術の推進および医療安全の向上を中心に実施した。<br>毎月の診療部会議にて、各診療科において実施している臨床研究で特に先進性の高いものを新規申請するよう促した。また、本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各診療科に配布し、当院での実施状況を確認、さらに新規申請手続きが非常に煩雑であるため、管理課事務員が医師のサポートを行ったことにより、下記の通り新規申請、承認件数が増加した。<br>※平成23年度の高度および先進医療技術⇒合計12件<br>症例確保においては、経費の一部を病院が負担している。<br>医療の安全性について、毎年実施される関東信越厚生局による立入検査（平成23年11月2日実施）においての指摘事項を迅速に改善した。<br>その他、施設基準の届出事項（患者紹介率等）は毎月確認した。専門医・指導医の人数も充足している。（管理課）<br>侵襲が高い処置・手術に関する説明は患者のみならず家族にも理解していただくために説明と同意書の署名欄の内容の見直しを行った。附属4病院共通の書式として導入を予定している。（医療安全） |

| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|--|---|---|
| <p>②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させ、がん診療連携拠点病院の指定を目指す。</p> <p>③人材育成(スキルアップ)を行う。</p> <p>④院内研修制度の充実を図る。</p> | <p>②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させ、がん診療連携拠点病院としての機能充実を目指す。(院内がん登録の促進、がん相談支援体制の確立、ホームページ等を用いた院内外への広報活動、レジメンオーダーシステム全科稼働)</p> <p>・がん関連会議への積極的参加によりがん拠点病院との情報共有を行う。</p> <p>③学内事務員およびコメディカル職員のキャリアパスを取り纏め、体系・整備を行う。<br/>カンファレンス・CPCによる症例検討を活発に行う。剖検率の改善を図る。</p> <p>④「家庭医・再研修コース」を周知し、利用を促進する。</p> | <p>「腫瘍センター」を組織し、院内がん登録の促進、がん相談支援体制などを強化することができ、がん診療に対する高度な医療を行うべく体制整備を行った。その結果、平成24年4月1日付で国より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けることができた。今後もがん医療の更なるレベルアップに向けての取り組みを継続して行う予定である。(管理課)</p> <p>各診療科に対し、各種委員会を通じてレジメンオーダーシステムでの入力を依頼した。がん化学療法を多く行っている診療科についてはレジメンオーダーシステムで入力しているものの、がん化学療法の実施率の低い診療科に対する説明等の事前準備が遅れており、レジメンオーダーを利用しての処方割合は全体の56%に留まった。(薬剤部)</p> <p>がん相談支援体制整備のため以下の項目を実施した。その結果、がん相談件数は増加し、内容的にも患者・地域住民のニーズに対応できる体制の整備は進んでいる。</p> <p>東京都がん診療連携協議会 相談情報部会、港区緩和ケア協議会への参加</p> <p>がん相談支援室の規程、対応手順の見直し</p> <p>院内外へ広報 (HP更新、パンフレットの配布、ポスターの掲示、患者支援団体主催フォーラム内での病院紹介展示など)</p> <p>がん患者サロン・学習会の開催</p> <p>腫瘍センターBSC作成への参画</p> <p>なお、平成24年4月1日付で地域がん診療連携拠点病院として認可を受けた。(患者支援・医療連携センター)</p> <p>着手したが完成には至っていない。(人事)</p> <p>平成23年度においても臨床研修センターが中心となりCPCを年6回開催した。多くの研修医、医学生等の参加が得られた。(教員医師)</p> <p>平成23年度においても本コースの利用者はなかった。平成24年度には総合診療部レジデントプログラムが刷新される予定であり、利用促進を図りたい。</p> |
| <p>①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。</p>  | <p>①-1 STEP2 (アニマルラボにおいてより実践的な手技の評価を行う)を継続的に実施し、受験者、合格者の増加を図る。</p> <p>①-2 STEP3の暫定運用を円滑に開始する。</p>   | <p>5回の認定試験を実施し(実験動物研究施設および高次元医用画像工学研究所)新たに45名が認定され、認定者総数は225名となった。また、平成24年度中におけるSTEP2の他機関への導入に向けて具体的な検討を行った。</p> <p>平成23年度より申請を受け付け、2回審査を行いゴールドライセンス15名、シルバーライセンス5名を認定した。今後年間2回程度審査を行う予定である。</p>  |

| 中 期 計 画                                  | 平成23年度事業計画   | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|--|--|---|
| ①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。             | <p>①【医療安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間工学に基づいた医療安全システムの構築を図る。</li> <li>・術前合同カンファレンスの各診療科による主体的運用を行い活性化と円滑な運用を図る。</li> <li>・Team STEPPSを主体とした医療安全エッセンシャルコースを定期的に開催し、医療安全文化の醸成を推進する。</li> <li>・オカレンスの項目内容の再検討を行い職員への周知徹底をする。また医師からの報告件数の増加を図る</li> <li>・対外的な研修の参加</li> </ul> <p>【感染対策】耐性菌対策の推進</p> | <p>【医療安全】術前合同カンファレンスは各診療科が主体的に参加し本年度は、37件開催された。<br/>Team STEPPSエッセンシャルコースを定期的に開催し1,411名の参加があった。全部署対象に当院の医療安全文化に関するアンケート調査を実施した。また、Team STEPPSモデル部署による医療安全推進週間でのポスター展示、活動報告会での報告を行った。<br/>オカレンスレポートの項目のみならず、報告システム・報告画面の再検討を現在行っている。医師からの報告は376件と横ばいではあるがオカレンス報告は252件と増加が見られた。<br/>東大・早稲田・慈恵の共同研究を通し、看護師管理の投与忘れ・CVC挿入に関して業務の標準化の視点で問題点の抽出と改善策に取り組んでいる。<br/>医療の質・安全学会で4題の学会報告を行った。計画的に室員の研修参加を行っている。</p> <p>【感染】耐性菌発生の情報共有や監視培養の実施など着実に定着しつつある。実効性を伴った教育啓発活動との相乗作用によって、MRSAの院内での発生率や院内MRSA菌血症の発生率は減少した。(MRSA菌血症0.09→0.06へ減少した。)広域抗菌薬の使用量はAUD(使用密度)では若干の減少であるが、使用症例数は減少している。</p> |
| ①インフォームド・コンセントを徹底する。                     | <p>①患者からの苦情や意見を統計化し、インフォームド・コンセントに関する事項については該当科へフィードバックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者説明同意書の改訂・新規作成時に共通項目を統一様式とする。</li> </ul>   | <p>患者からの苦情や意見(投書箱も含む)があった場合、現場でのインフォームドコンセントが確実に行われていたか状況を確認した。徹底されていない場合は直接注意し、警鐘事例は医療安全管理部と連携を取りリスク会議や診療部会議にて報告を行い、併せてデータベース等統計資料類も作成した。(管理課)<br/>侵襲が高い処置・手術に関する説明は患者のみならず家族にも理解していただくために説明と同意書の署名欄の内容の見直しを行い、附属4病院共通の書式として平成24年1月より運用開始した。(医療安全)</p>   |
| ①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。                  | <p>①BSCをもとにタイムリーな評価・修正を行い、患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。</p>   | <p>患者支援・医療連携センターの役割やあるべき姿を検討することで、体制整備の具体策を一致して3部門で協働してすすめることが出来た。</p>  |
| ①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。 | <p>①臨床研究コーディネーターのレベル向上と治験の件数の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際共同治験へ積極的な参画に努める。</li> </ul>  | <p>新規治験依頼件数は、医薬品24件、医療機器2件で合計26件であり、好調な伸びを示した。<br/>平成23年度末時点で稼働中の治験総数57件のうち国際共同治験は26件、45.6%で順調に対応している。<br/>SMO(治験施設支援機関)を導入した治験は12件で全体の21%である。平成23年度中には、臨床試験4件を含む最大70試験が稼働したが、院内CRC7人に加え派遣CRC4～6人が協力し、支障なく支援体制を整えられた。<br/>厚労省の治験拠点病院からは外れたが、治験審査委員会委員の勉強会は継続している。<br/>医師主導治験を開始し、研究支援課と協力して、実施に向けた必要物品の購入手配などを行った。</p>  |



| 中期計画   | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果   |
|--|--|--|
| <p>①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。</p> <p>②効率的な診療体制の構築を図る。</p> <p>③手術室の効率運用を図る。</p> <p>④救急患者受入れの体制整備を行う。</p> | <p>①レジメンオーダ、処置オーダの全科稼動と対象（レジメン種、入院処置）拡大を図る。</p> <p>②-1 RRS（rapid response system）の委員会を結成、運用を図り、院内救命率を上げる。</p> <p>②-2 各科外来に散在している静脈注射、瀉血等の集約化を図り、外来点滴室の有効活用と質の向上を図る。</p> <p>③-1 外来棟手術室での麻酔科管理症例の増加とそれに伴う救急患者受け入れ体制の強化を図る。</p> <p>③-2 ディスポ品と滅菌器械の患者別セット化に向け継続的に取り組む。</p> <p>・手術を安全、効率的に運用するために手術器械セットメニュー表の改善や借用器械の写真付き表などの作成について検討する。</p> <p>④地域救急医療システムの強化(学外)<br/>慈恵4病院内の救急連携の強化(患者の移送・医師の派遣)</p> | <p>レジメンオーダ：平成24年3月にシステム改修を行い、後発品の切替が可能となった。</p> <p>処置オーダ：外来部門においては、眼科、歯科、救急科を除いて導入を行った。入院部門については、稼動検討に至らなかった。</p> <p>※眼科＝検査室への端末設置を手配中、歯科＝マスタ設定についてベンダーと確認中</p> <p>基本料オーダ：仕様検討を行ったが、稼動には至らず、次年度に持ち越しとなった。（業務課）</p> <p>外来処置オーダでは、眼科は操作端末の増設が稼動条件となっており、今般旧青戸病院引上げ端末を充当することとなったため、現在4月以降で稼動準備を調整している。また歯科は稼動に向けた打合せを実施しており、医療費改定作業を終えた5月より導入準備を進める予定である。</p> <p>入院処置オーダは、看護支援システムとの連動機能が不足しており、現機能で実施した場合に現場での作業効率低下が想定されるため、機能改善・追加も視野に入れながらメーカーと調整している。</p> <p>レジメンの後発薬品への切替は予定通り3月に実施し、特記事項なく稼動している。また、未実施科についても薬剤部と調整を行い、平成24年6月より全面稼動する予定である。（システム課）</p> <p>委員会を結成しシステム構築を進めている段階である。</p> <p>各科依頼の一般点滴、酵素療法（主に小児科）実施。年間3,895件月平均約325件。輸血・瀉血は運用基準で対象外としている。年間を通しコンスタントに各科から依頼がある。</p> <p>看護師穿刺数は年間940件月平均255件、看護師穿刺率は月平均78%であった。</p> <p>外来棟麻酔科管理症例の増加と臨時手術の増加が10～20%程度得られた。</p> <p>患者別セット化についてはカート準備コスト増、保管スペースの確保が困難であり運用を検討中。DRG（疾患別医療材料セット）の拡充と器械セットメニュー表の改訂にて手術準備の効率化、正確性の向上に繋がった。</p> <p>診療医員（非常勤）の登録（兼務であるが、本院⇒柏、本院⇒葛飾）救急リーダー医師間のPHSの有効的活用<br/>病院間患者搬送車に関して進行中</p> |
| <p>①月次医療収支額を把握する。</p> <p>②DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。</p> <p>③医療材料のSPD業務の再編を行う。</p>                         | <p>①月次医療収支額に基づくコスト管理の強化、収益性の向上を検討する。</p> <p>②6大学ベンチマークプロジェクトを継続的に推進する。</p> <p>③更なる4病院の物流効率化、標準化と大学全体の物流全般に関する将来計画案を策定する。</p>   | <p>病院運営会議において、毎月の収益目標の達成状況を収益、経費の視点から分析、検証している。コスト管理の強化、収益性の具体的な提案までには至っていない。</p> <p>定例会議を2回（5月、2月）実施した。毎月の各種指標の交換を実施し、前年度の結果を取り纏めた報告書を作成した。作成した報告書は病院運営会議、法人運営会議に資料として提供し活用を行った。なお、後発薬の導入率等の新規指標の交換を検討したものの、指標対象には至らなかった。</p> <p>SPDフローシステム（不要となった材料を回収し、必要としている部署に再度払出す仕組み）を構築し、資源を有効活用した。又、年2回棚卸しを行い在庫管理を徹底すると共に定数の見直しを行い、使用期限切れの防止活動を実施した。（企画部）</p> <p>「医材・物流ワーキング」が中心となり、4病院のスケールメリットを活かしコスト削減を実現した。平成21年度から平成23年度までの期間において約4,700万円の医療材料の経費削減を実現した。（事務部）</p>  |



| 中 期 計 画   | 平成23年度事業計画   | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|---|--|---|
| ①診療情報を評価するシステムを構築する。  | ①病院年報作成委員会にて選ばれた指標を公開する。   | 病院年報作成委員会を組織し、平成22年度版を10月に発刊した。(管理課)<br>今年度は、本院の病院年報作成初年度ということもあり冊子を発行するのみに止まった。(企画部)   |
| ①働きやすい環境整備等を行う。<br><br>②女性教職員・女性医師の復職を支援する。                                 | ①アンケート調査等を行い引続き職場環境の整備を検討し、具体的な改善を実施する。また、情報提供によりハラスメント防止に努める。<br><br>②病児預かり室のPR、対象者の拡大、受入れ人数の検討を継続して行う。再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。 | 院内各部署から寄せられた意見や要望等を病院運営会議等でも取り上げ、対応策等について検討し、病院全体の職場環境整備に努力した。(管理課)<br>女性医師キャリア支援室にて女性医師の勤務環境整備を中心に女性医師からアンケート調査を実施するとともに、各科医局長から聞き取り調査を行い、勤務環境の整備に関する検討が進められている。(医師人事)<br>新入職員に対するアンケート及び面談を実施し、問題を解消するように努めた。<br>自己申告を実施し、在職者の意見を聴取し、問題を解消するように努めた。<br>ハラスメントに関する広報を「THE JIKEI」に掲載し、啓発を行った。<br>ハラスメントに関する基本方針を策定し、H24.4.1付で制定したハラスメントに関する啓発用のリーフレットを改定した(人事課)<br>平成23年6月にアンケートを実施(配布人数:367名、回収率:80.4%)、集計結果を大学・病院に報告するとともに、ポスターで教職員に公開した。なお、平成24年度においては、附属4病院に拡大してアンケートを実施することとした。(企画部)<br><br>平成21年8月より病児預かり室「ひわまりルーム」を開設したが、順調に運用されている。今年度より女性医師だけでなく男性医師も含む臨床系の医師を対象とし、預かり人員も3名とした。(管理課)<br>登録数医師:12名、看護師:33名。年間利用回数医師:22回、看護師:103回。3日間連続預かりは看護師3回であった。6月より預かり定数3名に増員した結果、1日3名を預かった日は7日間であった。10月より小児科医師の協力のもと初回預かり児の受診を8:00~受付に変更したが、実際は8:30過ぎの受診が多かった。(看護部)<br>女性医師キャリア支援室にて、利用者アンケートを実施し、その結果を基に利用初日の小児科受診開始時間の繰上げについて改善要望を行った。今後も継続して関連部署と連携し、広報活動を行う。(医師人事)<br>規程を改定した。また、退職者説明用のパンフレットの再就職・再就職登録の案内を改定し、周知に努めた(人事課・給与厚生課) |
| ①晴海トリトクリニックの機能を点検・評価する。   | ①本院と連携体制の取り決め事項を再検証し、受け入れ態勢整備の推進を図る。   | 外来予約お断り件数を調査(6ヶ月間)して、特にお断り件数の多かった皮膚科、整形外科の診療部長に、医師派遣日増加について願い書を提出して検討してもらったが、現状では難しいとの事であり、医局の状況が好転した段階で再度依頼することとした。  |
| ●葛飾医療センターに関する目標<br>①開かれた組織体制を構築する。<br><br>②各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。 | ①病院全体BSC・各部署BSC共にブラッシュアップを行い、診療部への拡大を図る。<br><br>②運営委員会の活動性と成果を評価する。新病院に向けて運営委員会の再編を検討する。   | 病院全体BSC・各部署BSCのブラッシュアップは行ったが、診療部への拡大には至らなかった。<br><br>リニューアルTF・WGと各運営委員会が連携・機能し諸問題を解決した。   |
| ①収支を改善し、経営の安定化を図る。  | ①-1新病院移転に伴う患者数調整等を踏まえ支出管理を強化する。  | 患者数調整は計画通りに行われた。医療経費は医療収入の増加に相関し10%予算を超過したが、管理経費は5%圧縮できた。   |

| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|--|---|---|
| ②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。   | ①-2<br>・平成24年度の診療体制を明確化し医師の定数を決定する。<br>・新病院運営における職員数の確定検証を行う。<br>②収益性分析、生産性分析情報の可視化により問題箇所の明確化を図り、改善に取り組む。  | 医師定数は3名増126名を実現した。その他、入退院・医療連携センターへの所属長配置、栄養部の全面委託、看護部事務員の事務部への所属変更した。<br><br>収益性分析、生産性分析情報の可視化により、問題箇所を明確にし、改善に取り組めた。  |
| ①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。<br><br>②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。<br><br>③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。  | ①-1 同窓の開業医を訪問し、更なる登録医拡大に努める。<br><br>①-2 転院の円滑化に向けた具体的な病病連携システム作りに取り組む。<br><br>②医療連携室と連携し実効性のあるメディカルカンファレンスを開催する。<br><br>③東京都看護職員復職支援事業の受託を継続し地域へ貢献する。   | 江戸川地区の集患目的に医療機関訪問を行い、情報交換、連携方法を確認した。<br><br>葛飾地域医療連携協議会及び葛飾区在宅医療検討部会に参加し、ネットワーク作りを推進するとともに、南かつしか病院ネットワークの活動も活発に行い、地域医療機関における連携の中核を担った。<br><br>年間3回の公開セミナーを開催（昨年2回）し275名（昨年169名）の参加が得られた。<br><br>年間3回の研修を実施し、14名（昨年10名）の受講生を受け入れた。   |
| ①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。<br><br>②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。<br><br>③医療の効率化、透明化、標準化を図る。<br><br>④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行う。<br><br>⑤新病院にICU・CCUを設置する。 | ①受入体制・当直体制等の運用細則を確立し実行する。<br><br>②手術室周辺業務の委託化により業務強化と効率化を進め、手術件数の増加を図る。<br><br>③新病院においてシステムとの互換性のある効果的なクリパスの拡大を行う。<br><br>④新病院におけるPFM機能を職種横断的に確立する。<br><br>⑤ICU・CCUの稼動に向け準備委員会において運用を確立する。  | 看護師によるトリアージの実施、超急性期脳卒中受入体制確立が図られた。<br><br>手術室効率化のため中央材料室の業務委託を計画通り完了した。手術件数は、病院移転前後の患者数の制限の影響もあったが、概ね目標値を達成した。（3,954件）<br><br>DPCに適用したクリニカルパスを策定、新病院ではシステム化により適用件数が大幅に増加した。<br><br>入院（予約）受付、医療連携室、ソーシャルワーカー室、在宅療養相談室、検査・術前説明など一体的に業務を展開する「入退院・医療連携センター」として、組織化を図り事務管理者を配置した。<br><br>委員会規程の制定、集中治療管理料施設基準取得により同室の充実が図られた。  |
| ①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。（平成23年竣工を目指す。）   | ①-1 具体的な引越し計画及び開院準備、開院、開院後の病院運営を行う。病院名を改称する。<br><仮称>東京慈恵会医科大学葛飾医療センター<br><br>①-2 官公庁検査、解体計画の検証・実行、インフラ導入、竣工後のシステム、診療機器、什器・備品などの具体的導入計画を策定し、開院する。<br><br>①-3 システムのマスタ作成を平成23年6月までに終了し、7月～9月にテスト・教育及び操作訓練を実施する。10月竣工後は、システム設置及び動作検証と本番環境でのリハーサルを実施し開院する。<br><br>①-4 インフラは平成23年10月竣工までに整備し、道路を含む外構関係は平成24年6月までに整備する。 | 開院準備、移転については、安全を優先し計画を策定・実施し無事開院を果たした。開院前後の期間、計画的に患者数を制限したが3月には回復した。病院名称の変更手続きは遅滞なく実施し、1月5日医療法の改称を実現した。<br><br>建築の官公庁検査は無事仮使用認可を取得し、解体計画も計画通りに検証、実行に至った。竣工後にシステム、診療機器、什器・備品なども具体的導入計画も予定通り遂行し開院に至った。開院後も大きな障害もなく、順調に稼動を続けている。<br><br>マスター作成、操作訓練、リハーサルテストを計画通り遂行し、平成24年1月1日に新システムを稼動した。開院後もシステムは安定稼動し大きな不具合は発生していない。<br><br>旧棟解体の土壌調査で敷地内に土壌汚染を確認した。その除染作業の影響で、外構整備計画の完了及び関連法規の許可取得は、平成24年12月に変更となる予定である。 |

| 中 期 計 画   | 平成23年度事業計画  | 平 成 23 年 度 実 施 結 果  |
|---|---|---|
| <p>●第三病院に関する目標</p> <p>①診療に関する情報を公開する。</p> <p>②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実させる。</p> <p>③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。</p> | <p>①-1 各科にアンケート調査を行い、診療及び治療成績開示内容の見直しを検討する。</p> <p>①-2 病院BSCと部門別BSCを実際に運用し更なる情報の見える化を推進する。</p> <p>②公開健康セミナー・ホスピタルフェアを開催し、地域の健康増進に積極的に取組む。</p> <p>③救急室管理体制の改革を実行し、救急受入数の増加を図る。</p> | <p>診療に関する情報公開の開示については、昨年と同様の項目内容で提出頂くこととし、各診療部長に依頼した。提出された診療部の「治療内容と治療成績」を院内1階、中央ロビー横の掲示板に情報開示した。</p> <p>病院BSC及び部門別BSCをイントラネットに掲載している。四半期毎に見える化ポスターを作成し、教職員共有スペースに掲示、全部署に配布した。</p> <p>公開健康セミナーは8月と11月を除いて計10回開催し1,245名の参加者があり好評であった。また、狛江市市民大学2回、ちょうふ市内・近隣大学公開講座4回実施、いずれも参加者多数で好評であった。11月6日に開催されたホスピタルフェアは天候不良にもかかわらず1,200名を超える来場者があった。また、今回は狛江・調布市との災害時における地下水の利用協定に基づく、ライフライン見学を実施し、地域との結びつきの強化が図られた。</p> <p>平成23.6月より、外科系5科（外科、整形外科、脳外科、泌尿器科、形成外科）輪番制による初期診療体制を開始した。また、外部医療機関からの救急患者診療要請限定内線の設置、登録医ホットラインの全時間対応を2月より開始予定である。</p> <p>9月より月1回救急隊員との顔の見える関係づくりとして、狛江救急隊員へ各科より講義を行っている。12月には狛江消防署との第1回救急搬送患者の症例検討会を実施した。結果として、救急搬送数、患者数ともに前年比で増加傾向にある。</p> |
| <p>①医療材料コストを見直す。</p>  | <p>①導入した手術原価管理システムについて精度を上げ、厳格なコスト管理を進める。4機関共同購入のアイテム数を更に増やすよう努める。</p>  | <p>手術原価管理システムデータを基に、手術別原価分析を実施した。4機関共同購入では、4品目の切替を完了させ、経費削減を図った。</p>  |
| <p>①診療部を評価する。</p>   | <p>①各診療部の多面評価によるベスト診療科選出を実施し、診療体制の改善を図る。</p>  | <p>平成23年度は各診療部の多面評価により麻酔部が選出された。</p>  |
| <p>①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。</p> <p>②各科の診療内容実績を分かりやすくアピールする。</p>  | <p>①タイムリーな情報提供し、患者数の増加を図る。</p> <p>②各科別の診療案内パンフレットを随時更新する。</p>   | <p>第三病院ホームページの更新を行い、アピール度を更にアップした。</p> <p>診療案内パンフレットは患者から好評で、異動や新規項目の追加など随時更新を図ってきた。パンフの補充も頻繁に行っている。また、新たに第三病院スタッフ並びに病院機能を紹介したパンフレットを作成し、院外行事等で活用した。</p>  |
| <p>①病診連携、病病連携のための強化を図る。</p>   | <p>①-1<br/>・後方連携病院の開拓と関係強化を図る。<br/>・地域医師会主催の連携の会への積極的な参加による医療連携の拡大を図る。</p> <p>①-2 近隣医師会並びに近隣医科大学との情報交換を継続する。</p>  | <p>後方連携病院との関係強化については、総合医療支援センターによる後方病院（療養型病院）へのコンスタントな訪問活動（年間9医療機関）の結果、担当者間の顔の見える連携関係が構築され、訪問病院への転院増加へ繋がった。また、医療連携の拡大については、医療連携フォーラムの開催、各種広報誌の発行、救急体制の見直し、地域医師会医学会（世田谷区医師会）への参加等により紹介元医療機関の拡大に努めた結果、年間の紹介件数は過去最高の数字（16,132件）を記録した。</p> <p>世田谷区医師会の学術医学会に医療連携をテーマとする演題を含め9演題の発表を行なった。今年も私立医科大学多摩6大学附属病院長・事務長会での情報交換を実施した。</p>  |
| <p>①高齢者に対する対応策を検討する。</p>  | <p>①地域住民および行政・医師会等が地域中核病院に求めるものを把握に努め、高齢者対策に結びつける。</p>  | <p>本年1月に北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会での地域連携診療計画参加病院を計画管理病院から連携保険医療機関へと切替え、回復期の患者増を図った。</p>  |

| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画   | 平成 23 年 度 実 施 結 果  |
|--|--|--|
| ①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。<br>②入院患者向け行事を開催する。                 | ①法医棟建替、1・2・3号館・ロッカー室建替、精神科外来改修、脳神経外科外来改修を行う。<br>②各種「癒しの行事」を継続開催する。   | 精神神経科、脳神経外科改修工事は、予定通り竣工した。法医棟新築工事関連で新1号館工事の確認申請が受理され、着工した。<br><br>平成23年度はロビーコンサートを計9回開催し、入院患者さん等らは毎回好評が得られている。   |
| <b>●柏病院に関する目標</b><br>①包括化による減収を回避する。<br>②医療の効率化、標準化による安全を確保する。 | ①クリニカルパスのオーダ化を進め、パス内容を改善することで、包括化による減収を回避する。<br>②DPCデータ活用により、近隣地域の同規模病院とのベンチマーク分析が実施可能な環境・関係を構築し、医療の効率化、標準化を進める。                   | 頻度の高い眼科の白内障、耳鼻科の副鼻腔手術、5大がんについて、クリニカルパスを新規策定し、パスオーダを開始した。また、既存のクリニカルパスについても後発薬品への切り替え等に対応し、随時見直しを図り、減収を回避している。<br><br>クリニカルパス委員会を中心に新規パス導入を推進している。分析ソフト“girasol”の活用についての研修会・セミナーにも出席し、他院とのパス比較によるDPC毎のコスト削減対策について検討している。  |
| ①入院から退院・転院まで一貫した患者支援を行う。病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。           | ①患者支援センターの構築とPFM機能の充実。病院全体BSCをブラッシュアップし、各部門BSCの拡大を図る。  | 平成23年9月、患者支援・医療連携センターを開設し、全麻の術前オリエンテーションをグリーンカウンターにて開始した。また、入院前に感染症及び内服薬のチェックを実施し、入院後の院内感染・服薬事故発生を防止している。今後も術前オリエンテーション対象科の拡大を推し進め、PFM (Patient Flow Management) の充実を図る。BSCについては、今年度は病院のほか、昨年度作成した職員部門（看護部、中央検査部、薬剤部、栄養部）のブラッシュアップに加え、新たに診療部門として外科、循環器内科、泌尿器科のBSCを作成し、病院の指針、ビジョンに即したアクションプランを作成実施し、KPIを達成することで病院運営に大きく貢献した。                    |
| ①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。<br>②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。       | ①ベッドの効率的運用、土曜日の実施体制を整備し、病棟で行っている化学療法患者を極力外来化学療法室で実施する。<br>②4疾病・がんの全県共用地域医療連携パスの積極的活用に向けて、協力医療機関を増やすと共に連携を強化する。                     | 化学療法を外来化学療法室での治療に集約することで患者のQOLを高めた結果、昨年度と比較して、外来化学療法実施件数が約700件プラスとなっている。今後についても、外来化学療法室の運用面、患者動線等を検討して、更なる外来化学療法室の稼動向上に努めていく。<br><br>転院先確保のための病院訪問、連携登録医・病院の拡大、医療連携フォーラム・東葛医療連携実務者協議会の開催等を通じて協力医療機関との連携を強化した。全県共用地域医療連携パスについては、子宮頸がんパスの拡大が図られた。がん拠点病院活動を通して、子宮がんパスの普及に努めた。   |
| ①手術件数の増加を図る。   | ①-1手術室のシステム見直しにより効率運用を推進し目標手術件数を達成する。<br><br>①-2<br>・ピッキング業務の委託化を実施し、手術室運用の更なる効率化を推進する。<br>・術後短期での転院等も含めた手術件数増加に対応する病床運用システムを構築する。 | オペラマスターシステム等で調査した内容を手術室業務改善小委員会にて分析し、術間の短縮や一部業務の委託化による看護師の本来業務へのシフトなどの業務改善を行った。また、滅菌コンテナシステムの段階的稼働や手術室物品管理業務（DRGシステム）の導入により、手術室業務全体の効率化を図ることができた。その結果、手術件数は目標件数を上回る6,922件となった。（次年度の手術件数については、救命救急センター対策のため件数増加は予定していない）<br><br>手術室物品管理業務（DRGシステム）により、看護師本来の業務時間が増え、質の向上及び効率化が図れた。また、DRGセット内容の見直しを継続して行い、ロスが少ない状態を保っている。現在のDRGセット数は200種類になっている。 |



| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|--|---|---|
| ②救急受入れ患者の増加を図る。  | ②<br>・円滑な退院・転院の運用により病棟および救急室の空床を確保し、常時、救急患者が受入可能な体制を構築する。<br>・救急患者の受入可否の迅速な回答を完全実施する。   | 患者支援・医療連携センターを通じた転院・在宅移行等円滑な退院調整により空床を確保し、救急患者の受け入れ体制を整備した。また、循環器内科ホットラインの開設・運用開始により、救急要請に対して循環器内科の医師が直接対応する窓口の一元化を実現した。<br>また、救命救急センター開設に向けた準備として、トリアージナースを配備した院内トリアージ体制の構築、及び情報端末を利用した各病棟の空床及び観察室の空き状況、各科の救急受入れ状況の情報共有の整備を実施した。   |
| ①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。                          | ①-1 4 疾病・がんの全県共有地域医療連携パスを活用し、循環型地域医療連携システムの円滑運用を推進する。<br><br>①-2 内視鏡部門のシステム化および画像のPACS化を図る。<br><br>①-3 待ち時間短縮やトイレ等の病棟の環境改善に取り組み、院内全体のアメニティー向上を進める。<br><br>①-4 柏病院の救急を強化し、増床計画を含め地域医療への貢献に努める。 | 患者の転院調整を行う上で、訪問先の病院の特色及び収容可能な疾病・患者等の内容を確認するため、患者支援医療連携センター（医師・看護師・SW・事務員）にて複数の近隣医療機関への訪問を実施した。子宮頸がんパスの活用を拡大したが、その他 4 疾病・がんの地域連携パスの活用までには至らなかった。<br><br>平成24年4月2日より内視鏡部門システムが稼動し、検査結果画像と報告書がオーダ端末から参照できるようになった。今後は、履歴参照や医事会計との連動を平成24年度下半期までに実施する予定である。<br><br>事業計画により空調設備機器の更新、外来トイレ（業務課側）の整備及び本館A棟屋上遮熱塗装を実施し、院内の環境改善を行なった。<br><br>平成24年4月1日付で救命救急センターの指定を受けた。なお、センター運用病床数は44床である。<br>平成24年3月28日付で増床許可（40床）が得られた。管理棟（仮称）の増築後に病床を開設する予定であり、県への申請では平成26年11月としている。 |
| ①導入によるメリット、デメリットを検討する。                                   | ①オーダシステムのレポート機能等の拡充に沿ってシステム評価をする一方、電子カルテシステムとオーダシステムとの差異分析などの検討を進める。  | 葛飾医療センターにおいて慈恵大学初となる電子カルテシステムが稼動したため、現在稼動評価を行っている。評価内容により附属病院や柏病院のオーダシステムとの差異について分析を行い、第三病院への導入検討資料とする予定である。  |
| <b>II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標</b><br><b>1. 運営体制の改善に関する目標</b> |   |   |
| ①理事会機能を検証する。   | ①自己点検評価委員会において法人全体の機能を検証する。   | 大学記録及び平成24年度の事業計画（案）の点検を行い、委員会の意見を反映させた。  |
| ②慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。                                  | ②広報誌やホームページを通じて、教職員に周知すると共に内外に向けて本学の姿勢を発信する。マナーハンドブックを新規採用医師に配布し行動憲章、行動規範の周知を図る。  | 今年度より The JIKEI への掲載を行い教職員を含めた同窓・父兄等へ周知した。また、既掲載のホームページ並びに慈恵ニュースを活用して内外に向けて発信した。（広報課）<br>平成23年度より、新規採用教員（医師）を対象に、行動憲章・行動規範等を盛り込んだマナーハンドブックを配布した。研修医、レジデントには研修開始式にて配布したほか、新規採用された教員（医師）にも随時配布している。（医師人事）<br>今年度新たに教員・医師ハンドブックを作成し、周知した。行動規範の一部を具体化したハラスメントに関する基本方針を、ホームページに掲載した（人事課）   |
| ③施設基準等の定期点検を行う。  | ③該当する施設基準等について情報収集に努め常に算定できるようにする。  | 関係部署・科と連携をとりながら、新規施設基準の算定や現行制度の維持促進に努めた。看護要員数に関しては、看護部との定期的なチェック体制を確立し、法令を遵守した適正な7対1体制を維持することができた。  |
| ④慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。                              | ④病院機能評価にて「3-b」と評価された項目を中心として業務の見直しを図る。  | 病院機能評価において「3-b」と評価された項目について、各部署での改善状況について調査等の実施による確認作業を次年度以降も継続して実施する予定である。   |



| 中 期 計 画                               | 平成23年度事業計画   | 平成 23 年 度 実 施 結 果   |
|---------------------------------------|--|---|
| ⑤内部監査の充実を図る。                          | ⑤補助金（研究費、経常費補助金等）監査、業務監査の充実、ならびに監事、外部監査人と更なる連携を図ることにより内部統制の強化を推進する。  | 今年度計画した以下の内部監査は予定通り実施し、理事長に報告した。<br>【公的補助金監査】<br>私立大学等経常費補助金（平成22、23年度分一般補助ならびに平成22年度分特別補助）<br>文部科学省科学研究費補助金等（平成22年度分）<br>厚生労働科学研究費等補助金（平成22年度分）<br>研究費に関するモニタリング（平成23年度分・期中監査）<br>【業務監査】<br>事務部門における仮払金（準備金）管理業務<br>『平成21年度慈恵実業内部監査報告書』による改善指摘事項の改善状況についての検証<br>事務部門における業務手順書の整備状況<br>監事ならびに外部監査人に内部監査結果を報告するとともに意見交換を行った。   |
| ⑥補助金（公的研究費、私立大学等経常費補助金等）に係る管理体制を充実する。 | ⑥補助金（公的研究費、経常費補助金等）の管理を充実し、内部統制強化を推進する。  | 平成23年4月、私立大学等経常費補助金（一般補助・特別補助）の業務全体を総括する専門の係（担当者）が研究支援課に配置された。平成23年度は、一般補助・特別補助とも項目・配分方法が近年にない大幅な見直しがあったが、多くの関係部署と連携し申請時のチェックを実施した。なお、平成23年度の重点項目となったホームページでの情報公開について加点水準まで拡充が図られた。   |
| ⑦個人情報保護の継続的注意を喚起する。                   | ⑦講演会を実施し継続して注意喚起を行う。   | 外部講師を招聘して、個人情報保護合同委員会主催による全機関合同研修会を1月25日に実施した。  |
| ⑧本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。      | ⑧-1大学の教育研究活動ホームページの充実と更新頻度の高いホームページを主体に入力し易い形式を検討する。<br>⑧-2広報誌・ホームページ・慈恵トピックス掲示板などを活用し、教職員・同窓・医療界・取引先・患者・社会へ積極的に情報を発信する。 | 教育・研究等の情報公開について、内容の充実を図った。また、更新頻度の高い外来担当医表の簡易入力方式を葛飾・第三・柏病院にて導入した。<br>広報推進室のメディアネットワークを通じた自発的な働きかけにより、読売新聞、NHK、週刊ダイヤモンド等からの取材を実現し、慈恵の医師による先進的治療、研究のメディア露出機会を拡大した。同時に、学内広報誌、オールユーザー、高木会館掲示板等を通じ、附属4病院はじめ学内外関係者との“メディア報道情報共有”を加速した。附属病院イントラネットの本院経営指標「慈恵NOW」に見える化している「平成23年度主要メディア掲載数」497件（前年度より36件増）が示す通り、情報発信量は年々増加している。これに伴い病院の社会的評判、ブランドは順調に向上しており、病院の堅調な経営、医師国家試験合格率・医学部入試偏差値の高さなどを水面下でサポートしている。 |
| ⑨有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。               | ⑨休日・夜間の有事の際にも初期対応がスムーズに行えるようマニュアルをブラッシュアップする。  | 有事に備えた休日・夜間マスコミ対応マニュアルは本年は活用されなかったが、平日・日中は、幾つかの複雑なメディア対応案件に対し、的確な初期対応により報道を最小限に留め、かつ学内関係者に迅速に情報共有した。これはマニュアルの的確な応用といえる。   |
| ⑩事業計画の実施状況を確認する。                      | ⑩事業計画と整合性のあるBSCの作成を促し大学の中長期計画が各部門の目標と連動するよう進める。  | 事業計画と各部門目標の連動を目的に各部門の年度目標の提出形式をBSCを用いた形式への切替（任意）を依頼したところ35%が新形式での提出であった。部門目標の提出形式（BSC）を浸透するよう、より周知を進める必要がある。  |
| ⑪BSCを普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。             | ⑪BSC新規作成部門を選定しワーキンググループを実施する。  | 7部門でBSCの作成を行い、2月21日に“見える化”報告会を実施した。<br>参加者からはBSCや“見える化”活動に対して前向きな感想が得られた。<br>またBSC自体もより具体的でシンプルなものが作成されるようになってきているが、作成したBSCに対する評価や検証が進んでいない。  |

| 中期計画   | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果   |
|--|--|--|
| <p>2. 人材活用に関する目標</p> <p>①職員の人材育成制度を強化する。</p> <p>②人事評価システムを充実させる。</p> <p>③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。</p> | <p>①-1 研修制度の体系化の確立。OJT制度の検証を行う。</p> <p>①-2 異動計画・昇級基準を盛り込んだ事務員キャリアパスを作成する。</p> <p>①-3 事務員を主に自己申告を実施する。</p> <p>②学長諮問会議による昇格審査には教員評価システムへの入力が必要であることを学内に周知し、教員による入力率を高め、評価結果を教員昇格資料として積極的に利用していく。</p> <p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム保守の業務内容を再検証し人員数と保守時間帯の見直し提案を実施する。</li> <li>・医療従事者勤務適正化委員会にて医師の業務軽減について検討を進める。</li> <li>・葛飾医療センター開設時の要員数を関係部署と決定する。</li> </ul> <p>③-2 非正規労働力を有効活用し、人件費の流動費化を促進する。</p> <p>③-3 事務業務分掌規程に合致した業務標準作業書の作成・推進活動を行う。</p> | <p>職員階層別研修を職能資格と紐付けさせて体系的に確立した。また、OJTリーダーおよび新入職員に対し、OJT状況調査を実施し、問題点を抽出した。</p> <p>着手したが完成には至っていない。</p> <p>事務職員を対象にキャリア申告を実施した。今後、隔年にて実施していく。</p> <p>教授会議などにおいて随時周知しているほか、事務より昇格候補者に個別に同システムへのデータ入力を依頼している。また、教員の入力率向上のため、教員評価システムの入力方法に関するマニュアルをイントラネットに公開し、オールユーザーメールにて随時、入力の必要性について周知している。</p> <p>医師業務軽減を実現するには、質の高い医療事務員の養成は必要不可欠である。平成24年3月に『慈恵・認定医療事務養成コース』を開講し、平成24年度附属病院業務課採用者に対して業務課員が講師となり研修を行った。今後、各種業務（診断書作成、DPC様式1入力、がん登録、手術予約オーダーなど）を代行できるよう準備を進めている。（業務課）</p> <p>葛飾医療センターのシステム保守は8月より研修を開始し1月より本業務を開始した。稼動後、経過と共に問合せ件数は減少しているものの、操作者（医師、看護師など）の人事異動による習熟度低下防止対応や稼動評価中であることを鑑み、当面現行体制で対応する。なお、第三病院のシステム化を検討する際には、葛飾医療センターでの評価・実績内容に基づき見直しを行う予定である。（システム課）</p> <p>医師の業務軽減策については医療従事者勤務適正化委員会にて順調に検討が進められ、順次運用が開始されている。葛飾医療センターの医師数については、現行の総数を維持しながら、各科の医師定数は同センターとしての意向を確認しながら決定した。（医師人事）</p> <p>葛飾医療センター開設時の要員数についてはコメディカルのみ一部変更しており、事務員等については運用変更やシステム導入を検証した上で、見直しを行う。（人事課）</p> <p>常用職員及び派遣社員の後任に契約職員を採用し、契約職員数を増やしたことにより流動費化を推進した。</p> <p>契約職員の就業規則を改定し、考課の公平性を高めた。契約職員の処遇を改善することにより活性化を促進した。</p> <p>求人に優位となるようパート職員時給を増額改定し、パートタイム職員を有効活用できる環境を整備し、人件費の流動費化促進を所属長会議にて働きかけた。（人事課・給与厚生課）</p> <p>西新橋事務部門において標準作業手順書WGを発足し、各部署にて定例業務に関する手順書を作成した。平成24年度は作成した手順書のブラッシュアップを図り、各機関へ拡大を図る予定。（人事課）</p> <p>事務組織改定を踏まえ、西新橋で完了後着手予定である。（葛飾）</p> <p>4機関統一の標準作業手順書を基に、平成24年度より作成を進める。（柏）</p> <p>標準作業手順書作成WG（西新橋）において、4機関統一の標準作業手順書作成を行っている。4機関統一の標準作業手順書を基に、分院共通の標準手順書の作成に着手する。</p> |

| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果  |
|--|---|--|
| ④教職員の定着率を高める。<br><br>⑤看護師確保体制を確立する。  | ④-1 継続して教職員アンケートを実施する。<br><br>④-2 教職員のメンタルヘルスケア対策を強化する。<br><br>⑤採用活動と定着を強化し看護師の確保に努める。  | <p>新入職員のアンケートを実施した。新入職員の適応状況調査には重要なアンケートであり、面談も含め今年度も継続予定である。(人事課)</p> <p>平成22年度に引き続き、6月にアンケートを実施(配布人数:367名、回収率:80.4%)、集計結果を大学・病院に報告するとともに、ポスターで教職員に公開した。アンケート結果の活用方法については次年度以降に検討したい。(企画部)</p> <p>「新型うつ病と職場不適応」についての周知説明を所属長会議において実施し、人事部門において平成23年度新入職員全員に対しワークライフアンケート及びメンタルフォロー面談を実施した。(人事課・給与厚生課)</p> <p>その他、メンタルヘルス対策の向上を目的に、現状対策をリストアップ評価し、改善必要項目の検討を行った。(給与厚生課)</p> <p>就業規則を改定して、療養休職制度の構造を見直した。また復帰のときのルールを作り、明確化した(人事課)</p> <p>柏病院の平成24年度救命救急センター指定に向けて看護師の増員が求められたが、大きく不足していたため、他3機関から業務応援・研修・転勤という形で合計27名の看護師を異動させ、ほぼ目標数を確保することができた。平成24年度の求人に向けて、広報媒体の整備(看護部ホームページの新設あるいはリニューアル、共通求人パンフレットの改訂、柏病院単独の求人パンフレット新規作成)、インターンシップ実施回数増加等を行った。平成23年度内に総務部に新設された「ナース就職支援室」と連携・協働するために、4病院看護部にナース就職支援室窓口担当師長をおくことを決めた。定着促進については効果的な方策を見出すことが今後の課題である。(看護部)</p> <p>合同説明会の参加、求人訪問、各種広告媒体への参画、柏病院に特化した広告掲載を行うとともに、採用試験を3月にも実施するなど、看護師獲得対策を実施したことにより、総数管理上必要数に対してプラス要員となった。また、次年度に向け、ナース就職支援室を設立するとともに、合同就職説明会、広告媒体への参画数を大幅に増やし、学生に対して本学の看護を広くPRするよう努める。(人事課)</p> |
| <b>3. 事務の効率化・合理化に関する目標</b><br>① 適正なITグランドデザインを構築し、IT戦略を策定する。<br>② 附属4病院にオーダーリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。<br>③ ネットワークの更新と再構築を行う。<br>④ 経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。 | ① 中長期計画のIT投資適正化の検証組織を策定する。<br>②<br>・ 柏病院でのレジメンオーダ、処置オーダの導入準備を進める。<br>・ 附属病院オーダシステムの更新計画と第三病院システム(HIS)の具体的な計画案を策定する。<br>③ システム導入計画に合わせたインフラ整備計画を策定する。<br>④ システム全般に関する検討組織を設置し経営管理データの一元管理について検討する。 | <p>3月24日の常任理事会において組織体制(情報システム統括委員会、医療情報室、ICT戦略室の設置)が決定した。今後この組織が適切なIT戦略を策定していく。(財務部・総務部・企画部)</p> <p>レジメンオーダについては、平成24年度に附属病院と同機能で稼働させる予定である。処置オーダについては、入院分について稼働に向けた検討を開始する予定である。</p> <p>附属病院オーダシステムについては主要機器の更新作業を平成24年5月に予定しており、付帯機器(端末・プリンタなど)についても平成24年度中に更新を予定している。また、第三病院については、葛飾医療センターのシステム評価を基に導入計画する予定である。</p> <p>葛飾医療センター開院に伴い、4機関ネットワーク更新が完了した。</p> <p>情報システム統括委員会、医療情報室、ICT戦略室の設置が理事会にて承認され新年度から運営することとなった。</p>  |

| 中期計画  | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果  |
|---|--|---|
| <p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</p> <p>①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。</p> <p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p> | <p>①-1 中期計画の財務的な裏づけを検討できる組織へと発展させる。</p> <p>①-2 収支状況の月次把握を本実施する。</p> <p>②-1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急患者の受入れを強化し地域医療に貢献する。</li> <li>2. 手術室における看護業務および業者委託業務の区分見直し等による手術室の効率運用を進める。</li> <li>3. クリパスの拡充等によるDPCの適正化。</li> <li>4. BSCの運用による改善項目の検討実施。</li> <li>5. 医療連携を強化し、紹介患者受入と逆紹介の積極運用等により外来患者の確保を図る。</li> </ol> | <p>長期資金計画は例年通り財務部が取り纏めて夏季常任理事会で発表したが、体制の検討までには至らなかった。</p> <p>月次の作業も定着し、毎月概ね25日前後に消費収支状況の報告ができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急隊からの連絡ルートについては、救急部で受け入れ判断を行う東京ルールに基づいた対応に切り替えた。循環器内科、脳神経外科においては、診療パスに基づいた当番医が割り当てられ、救急部病床を含め協力体制を行った。(業務課)</li> <li>2. 清掃業務の委託を増やし、外来棟手術室で全身麻酔手術を行えるようにした。外来棟手術室での全身麻酔手術実施により中央棟手術室での急患受入体制が整ったため、急患数が増加した。(看護部(手術室))</li> <li>3. クリニカルパス委員会では、旧システムの移行作業に留まり、DPC分析に基づいたクリニカルパス再編並びに拡充には至らなかった。(業務課)</li> <li>4. BSCは7部門で作成を進めた。BSCはこれまでより具体的にシンプルなものを作成されるようになってきたが、作成したBSCに対する評価や検証が進んでいない。(企画部)</li> <li>5. 患者支援・医療連携センターとして、病病連携強化のための病院戸別訪問を9施設及び慈恵同窓会支部長訪問を13施設行い、また救急搬送患者地域連携医療機関は8施設と連携するなどの活動を行うことにより、更なる地域医療連携の強化を図った。(本院 / 患者支援・医療連携センター)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急あり方委員会で検討を行い、外科系救急診療体制の運用を変更実施した。実施後、救急患者数が月平均約62名の増加に繋がった。</li> <li>2. 手術原価管理システム(OC-system)の導入により、術式別原価管理分析も施行している。手術室の縦割り運用を開始した。また、手術件数増加の対応として手術室・中央材料室看護補助員の完全委託化を前提とした業務改善を実施。(大学雇用3名から1名へ)</li> <li>3. 医局への個別説明会を実施し情報提供及び改善項目を提示した。</li> <li>4. BSC推進委員会により、各部署の重点改善項目の進捗状況の確認を定期的の実施し、主管委員会及び病院全体への周知、意識啓蒙等を図っている。</li> <li>5. 医療連携の強化については、医療連携フォーラムの開催や地域医師会医学会への参加による地域医療機関との交流、また各種広報誌の発行等の広報活動、さらには救急受入れ体制の見直し等により、紹介患者の確保に努めた結果、年間の紹介件数は過去最高の数字(16,132件)を記録した。(第三)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急室看護師のトリアージ機能充実により受入れを強化できた。</li> <li>2. 手術室の業務改善・委託化により、効率運用が図れた。</li> <li>3. 今年度は新病院で使うクリパス作成に努め新たな導入は行わなかった。</li> <li>4. BSCはブラッシュアップにより、改善項目の洗い出しができた。</li> <li>5. 医療連携強化により医療連携室経由紹介患者は増加した。(葛飾)</li> </ol> |



| 中期計画   | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果   |
|--|--|--|
| <p>③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。</p>  | <p>②-2 平成23年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に応募申請する。研究費申請の講習会を開催して採択率の向上を目指す。</p> <p>③分析ソフトを活用し各診療科毎、疾患別DPCの分析を行い増収および減収分析から改善を提案する。</p>  | <p>1. 患者支援・医療連携センターを通じた転院・在宅移行等円滑な退院調整により空床を確保し、救急患者の受け入れ体制を整備することにより、救急搬送数を増加することが出来た。</p> <p>2. 平成23年9月に手術室物品管理業務（DRGシステム）を導入したことにより、看護師のピッキング業務が大幅に減少し看護師本来の業務に時間を充てることができた。現在のDRGセット数は195種類である。</p> <p>3. 頻度の高い眼科の白内障、耳鼻科の副鼻腔手術について、クリニカルパスを新規策定し、パスオーダーを開始した。今後も頻度の多いものを優先して作成予定である。また、既存のクリニカルパスについても随時見直しを図り、減収を回避している。</p> <p>4. 今年度は病院のほか、昨年度作成した職員部門（看護部、中央検査部、薬剤部、栄養部）のブラッシュアップに加え、新たに診療部門として外科、循環器内科、泌尿器科のBSCを作成し運用を開始した。</p> <p>5. 後方連携病院との関係強化については、患者支援・医療連携センターによるコンスタントな病院訪問活動を実施し、関係強化に努めている。また、医療連携の拡大については、近隣の医療機関の訪問実施、医療連携フォーラムの開催、地域医療スタッフと慈恵医大柏病院との連携を図るための懇談会を開催した。（柏）</p> <p>平成23年度「私立大学戦略的研究基盤支援事業」を申請した研究プロジェクト「課題名：安定同位体医学応用研究基盤拠点（SI医学応用基盤拠点）の形成」（5年：総額320百万円）が選定された。平成22年度に選定された研究プロジェクト「課題名：DNAマイクロアレイシステムを基盤としたエピゲノム臨床研究と分子標的薬リード創出」（5年：総額260百万円）と合わせて実績が2件となった。本年度採択された事業について機器の設置計画が決まり整備が進んだ。</p> <p>DPC分析ソフト（girasol）を利用し、平成24年度診療報酬改定に伴う調査、諸官庁や各診療部からの疾病統計やがん疾病による診療圏調査、診療報酬請求における適正な資源病名の選択に活用している。しかしながら、疾病別の詳細な分析については、医療経費（消耗品、人件費など）が反映されない為、他システムの構築が必要となる。（本院）</p> <p>DPC請求と出来高請求の比較分析を継続実施し、診断群分類による包括外検査等見直しが必要な診療行為については、各診療部へ情報提供し、更なる収益改善提案を実施した。（柏）</p> <p>DPC分析を実施し、病院全体及び診療科ごとの課題を抽出し改善に繋げた。（葛飾）</p> <p>課内にDPC研究会を設置し、分析に要する体制を整備した。当該研究会にて当院におけるDPCコード頻度調査を行ったうえ、件数の多いDPCコードのコーディング分析を行った。本年度は副傷病名の有無による収入増を中心に検討し、DPCコードに対しコーディングに関連する副傷病名についての連絡票を作成した。本件については、次年度以降も継続して対応を進める。（第三）</p> <p>DPC分析ソフト（girasol）を用いて、2012年診療報酬改定後のインパクト等（手術増額分等）を検証した。（企画部）</p> |
| <p>2. 経費の抑制に関する目標</p> <p>①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。</p> | <p>①「4病院医療材料・物流検討WG」を中心に医療材料の4病院共同購入を継続して推進する。病院買取の不要品が他部署で使用出来るシステムを検討し無駄、滅菌切れを防止する。手術室の医療材料の収支状況データを有効活用し、経費削減、業務効率化を推進する。</p> | <p>医療材料の4病院共同購入は対象品を慎重に検討しながら、継続して実施している。また、滅菌期限切れ防止、無駄の削減、啓蒙を目的とし、病院買取の不要品を返却し、他部署で使用出来るシステムの運用を開始した。手術室の医療材料の収支状況データを有効活用し、医療材料の新規導入、切替えの際のコスト収支予測を作成し、医療材料委員会などの審議の際に活用している。</p>  |



| 中 期 計 画  | 平成23年度事業計画  | 平成 23 年 度 実 施 結 果  |
|--|---|--|
| <p>②医療経費の抑制を図る。</p> <p>③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。</p> <p>④IT グランドデザインに基づくIT投資計画、包括的なIT関連経費の適正化を推進する。</p>              | <p>②4病院医療材料・物流検討WGで継続的に医療経費（医材）をモニターし、評価する組織として継続させる。</p> <p>③「エネルギー管理統括者（本部）」、「エネルギー管理企画推進者（本部）」、「エネルギー管理者（各機関）」の選出と省エネ委員会の設置を行う。</p> <p>④ITの全体計画、適正金額の評価、執行を判定する組織の設置。IT経費の適正化の評価を実施する。</p> | <p>企画部と共同での情報収集を継続中。（管理課）<br/>棚卸しや4病院全体の医療材料のモニタリング、使用量のモニタリング、標準化と低価格品への切り替え等を随時実施した。（企画部）</p> <p>昨年は、震災以降夏の電力不足による節電対策委員会を発足し、患者エリア以外を照明の間引き、空調の温度28度設定等の啓蒙活動を実施し、7月は前年同月比11%、8月は17%電力量を削減することが出来た。また、「エネルギー管理統括者（本部）」は谷口常務理事、「エネルギー管理企画推進者（本部）」は施設課長で関係官庁へ提出した。平成24年3月14日に各機関の省エネルギー委員会委員長及びエネルギー管理委員を含めた「第1回慈恵大学エネルギー対策委員会」を発足した。来年度は、西新橋キャンパスの委員会を発足し、慈恵大学全体の省エネルギーに対する啓蒙活動を行って行きたい。</p> <p>平成24年3月24日の常任理事会において組織体制（情報システム統括委員会、医療情報室、ICT戦略室の設置）が決定した。今後この組織が適切なIT戦略を策定していく。</p> |
| <p><b>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</b></p> <p>①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。</p> <p>②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</p>   | <p>①施設・設備計画を策定する体制を検討する。</p> <p>②資産管理のシステム化を実現し、効果的な投資計画策定の準備を進める。</p>  | <p>西新橋キャンパスにおいては、予算計上した工事を進めることが出来た。その他、第三病院看護学科増築工事および新1号館新築工事に着工することが出来た。青戸病院旧看護専門学校道路拡幅工事に関して葛飾区との調整を行っている。柏病院においては、病床の増床並びに管理棟増築工事に伴う建築計画等に参画している。</p> <p>資産管理システムを導入しデータ移行を完了。今後このシステムを活用して機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</p>  |
| <p><b>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</b></p> <p>①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p>  | <p>①-1 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。</p> <p>①-2 大学自己点検評価委員会を定期的に開催し、大学基準協会への中間報告に向けて、準備を進める。</p> <p>①-3 平成21年度大学基準協会自己点検評価により、指摘された内容の改善を推進する。</p>   | <p>ホームページの情報公開の内容を充実させた。</p> <p>平成21年度実地調査等の評価内容を踏まえ、懸案事項を大学自己点検評価委員会にて継続審議した。</p> <p>各種委員会から提出された自己点検評価報告書も活用しながら、指摘事項についての検討を行なった。</p>   |
| <p><b>V. その他事業運営に関する重要目標</b></p> <p><b>1. 青戸病院リニューアルに関する目標</b></p> <p>①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。</p> <p>②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。</p> | <p>①②新青戸病院の開院準備を遅滞無く進め、平成24年1月5日に開院する。</p>  | <p>新青戸病院の開院準備を計画的に進め、平成24年1月5日に開院した。開院後は病院も安定稼働しており、安全担保のために患者数を減少させたが、平成24年2月後半には通常患者数に回復している。</p>  |

| 中期計画  | 平成23年度事業計画   | 平成23年度実施結果   |
|---|--|--|
| <p><b>2. 附属病院外来棟建築に関する目標</b></p> <p>①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。</p> <p>②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。</p> | <p>①西新橋キャンパス全体の建物基本計画を策定し、新外来棟の建築計画に反映する。</p> <p>②検討した新外来棟のコンセプトに基づき建築計画を具体化する。</p>  | <p>平成23年12月の常任理事会にて、コンサルタント会社選定のためのプレゼンテーションを行い、平成24年1月の常任理事会にてコンサルティング会社は三菱総合研究所とすることが決定した。これまでの検討内容を検証するとともに、本学の課題を洗い出す予定である。また、今後の支援業務の進め方については、3月より三菱総合研究所と打合せを行い常任理事会にて、基本構想および基本計画の策定スケジュール、プロジェクト実施体制を提案し承認された。</p>   |
| <p><b>3. 大学マスタープランの策定に関する目標</b></p> <p>①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。</p>  | <p>①マスタープラン検討委員会、外来棟建築準備委員会等の検討組織を確立し大学全体構想を策定する。</p>  | <p>西新橋キャンパス再整備計画については、新外来棟建築を第1目標にコンサルティング会社を選定した。施設面での教育・研究・診療機能については、新外来棟建築計画と併せて検討を行っていく予定である。総合的な大学全体構想（マスタープラン）については、今後検討する。</p>  |
| <p><b>4. 創立130年記念事業に関する目標</b></p> <p>①“共に歩む慈恵”にふさわしい記念事業を実施する。</p> <p>②記念事業に必要な寄付金を募集する。</p>                              | <p>①生涯学習の機会の提供を継続的に行う。</p> <p>②記念事業に必要な寄付金の募集を継続する。</p>  | <p>生涯学習センター主催の月例および夏季セミナーを開催した。</p> <p>東日本大震災への義援金活動と重なったため、平成23年3月から同年9月末まで自粛した。5年間の目標額20億円に対して平成24年3月末(募集期間1年半)現在で29.95%の達成率であった。</p>  |
| <p><b>5. 大規模災害時の対応に関する目標</b></p> <p>①大規模災害時の体制を強化する。</p> <p>②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。</p>                                    | <p>①-1 大規模災害時の指示・命令系統と情報伝達について確認し再構築する。</p> <p>①-2 必要な食料、薬剤、医療材料等を点検し、確保に努める。また供給体制を整える。</p> <p>①-3 スタッフの出勤困難時の対応策を検討・構築する。</p> <p>②建物、施設の安全性を点検し、整備する。また、整備計画を策定する。停電に対応する設備および体制を構築する。</p> | <p>H24.3.14にテレビ会議システムを使用して4病院合同災害対策訓練を実施した。震災対策を中心に、震災時の病院の状況、震災対策調査結果の報告、地震発生時の行動と災害対策マニュアルの周知、病院のBCPに関することをテーマとして、災害対応策の周知を図った。全機関で451名の参加であった。</p> <p>震災によってメーカーの工場が被災し、医療材料が供給出来ない状況であったが、今後の体制としては、メーカーには常に何処の工場が災害にあっても他工場にもある一定の材料が確保出来るようお願いすると共に、他の製品にて代用できる体制を構築していく予定である。(施設課)</p> <p>日常在庫量の備蓄日数調査を行い、災害時に必要な在庫量の確保に努めた。また収納スペースを占める補液については、補液用カートを導入し在庫量を増やすことができた。(薬剤部)</p> <p>災害時マニュアルに準じた備蓄食品及びディスポ食器、調理機器の定数確認、不足部分の補充を行った。(栄養部)</p> <p>着手したが完成には至っていない。</p> <p>震災以降建物の点検をし、建物施設等一部改修工事を行ったが安全性を確認し、問題は発生しなかった。また、停電時の対策として非常用発電機を2台購入して対応を図った。外来棟において停電時における非常電源使用状況を検証した。平成24年度は高木会館、大学2号館エレベータの停電時着床設置工事を予定しており、引き続き計画的に大規模災害に対する整備計画を行っていきたい。(施設課)</p> <p>本院における救急医療体制が維持できるだけのシステム環境整備について検討を計画している。(システム課)</p> |

| 中 期 計 画          | 平成23年度事業計画                        | 平 成 2 3 年 度 実 施 結 果   |
|------------------|-----------------------------------|---|
| ③被災地への支援体制を構築する。 | ③被災地への支援体制を整備し、要請に応じて医療スタッフを派遣する。 | 管理課と協力し、災害医療派遣を実施した。派遣者の延べ人数は、ふくしま自治研修センター55名、宮城県気仙沼市6名、北茨城市立総合病院4名、福島第一原子力発電所1名、南相馬市立総合病院15名(継続中)であった。 |

## 〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成24年度事業計画

### 〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：質の高い医師と看護専門職者の育成と臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

### 〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

#### 質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院教育の充実と改善を推進する。

#### 本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

#### 質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師・保健師としての技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 附属病院の特色を活かして各附属病院の活性化と機能分化を図る。

### I 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

## 〔基本方針〕平成24年度の基本方針と重点施策

### 教育に関する重点施策

#### 質の高い医療人の育成

- ・ 卒前教育の改善と充実を図る。
- ・ 卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
- ・ 看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。
- ・ 看護学専攻修士課程を看護学科、看護部、看護専門学校と連携させて発展させる。

### 研究に関する重点施策

#### 医学・看護学研究の推進

- ・ 各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
- ・ 新たな研究分野を開拓する。
- ・ 研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
- ・ 医療現場と連携して看護学研究を振興する。

### 医療に関する重点施策

#### 医療安全の推進

- ・ 医療安全体制を検証し、国民に信頼される医療安全システムを構築する。

#### 地域医療への貢献

- ・ 附属病院の救命救急体制を充実させ地域医療に貢献する。
- ・ がん診療に関する専門職者の育成に努める。
- ・ 柏病院の救急を強化し、増床計画を含め地域医療への貢献に努める。
- ・ 第三病院の収支構造の改善を図る。

#### 職種間の協力体制

- ・ チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

### 大学運営に関する重点施策

#### 法令遵守の徹底

- ・ 教職員の法令遵守精神を向上させる。

#### 安定した財政基盤の構築

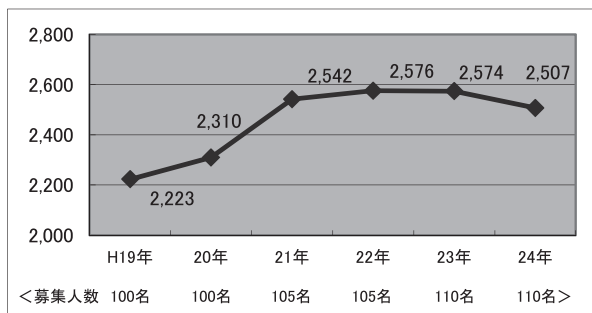
- ・ 大学における収支構造の点検を行う。
- ・ 機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。
- ・ 収支状況の月次把握ができるようにする。
- ・ 医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
- ・ 後発薬品の採用を推進し医療経費の削減を図る。
- ・ IT関連経費の適正化と全体計画検討組織を整備する。

#### 広報活動の充実

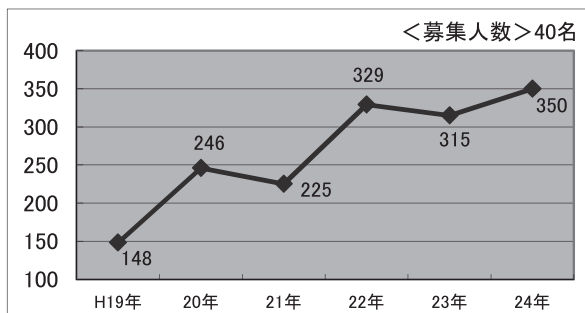
- ・ 広報誌、ホームページを充実させ、本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールすると共に病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に活用する。
- ・ 大学建築マスタープラン・西新橋キャンパス整備計画に関する計画を推進する。
- ・ 地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。
- ・ 大規模災害時の組織の再整備とBCP（事業継続計画）を策定する。
- ・ 今期中期目標・中期計画を評価し、次期中期目標・中期計画を検討する。



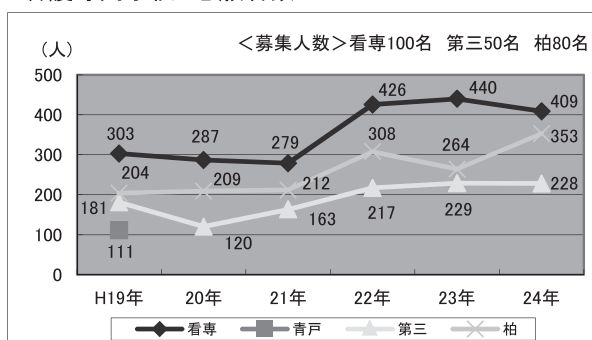
大学志願者数（医学科）



大学志願者数（看護学科）

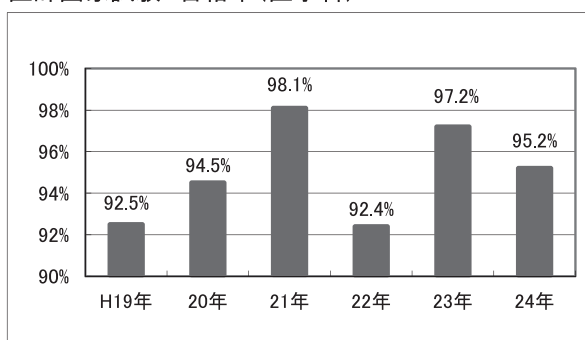


4看護専門学校 志願者数

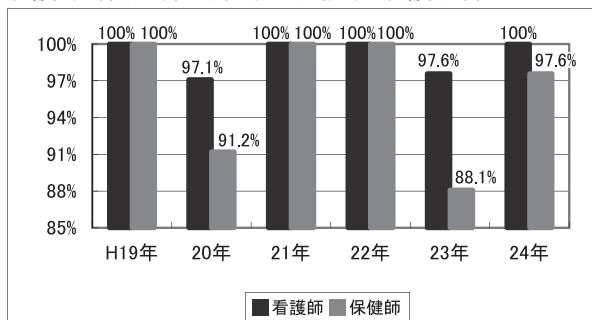


※青戸看護専門学校はH20年度より募集中止

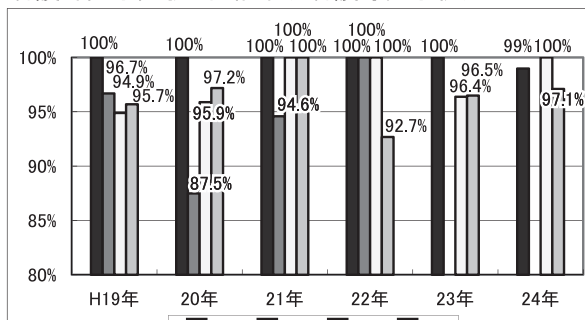
医師国家試験 合格率（医学科）



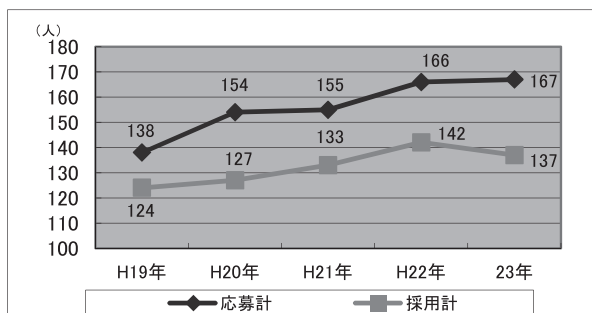
看護師・保健師国家試験 合格率（看護学科）



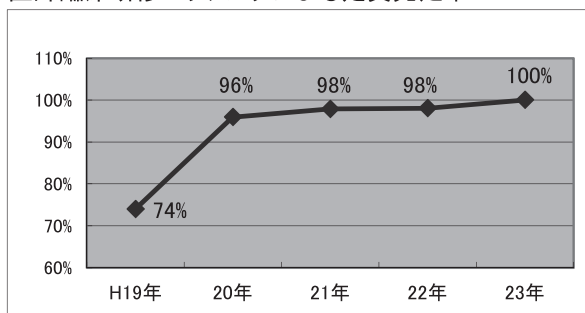
看護師国家試験 合格率（4看護専門学校）



レジデント応募者数、採用数

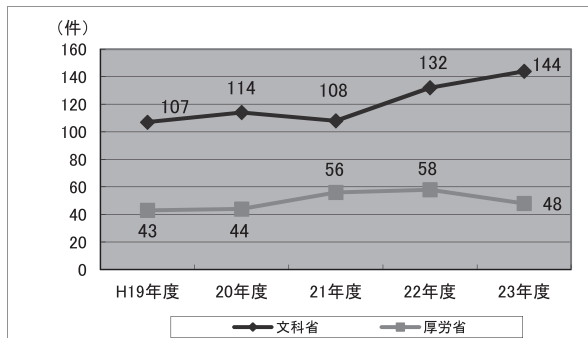


医師臨床研修マッチングによる定員充足率

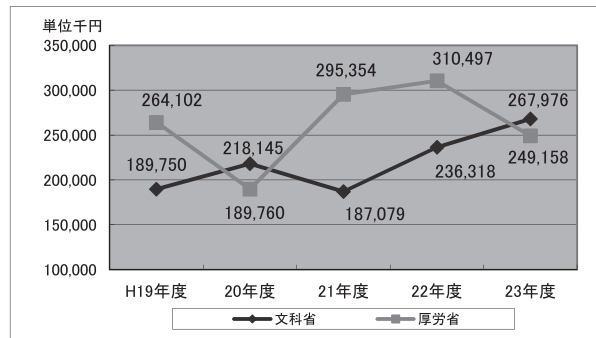


## 研究に関する重点施策：参考指標

### 科学研究費補助金 採択件数

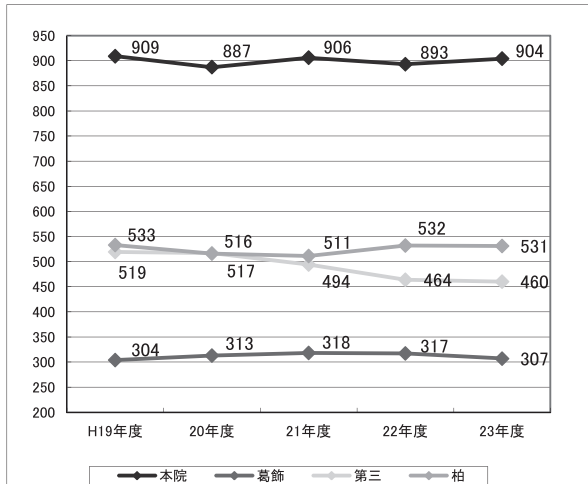


### 科学研究費補助金 採択金額

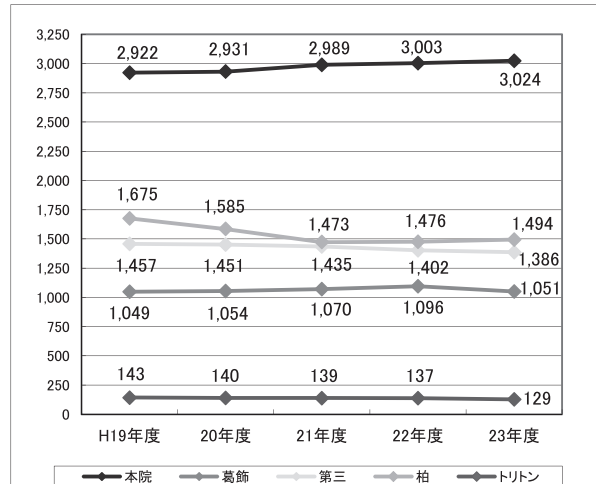


## 医療に関する重点施策：参考指標

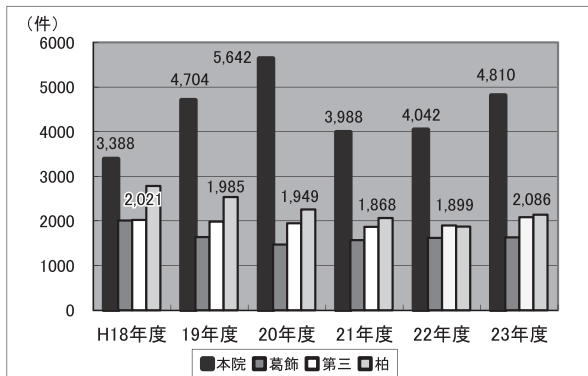
### 【入院】1日平均患者数



### 【外来】1日平均患者数

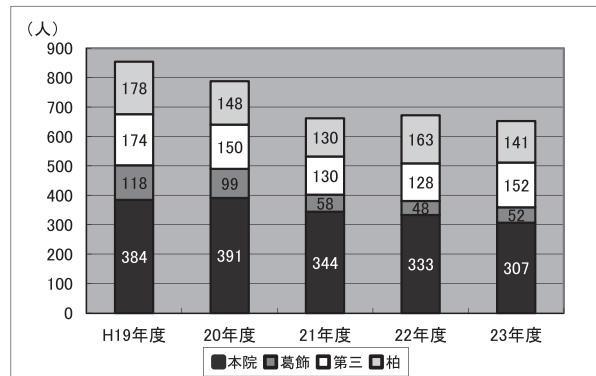


### インシデント・アクシデント報告件数



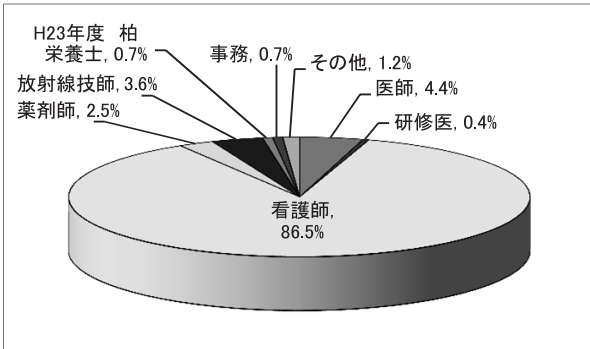
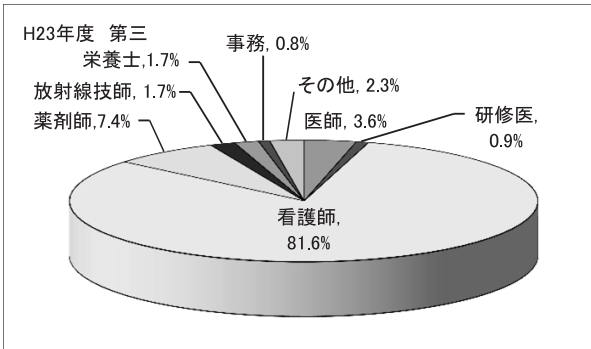
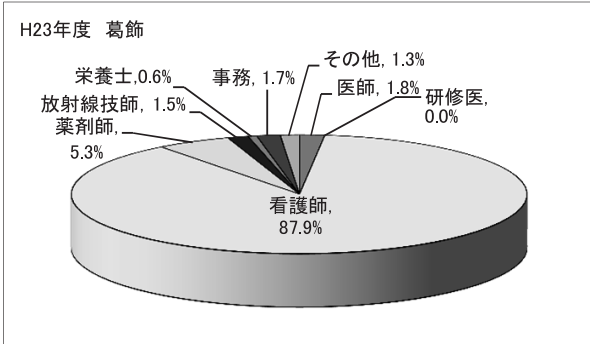
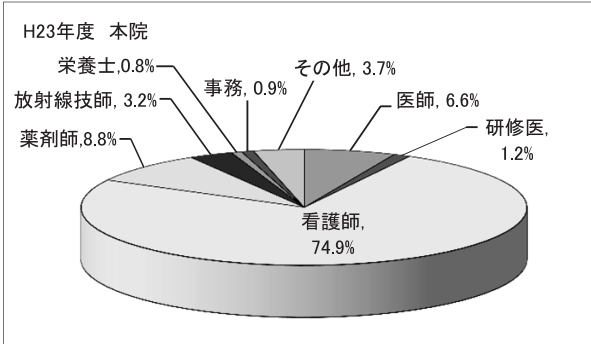
※H21年度の報告件数の減少はオーダリングシステムのクリック忘れを改善

### チーム医療構築WG参加者数

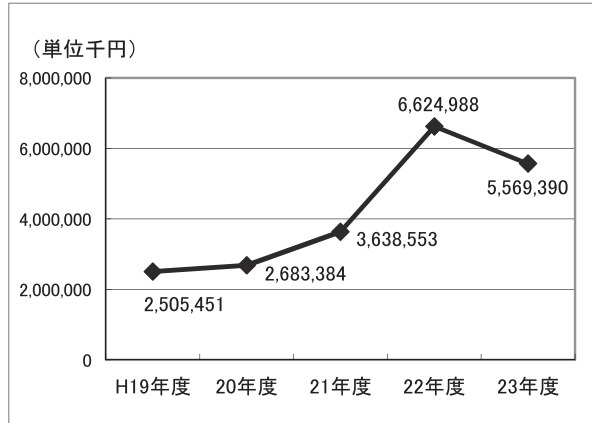


※4機関の開催合計数は平成19・20年度が10回、平成21・22年度が8回である。  
(本院、葛飾医療センターの開催回数が各1回減)

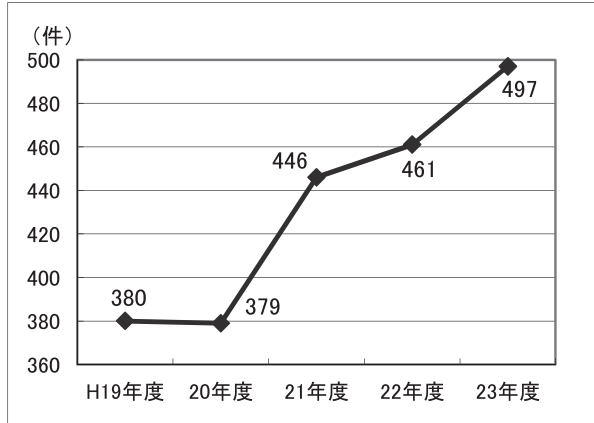
インシデント・アクシデント報告 職種別報告件数



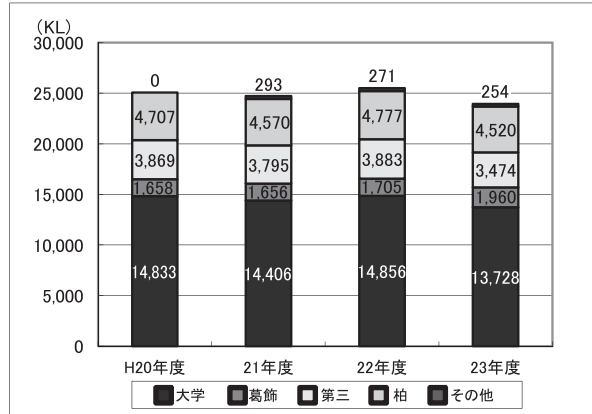
経常収支



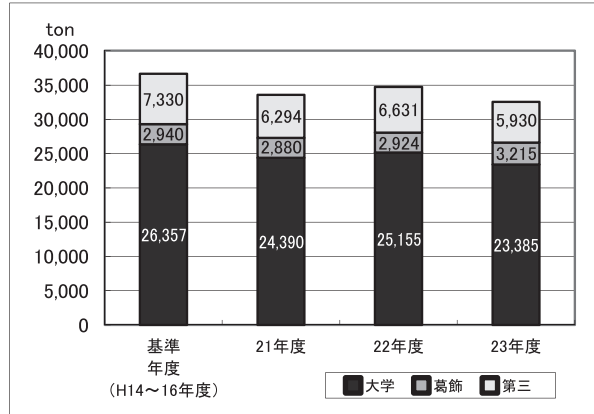
メディア掲出件数



原油換算使用量(省エネ法対応)

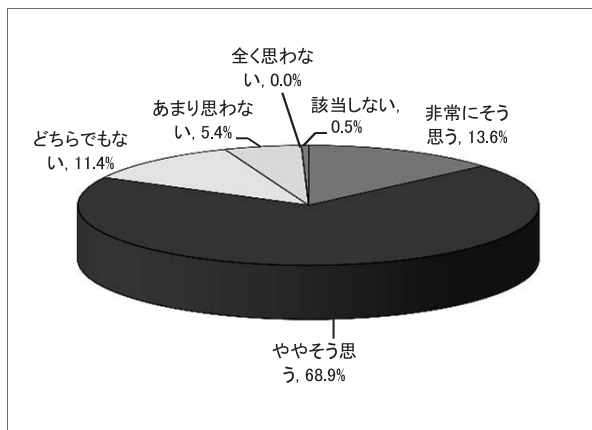


CO2削減状況(東京都環境確保条例対応)



病院教職員アンケート調査結果より

職場に関する設問 3  
あなたは病院(大学)の理念・使命・目標などを理解していますか？



H23年6月30日～7月9日実施

## I. 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

## II. 「中期目標・中期計画・平成24年度事業計画」の項目

| 中 期 目 標   | 中 期 計 画   | 主体部署                   | 平成24年度事業計画   |
|---|---|------------------------|--|
| <p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>○卒前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く深い教養を身につけた医師・看護師を育成する。</li> <li>・エビデンスに基づいた医療判断が出来る医師・看護師を育成する。</li> <li>・医学生の臨床能力の向上を図る。</li> <li>・研究的態度を身に付けた医師・看護師を育成する。</li> <li>・国際感覚を持った医師・看護師育成のために外国語教育を充実させる。</li> <li>・医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。</li> <li>・学習効果を適切に評価する。</li> <li>・入学後の学習支援を行い大学教育が滞りなく行えるように配慮する。</li> <li>・卒前教育における大学間連携を推進する。</li> <li>・自ら学ぶ態度を涵養する。</li> </ul> | <p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する措置</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②研究的態度を涵養するためのカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するためのカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の改善を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。</p> | <p>学事課<br/>(教学委員会)</p> | <p>①-1 学生アンケート結果などを参考に学生ニーズの分析を行い、教養教育のあり方を検討する。</p> <p>①-2 高学年へ教養科目を導入し教養教育のあり方を検討する。</p> <p>①-3 中期計画期間中に教養教育の改善について評価する。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新ユニット「Early research exposure」を導入し、研究的態度を涵養するカリキュラムを実施する。</li> <li>・学生に研究的態度が涵養されるカリキュラムとなっているか評価する。</li> </ul> <p>③-1 クリニカルクラークシップ指導医養成FDの継続実施や平成22年度改訂版モデルコアカリキュラムに沿ったカリキュラム改定により、エビデンスに基づいた判断能力を涵養するカリキュラムを実施する。</p> <p>③-2 内容刷新した「医療情報・EBM I～IV」がエビデンスに基づく判断能力を涵養するカリキュラムか検証する。</p> <p>③-3 学生にエビデンスに基づく判断能力が涵養されるカリキュラムとなっているか評価する。</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能力別クラスにより外国語教育を改善し国際感覚を身に付ける。</li> <li>・外国語教育の改善について評価する。</li> </ul> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習に選択カリキュラムを導入し、学生の個性を尊重した自由度の高い内容とする。</li> <li>・個性を重視した教育が実施されているか評価する。</li> <li>・学習ポートフォリオを取り入れた看護学演習を実施する。</li> </ul> <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師国家試験の傾向に沿った医学卒業総括試験を行い、医師国家試験合格率を向上させる。</li> <li>・ブラッシュアップした国家試験問題をコンピュータ試験を導入し、看護師・保健師の国家試験合格率を向上させる。</li> <li>・医師、看護師、保健師の国家試験合格率の推移を示し評価する。</li> </ul> |



| 中 期 目 標   | 中 期 計 画  | 主体部署                     | 平成24年度事業計画  |
|---|--|--------------------------|---|
|   | ⑦大学間連携を推進する。   | 学事課<br>教育センター<br>(教学委員会) | ⑦<br>・4大学間での学生教育交流やSD研修、首都大学東京からの特別科目等履修生の受入を行い、継続的に大学間連携を行う。<br>・中期計画期間中に大学間連携について評価する。  |
| <b>○大学院教育</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床を支える研究を推進する。</li> <li>・社会に開かれた大学院となるように改善し、生涯学習の場を提供する。</li> <li>・高い倫理観と判断力に優れた研究者を育成する。</li> <li>・医学教育に優れた研究者を育成する。</li> <li>・臨床研究に優れた研究者を育成する。</li> <li>・研究者育成のためのカリキュラムを策定する。</li> <li>・看護実践を支える看護研究を推進する。</li> </ul> | ①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。</li> </ul> ②社会人入学の推進を図る。<br><br>③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。<br><br>④共通カリキュラムの改善を図る。<br><br>⑤看護学専攻修士課程における「教育・研究」を充実させ質を高める。 | 学事課<br>(大学院委員会、研究科委員会)   | ①<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・星薬科大学と大学院共通カリキュラムの単位互換・大学院研究助成金、研究科研究推進費の運用・FD活動の実施によりトランスレーショナルリサーチの環境整備を行い、臨床に還元できる研究を推進する。</li> <li>・中期計画期間中に基盤整備により臨床を支える研究が推進されたか評価する。</li> </ul> ②<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングやホームページ、慈大新聞などによる社会人入学の推進により、社会人入学者を増やす。</li> <li>・中期計画期間中に社会人入学者の推移を示し評価する。</li> </ul> ③<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院生からの意見・要望に基づき「医学教育学」の内容検証を行い、倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</li> <li>・倫理観と判断力に優れた研究者が育成される仕組みであるか評価する。</li> </ul> ④<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院生のニーズに合った共通カリキュラムを実施する。</li> <li>・共通カリキュラムの改善による成果を評価する。</li> </ul> ⑤<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会やFDを実施し、質の高い看護学専攻修士課程となるよう努める。</li> <li>・看護学専攻修士課程の設置、その後の運営、質について評価する。</li> </ul> |

| 中 期 目 標  | 中 期 計 画   | 主体部署  | 平成24年度事業計画   |
|--|---|---|--|
| (2) 教育内容等に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた人材の獲得に向けて医学科入学試験方法を改善する。</li> <li>・看護学科の志願者増を視野に入れ、入学試験を改善する。</li> <li>・カリキュラムの点検・評価を行い改善する。</li> <li>・問題解決能力涵養のための教育形態を策定する。</li> <li>・臨床能力を向上させるための方略を策定する。</li> <li>・質の高い医療人を育成するための厳正で適切な評価を行う。</li> <li>・国際交流を推進する。</li> <li>・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。</li> </ul> | (2) 教育内容等に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> <li>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</li> <li>②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</li> <li>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</li> <li>④医学科の交換留学制度を充実させる。</li> <li>⑤レジデント教育プログラムを改善して学内外の医学生に公開する。</li> <li>⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的にを行い、看護学科受験者増を図る。</li> <li>⑦看護学科の定員を増やす。</li> <li>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。</li> </ul> | 学事課<br>(入試委員会)<br><br>学事課<br><br>学事課<br>(教学委員会)<br><br>学事課<br><br>学事課<br>(国際交流委員会)<br><br>臨床研修センター<br>教育センター<br><br>臨床研修センター<br>教育センター<br><br>学事課<br>(看護学科広報委員会)<br><br>学事課<br><br>学事課<br>(教学委員会) | ① <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験説明会への参加拡大や効果的な受験相談会の実施により優れた人材確保を行う。</li> <li>・広報媒体「受験インフォメーション」の内容刷新や高等学校の新学習指導要領に基づいた試験科目の検討により看護学科の志願者を増加させる。</li> <li>・中期計画期間中に医学科・看護学科の入学試験方法の改善について評価項目を作成し評価する。</li> </ul> ②医学科－現行のカリキュラム分析を行い、問題解決能力を涵養する教育形態を策定する。<br>看護学科－改正したカリキュラムの円滑運用と学生定員増に向けたカリキュラム改訂を行う。<br>③医学教育の国際化・国際認証に対応し、グローバルヘルス実習の導入などモデル・コア・カリキュラムを考慮しつつ、特色あるカリキュラムへ改訂する。<br>②③医学科・看護学科のカリキュラム改善による成果を評価する。<br>④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流室の活動状況を検証し交換留学制度を充実させる。</li> <li>・中期期間中に交換留学制度について評価する。</li> </ul> ⑤-1 レジデント教育プログラムの見直しを診療科に呼びかけプログラムを充実させ、公開する。<br>⑤-2 シミュレーション教育を活用し、レジデント教育プログラムに入れ活用する。<br>⑤-3 中期計画期間中のレジデント教育プログラム制度について評価する。<br>⑥ <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員増に向けた秋季大学説明会開催や新規広告掲載により看護学科の受験者増を図る。</li> <li>・看護学科の受験者数の推移を示し評価する。</li> </ul> ⑦入学定員増の申請を完了する。また教員採用、実習施設の確保等、計画を立てて実行する。<br>⑧ <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年改正カリキュラムの2年次運用に向けた準備と実習教育を見直し講義、実習、演習のバランスを整える。</li> <li>・講義、実習、演習の比率の改善について評価する。</li> </ul> |

| 中 期 目 標  | 中 期 計 画   | 主体部署   | 平成24年度事業計画   |
|--|---|--|--|
|  | <p>⑨看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。</p> <p>⑩看護学科の海外実習を推進する。</p>   | <p>学事課<br/>(教学委員会)</p> <p>教育センター</p> <p>学事課<br/>(教学委員会)<br/>教育センター</p> <p>学事課<br/>(看護学科国際交流委員会)</p>                                | <p>⑨-1 技能不十分な部分を強化するカリキュラムを実施し、看護の臨床技能を高める。</p> <p>⑨-2 シミュレーション教育施設の利用者増やeラーニング活用による研修前後の評価、再履修システムの構築を図り、看護の臨床技能を高める。</p> <p>⑨-3 第2回エデュケーションナーズ研修、4機関看護部「看護管理者研修」を開催する。</p> <p>⑨-4 看護の臨床技能が習得できる仕組みとなっているか評価する。</p> <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ看護研修や国際看護交流協会の研修の他、新たな研修先を視察し看護学科の海外実習を活性化する。</li> <li>・中期計画期間中に看護学科海外実習プログラム実施状況とその成果を評価する。</li> </ul>  |
| <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の適正配置を検討する。</li> <li>・教育環境を整備する。</li> <li>・教員の教育能力の向上に努める。</li> <li>・教員評価を実施する。</li> </ul> | <p>(3) 教育の実施体制等に関する措置</p> <p>①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。</p> <p>②講義室などの教育環境整備を行う。</p> <p>③教育能力向上のための教育研修を実施する。</p> | <p>教員 医師<br/>人事室</p> <p>学事課</p> <p>教育センター</p> <p>学事課<br/>教育センター</p> <p>学事課</p> <p>総務課<br/>教育センター</p> <p>学事課<br/>総務課<br/>教育センター</p> | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研究を考慮した教員の適正配置と適正な教員数を設定する。</li> <li>・中期計画期間中に教員の配置推移を示し、評価する。</li> </ul> <p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境の点検・整備を行う。</li> <li>・看護実習室の環境を整備する。</li> </ul> <p>②-2 葛飾医療センター、柏病院のシミュレーション教育環境整備を支援する。</p> <p>②-3 中期計画期間中に教育環境整備について評価する。</p> <p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学科はFDおよびSDを継続的に開催する。</li> <li>・看護学科は大学院、国領校との共催FDおよび看護学科主催のFDを継続開催する。</li> </ul> <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯教育のための月例セミナー・夏季セミナーを継続的に開催する。</li> <li>・学外実習の指導者を対象とした心音セミナー・呼吸音セミナーを継続的に開催する。</li> </ul> <p>③-3 中期計画期間中に教育研修・セミナーによる教育能力の向上を評価する。</p> |



| 中 期 目 標   | 中 期 計 画   | 主体部署  | 平成24年度事業計画   |
|---|---|---|--|
|   | <p>④学生確保のために積極的な広報活動を行う。</p> <p>⑤学生生活支援を積極的に行う。</p>   |   | <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実、進学情報誌への広告強化、学校説明会の開催、業者主催の進路説明会出席、指定校の訪問、指定校の精選を行う。</li> <li>・中期計画期間中に応募状況、入学者数の推移を示し学生確保の広報活動について評価する。</li> </ul> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期面接・保護者との協力による指導強化</li> <li>・1年生への学習方法の指導強化</li> <li>・進度の異なる学生への学習支援強化</li> <li>・柏看護専門学校の奨学金制度開始</li> <li>・3看護専門学校の学生生活支援制度について評価する。</li> </ul>  |
| <p><b>2. 研究に関する目標</b></p> <p>(1) 研究水準及び研究成果に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床を支える質の高い研究を振興する。</li> <li>・論文発表を促進する。</li> <li>・国際的に高い評価を受けることができる研究を推進する。</li> </ul>   | <p><b>2. 研究に関する措置</b></p> <p>(1) 研究水準及び研究成果に関する措置</p> <p>①教員の職位に応じた論文発表を評価する。</p> <p>②国際誌への投稿を推進する。</p> <p>③Jikeikai Medical Journalの充実を図る。</p> | <p>学術情報センター<br/>大学院委員会</p> <p>学事課<br/>大学院委員会</p> <p>学術情報センター<br/>大学院委員会<br/>学事課</p> <p>学術情報センター</p> | <p>①-1『教育・研究年報』『Reach Activities』の原稿執筆時期に業績データシステムの入力を促進する。教員評価システムからReaDへのデータ転送手順を見直す。</p> <p>①-2 研究科教授の研究業績を再評価する。</p> <p>①-3 中期計画期間中の『教育・研究年報』『Reach Activities』『ReaD』等のデータをもとに論文発表について評価する。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要度が高いテーマで「医学論文の書きかた講習会」、「データベースの操作説明会」を開催する。</li> <li>・中期計画期間中に国際誌への投稿数について評価する。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文投稿の促進、掲載論文の質の向上を図る。利益相反(COI)・倫理に関する記載を投稿規程に入れる。</li> <li>・査読が決められた期間内に終了するための方策を検討する。</li> <li>・中期計画期間中のJikeikai Medical Journalの内容充実について評価する。</li> </ul> |
| <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究環境を整備する。</li> <li>・臨床研究を推進する体制を構築する。</li> <li>・先進的研究実施体制を作る。</li> <li>・寄付講座制度を活用する。</li> <li>・大学の研究費予算を見直す。</li> <li>・効率的な人員配置をする。</li> <li>・学内横断的研究プロジェクトを推進する。</li> </ul> | <p>(2) 研究実施体制等の整備に関する措置</p> <p>①臨床研究支援体制を構築する。</p>  | <p>総合医科学研究センター</p>  | <p>①総合医科学研究センターを更に充実させ臨床研究支援体制を構築する。</p>   |



| 中 期 目 標  | 中 期 計 画  | 主体部署   | 平成24年度事業計画   |
|--|--|--|--|
|  | <p>②先端研究を推進する体制を作る。</p> <p>③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。</p> <p>④寄付講座を振興する。</p>  | <p>大型プロジェクト対策委員会<br/>総合医科学研究センター</p> <p>大型プロジェクト対策委員会<br/>総合医科学研究センター</p> <p>総合医科学研究センター</p> <p>総合医科学研究センター<br/>大型プロジェクト対策委員会</p> <p>大学事務部<br/>研究支援課</p> | <p>②-1 基礎講座、臨床講座と総合医科学研究センターとの共同研究数を増やし大学全体としての絞った先端研究を支援していく。</p> <p>②-2 現在行われている学内横断的研究プロジェクトを推進し評価する。</p> <p>③-1 研究費の獲得や共同研究体制の維持により、さらに成果を進展させる体制を構築する。</p> <p>③-2<br/>・再生医療に関する学内体制の整備を進め新たな分野の研究を推進する。<br/>・臨床を含めた独自プロジェクトを開拓する。<br/>・学内横断的研究体制を整備し大型の研究費獲得を目指す。</p> <p>①②③中期計画期間中に研究推進体制の整備について評価する。</p> <p>④<br/>・大学におけるメリットを検討しながら、引続き寄付講座の増設に向けた取組を行う。<br/>・中期計画期間中の寄付講座数について評価する。</p> |
| <p>(3) 総合医科学研究センターに関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価する。</li> <li>競争的研究資金の獲得を目指す。</li> <li>各研究所・研究室の特色ある研究を推進する。</li> <li>研究支援部門の充実を図る。</li> </ul> | <p>(3) 総合医科学研究センターに関する措置</p> <p>①自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。</p> <p>②研究成果を積極的に開示する。</p> <p>③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。</p> | <p>総合医科学研究センター<br/>運営委員会</p>   | <p>①総合医科学研究センター自己点検の内容を評価・検討し、実行に移す。</p> <p>②DNA医学研究所・臨床医学研究所合同発表会に、総合医科学研究センター内の他研究施設が多く参加できる体制を構築する。</p> <p>③ホームページを整備し、各研究所研究室の特色ある研究および情報の公開を推進する。</p> <p>①②③中期計画期間中の総合医科学研究センターの研究活動について評価する。<br/>(競争的研究的資金の獲得状況、特色ある研究、研究支援部門の充実)</p>  |
| <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。</li> </ul>   | <p>(4) その他の目標に関する措置</p> <p>①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。</p>  | <p>教育センター<br/>(公開講座推進委員会)</p>  | <p>①<br/>・大学主催公開講座(25回程度)および地域の看護職を対象とした公開講座を開催する。<br/>・中期計画期間中の公開講座開催状況を示し社会貢献度を評価する。</p>   |

| 中 期 目 標   | 中 期 計 画  | 主体部署                | 平成24年度事業計画   |
|---|--|---------------------|--|
| <p>3. 附属病院（4病院）に関する目標</p> <p>(1) 医療安全・感染対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属4病院間の連携強化と医療安全体制の整備を図る。</li> <li>・教職員の教育・研修を充実させ医療安全・感染対策に対する意識の向上を図る。</li> <li>・全国の私立医科大学病院の医療安全・感染対策推進活動に貢献する。</li> </ul> | <p>3. 附属病院（4病院）に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 医療安全・感染対策の推進に関する措置</p> <p>①医療安全・感染対策管理体制の点検・評価を実施する。</p> <p>②教職員の教育・研修の定期的開催と医療安全文化を醸成する。</p> <p>③医療問題および感染症発生時の迅速な対応体制を確立する。</p> | <p>医療安全<br/>管理部</p> | <p>①</p> <p>【医療安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属4病院セーフティマネジメント委員会や4病院相互ラウンドによる連携強化と問題解決を行う。</li> <li>・セーフティマネジメントマニュアルの点検を行い標準化を図る</li> </ul> <p>【感染】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属4病院感染対策ベンチマークを継続実施する。</li> <li>・アウトブレイク発生時の支援及び事例検討を行い再発予防に努める。</li> <li>・4病院の感染担当の看護師、薬剤師が連携を図る。</li> </ul> <p>・中期計画期間中に医療安全体制の整備について評価する。</p> <p>②</p> <p>【医療安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各附属病院で、病院としてのTeam STEPPS導入を検討する</li> <li>・Team STEPPSのトレーナーの育成を行う</li> </ul> <p>【感染】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策ベーシックコースを実施する。</li> <li>・職種(部署)毎の効果的な教育の実施により未受講者を減少させる</li> <li>・感染対策上重要な疾患(結核、カテーテル感染など)の教育を行う</li> </ul> <p>・中期計画期間中に医療安全文化の醸成について評価する。</p> <p>③</p> <p>【医療安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属4病院セーフティマネジメント委員会での事例検討と改善策の共有、日々の業務の中で病院間の連携を図り医療問題の解決に取り組む。</li> </ul> <p>【感染】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場や検査室からの報告体制の見直しを行い、ICT・現場・細菌室との連携を強化する</li> </ul> <p>・中期計画期間中の医療安全体制の改善について評価する。</p> |

| 中 期 目 標   | 中 期 計 画   | 主体部署  | 平成24年度事業計画   |
|---|---|---|--|
|   | <p>④私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。</p> <p>⑤システム工学を応用して業務を可視化し根本原因の検索とシステム改善を行う。</p>   | 医療安全<br>管理部   | <p>④</p> <p>【医療安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たにラウンドする施設の取り組みを参考に当院の医療安全推進活動の見直しを行う。</li> </ul> <p>【感染】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立医科大学協会の事務局として、相互ラウンド、サイトビジット、各作業部会などの事業を継続実施する。他施設の優れた点を当院に積極的に取り入れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画期間中に私立医科大学病院間の医療安全・感染対策推進活動について評価する。</li> </ul> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投薬ミス（本院、第三）、患者誤認（葛飾医療センター・柏）をテーマに東大・早稲田・慈恵で共同研究を行い、各現場での取り組みの浸透を目指す。</li> <li>・葛飾医療センターでの手術業務プロセスに沿って運用フローを作成し、実用化を目指す。</li> <li>・東大・早大・慈恵大共同研究による医療安全システムの改善成果を評価する。</li> </ul> |
| <p>(2) 先進医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者ニーズにこたえる先進医療に取り組む。</li> </ul>  | <p>(2) 先進医療の推進に関する措置</p> <p>①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。</p>  | 臨床研修<br>センター<br>管理課   | <p>①-1 鏡視下トレーニングコースを継続的に運用し医療の質と技術向上に取り組む。</p> <p>①-2 各診療科からの要望に応えられるよう情報収集を行い、医療の質・技術向上に取り組む患者ニーズに対応した先進医療を提供する。</p>  |
| <p>(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者中心の医療を円滑に推進する。</li> <li>・住民参加によるボランティアサービスの充実を図る。</li> </ul> | <p>(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進に関する措置</p> <p>①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。(医師・看護師・MSW等が協働できる体制)</p> <p>②ボランティア受入れ体制を整備・強化する。</p> <p>③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。</p> <p>④患者の立場に立ったプライマリケアを実践する。</p> | <p>患者支援・医療連携センター</p> <p>ボランティア事務局</p> <p>患者支援・医療連携センター</p> <p>管理課</p> | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療連携の体制を整備し病院戸別訪問を継続的に実施する。</li> <li>・中期計画期間中の医療連携の体制整備について評価する。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動者募集や活動内容の検討によりボランティア受入体制の整備を強化する。</li> <li>・中期計画期間中のボランティアの受入れ体制整備を評価する。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期退院や長期入院患者の退院支援をし退院・転院・在宅医療などの業務を一体化する。</li> <li>・中期計画期間中の退院・転院・在宅医療などの業務一体化を評価する。</li> </ul> <p>④ 答申に基づき総合的診療を行う診療部の組織充実を図る。</p>  |

| 中 期 目 標   | 中 期 計 画  | 主体部署  | 平成24年度事業計画  |
|---|--|---|---|
| <p>(4) 効率的な医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属4病院で効率的なDPC運用を図る。</li> <li>・ 職種間の効率的な協働体制を構築する。</li> <li>・ 科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。</li> </ul> | <p>(4) 効率的な医療の推進に関する措置</p> <p>①DPCに対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。</p> <p>②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。</p> <p>③各病院および地域とIT化を検討する。</p> | <p>業務課 (本院、葛飾、第三、柏)</p> <p>薬剤部</p> <p>企画部</p> <p>業務課 (本院、葛飾、第三、柏)</p> <p>薬剤部</p> <p>企画部</p> <p>業務課</p> <p>人事課</p> <p>教員医師</p> <p>人事室</p> <p>システム課</p> | <p>①-1 診療報酬改正後、減収症例の改善策をクリニカルパスに反映させる。</p> <p>①-2 後発薬品への切替を進めると共に、一般名処方についての検討を行う。</p> <p>①-3 外来疾病別原価分析を行う。</p> <p>①-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画期間中のDPCに対応したクリニカルパスの普及状況を評価する。</li> <li>・ 中期計画期間中の後発薬品の切替状況を評価する。</li> <li>・ 中期計画期間中の科学的根拠に基づく医療の効率化を評価する。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師の業務軽減、中央棟全病棟の事務効率化、医師の事務作業の軽減、標準作業手順書の作成等により業務分担を推進する。</li> <li>・ 中期計画期間中の職種間の効率的な協働体制を評価する。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第三病院システムベンダーを選択検討し、共通操作性のあるIT化を図る。</li> <li>・ 中期計画期間中のシステム導入による効率化を評価する。</li> </ul> |
| <p>(5) 予防医学の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学として予防医学に貢献する。</li> <li>・ スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学の再興。</li> </ul>                                 | <p>(5) 予防医学の推進に関する措置</p> <p>①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。</p> <p>②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。</p>   | <p>総合健診</p> <p>・ 予防医学センター</p> <p>整形外科</p> <p>リハビリテーション科</p> <p>整形外科</p> <p>リハビリテーション科</p>   | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各病院との連携強化や新システム更新に向けた検討を行う。</li> <li>・ 中期計画期間中の予防医学への貢献を評価する。</li> </ul> <p>②-1 競技団体との共同で骨代謝動態について測定する。</p> <p>②-2 体力医学研究の学会発表や論文発表を行い、スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学研究の再興を図る。</p> <p>②-3 中期計画期間中にスポーツウェルネスクリニック・スポーツ医学研究の振興について評価する。</p>  |

| 中 期 目 標                                       | 中 期 計 画   | 主体部署   | 平成24年度事業計画  |
|---|---|--|---|
| <p>●附属病院（本院）に関する目標</p> <p>(1) 医療の質の向上を図る。</p> | <p>●附属病院（本院）に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①特定機能病院としての機能を充実させる。</p> <p>②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させ、がん診療連携拠点病院の指定を目指す。</p> <p>③人材育成（スキルアップ）を行う。</p> <p>④院内研修制度の充実を図る。</p> | <p>管理課<br/>(運営会議<br/>担当委員会)</p> <p>管理課<br/>業務課<br/>(診療情報<br/>室)<br/>患者支援・医療<br/>連携センター<br/>薬剤部</p> <p>教員医師<br/>人事室</p> | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各診療科への支援策強化や高度および先進医療技術の実施申請方法の簡素化を行い、特定機能病院としての機能を充実させる。</li> <li>中期計画期間中に特定機能病院としての機能充実について評価する。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域がん診療連携拠点病院」としてがん医療に対する更なる高度医療を提供する。</li> <li>登録項目の定義変更と、東京都地域がん登録事業開始に向け、全がん種の登録作業を関連委員会で調整、スケジュールの見直し等を行い登録作業を継続する。</li> <li>緊急使用等の場合を除き、原則として手書き伝票の使用は認めない等の運用基準を明確にする。</li> <li>登録レジメンの定期的なメンテナンスを行い、レジメンオーダーシステムの安定稼働を図る。</li> <li>腫瘍センターサロンにおける患者サロンの企画、運営を行う。</li> <li>がん診療連携拠点病院指定に向けた取組みについて評価する。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手医師のレベルアップのためCPCを年6回、医療安全カンファレンスを年3回開催する。</li> <li>中期計画期間中の人材育成制度、人材育成を評価する。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下トレーニングコースの運用推進を図り、院内研修制度の充実が質の高い医療の提供に繋がったか評価する。</li> <li>中期計画期間中の院内研修制度を評価する。</li> </ul> |
| <p>(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。</p>                 | <p>①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。</p>   | <p>臨床研修<br/>センター</p>   | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>STEP2（アニマルラボにおいてより実践的な手技の評価を行う）を継続的に実施し、受験者、合格者の増加を図る。また定期的にSTEP3の認定試験を行い、本運用に備え各種検証を行う。</li> <li>中期計画期間中に鏡視下手術トレーニングコースの評価および先進医療への貢献について評価する。</li> </ul>  |



| 中 期 目 標                       | 中 期 計 画                                  | 主体部署             | 平成24年度事業計画  |
|-------------------------------|--|------------------|---|
| (3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。   | ①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。             | 医療安全管理部          | ①<br>【医療安全】<br>・ Team STEPPS エッセンシャルコースの継続<br>・ Team STEPPS の実践をめざしたRRT、シミュレーション教育の検討<br>・ CVC挿入手技の可視化と合併症率減少を目指した取り組み<br>・ 医療問題発生報告システムの再構築<br>【感染】<br>・ 耐性菌対策を現場へ浸透させるため、病棟（部署）単位での教育啓発活動および情報共有を更に推進する<br>・ 耐性菌の関与しやすい感染症（術後感染、カテーテル感染など）の対策を推進する<br><br>・ 中期計画期間中の医療安全・感染対策管理体制を評価する。 |
| (4) 患者・家族の満足度の向上を図る。          | ①インフォームド・コンセントを徹底する。                     | 管理課<br>医療安全推進室   | ①<br>・ インフォームド・コンセントに関する事項を該当科へフィードバックし、患者・家族の満足度を向上させる。<br>・ 中期計画期間中の患者・家族の満足度について評価する。  |
| (5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。 | ①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。                  | 患者支援<br>医療連携センター | ①<br>・ BSCをタイムリーに評価・修正を行い患者支援・医療連携センターの機能を上げる。<br>・ 中期計画期間中の地域連携促進について評価する。   |
| (6) 臨床研究を促進する。                | ①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。 | 臨床試験<br>支援センター   | ①<br>・ 実施率及びデータの信頼性の向上に努め、新規治験の依頼件数を増加する。<br>・ 国際共同治験、医師主導治験へ積極的に参画する。<br>・ 薬物及び医療機器治験審査委員会委員の教育として勉強会を開催する。<br>・ 中期計画期間中の臨床研究の推進状況を評価する。   |

| 中 期 目 標                 | 中 期 計 画  | 主体部署   | 平成24年度事業計画   |
|-------------------------|--|--|--|
| (7) 効率的医療を推進する。         | <p>①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。</p> <p>②効率的な診療体制の構築を図る。</p> <p>③手術室の効率運用を図る。</p> <p>④救急患者受入れの体制整備を行う。</p> | <p>業務課<br/>システム課</p> <p>ICU</p> <p>看護部<br/>(外来委員会)</p> <p>ICU<br/>看護部<br/>(外来委員会)</p> <p>手術部</p> <p>中央材料室</p> <p>手術部<br/>中央材料室<br/>救急部</p> | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンオーダの全科稼働を図る。</li> <li>・オーダーリングシステム導入による効率化について評価し、今後のシステム導入を検討する。</li> </ul> <p>②-1 医療安全推進室を中心としてRRS（rapid response system）委員会の運用を推進する。</p> <p>②-2 外来点滴室の利用件数月350件および看護師穿刺率85%台を目指す。</p> <p>②-3 中期計画期間中の効率的な診療体制、外来診療体制を評価する。</p> <p>③-1 外来棟手術室の利用率を向上し手術室を効率的に運用する。</p> <p>③-2 外来棟・中央棟の委託業務を見直し、手術器械の供給・回収方法を改善させ、手術室を効率的に運用する。</p> <p>③-3 中期計画期間中の手術室の効率・運用改善状況を評価する。</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慈恵4病院間の救急連携を一層強化し、救急患者受入の体制を整備する。</li> <li>・附属病院の救命救急体制を充実する。</li> <li>・中期計画期間中の救急受入体制の改善状況を評価する。</li> </ul> |
| (8) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。 | <p>①月次医療収支額を把握する。</p> <p>②DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。</p> <p>③医療材料のSPD業務の再編を行う。</p>                         | <p>事務部</p> <p>企画部</p> <p>事務部<br/>財務部<br/>企画部</p>   | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月次医療収支額を把握する。</li> <li>・中期計画期間中に月次医療収支状況把握によるコスト管理を評価する。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。</li> <li>・中期計画期間中に他大学とのベンチマーク実施による効果について評価する。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体の物流全般に関する将来計画を策定する。</li> <li>・中期計画期間中の物流改善について評価する。</li> </ul>  |
| (9) 情報公開の条件を整備する。       | <p>①診療情報を評価するシステムを構築する。</p>  | <p>管理課<br/>企画部</p>   | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に病院年報を発刊し情報公開を進める。</li> <li>・中期計画期間中の情報公開状況を評価する。</li> </ul>   |

| 中 期 目 標                               | 中 期 計 画   | 主体部署   | 平成24年度事業計画   |
|---------------------------------------|---|--|--|
| (10) 教職員の職場満足度を向上させる。                 | ①働きやすい環境整備等を行う。<br><br>②女性教職員・女性医師の復職を支援する。   | 企画部<br>管理課<br>教員医師<br>人事室<br><br>教員医師<br>人事室<br>管理課<br>看護部<br>人事課<br>給与厚生課 | ①<br>・アンケート調査や各科医局長からの聞き取り調査を更に積極的に実施し、女性医師キャリア支援室の活動を推進する。<br>・中期計画期間中の職場環境改善状況を評価する。<br>②<br>・病児預かり室の利用改善や他職種への拡大を検討する。<br>・整備した支援体制の活用を推進するため周知を図り、女性教職員・女性医師の復職を支援する。<br>・女性教職員の職場環境改善を評価する。 |
| (11) 晴海トリトンクリニックの将来構想を見直す。            | ①晴海トリトンクリニックの機能を点検・評価する。  | 晴海トリ<br>トクリ<br>ニック   | ①晴海トリトンクリニックの機能を点検・評価し、将来構想を策定する。  |
| ●葛飾医療センターに関する目標<br><br>(1) 管理運営を強化する。 | ●葛飾医療センターに関する目標を達成するためにとるべき措置<br>①開かれた組織体制を構築する。<br><br>②各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。 | 葛飾医療<br>センター<br>(運営会議・<br>BSCWG)<br><br>運営会議                               | ①<br>・病院BSC、各部署BSCのブラッシュアップと各診療部BSCの作成を行う。<br>・開かれた組織体制の構築ができたか評価する。<br>②<br>・IT関連委員会の設置および診療情報委員会の見直しを行う。<br>・各運営委員会の病院長の諮問機関としての役割を評価する。   |
| (2) 財政基盤を磐石にする。                       | ①収支を改善し、経営の安定化を図る。<br><br>②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。                | 事務部<br><br>運営会議<br>事務部   | ①-1 医療材料費、システム関連経費、委託費など投資効果を医療収入に反映した予算を策定する。<br>①-2 医療技術職、事務職の必要数を確定検証する。<br>①-3 中期計画期間中の収支改善・経営安定化について評価する。<br>②<br>・数値化、可視化された収益性分析、生産性分析情報を有効活用する。<br>・経営分析システムの構築について評価する。                 |

| 中 期 目 標              | 中 期 計 画   | 主体部署  | 平成24年度事業計画  |
|----------------------|---|---|---|
| (3) オープン・システムを構築する。  | <p>①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。</p> <p>②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。</p> <p>③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。</p>  | <p>入退院医療連携センター</p> <p>運営委員会</p> <p>看護部<br/>事務部</p> <p>運営委員会</p> <p>看護部<br/>事務部</p>                                      | <p>①-1<br/>・新病院の診療機能をPRし、地域中核病院としての役割を強化する。</p> <p>・附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備を行いオープンシステムを構築する。</p> <p>①-2 後方医療機関の新たな開拓と患者支援・医療連携センターの機能向上により円滑な連携(転院)体制を確立し、オープンシステムを構築する。</p> <p>①-3 葛飾医療センターのオープンシステムについて評価する。</p> <p>②<br/>・医療連携フォーラムと公開カンファレンスを同時開催する。</p> <p>・診療・教育体制、教育研修制度について評価する。</p> <p>③東京都看護職員復職支援研修の過去の研修内容を検証し、事業受託の要否を検討する。</p>  |
| (4) 診療体制及び重点機能を強化する。 | <p>①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。</p> <p>②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。</p> <p>③医療の効率化、透明化、標準化を図る。</p> <p>④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行う。</p> <p>⑤新病院にICU・CCUを設置する。</p> | <p>運営会議<br/>運営委員会</p> <p>運営委員会<br/>手術部</p> <p>運営委員会<br/>事務部</p> <p>看護部<br/>医療連携センター</p> <p>運営会議<br/>ICU・CCU<br/>委員会</p> | <p>①<br/>・プライマリーケアユニットが円滑運用できる体制を確立する。</p> <p>・プライマリーケアユニットの体制について評価する。</p> <p>②<br/>・中央材料室部門の完全委託により手術室、血管撮影室の運用効率化を図り、手術件数を増加する。</p> <p>・手術室の効率運用について評価する。</p> <p>③<br/>・効果的なクリニカルパスを拡大し、医療の効率化、透明化、標準化を図る。</p> <p>・クリニカルパスの拡大等、医療の効率化、透明化、標準化推進について評価する。</p> <p>④入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行うよう医療連携・医療相談機能を強化する。PFMシステムについて評価する。</p> <p>⑤<br/>・集中治療室の入室の諸条件を整備し、病床の有効利用を図る。</p> <p>・ICU・CCU設置による機能強化について評価する。</p> |
| (5) 病院リニューアルを実施する。   | <p>①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。(平成23年竣工を目指す。)</p>   | <p>リニューアル委員会</p> <p>リニューアルTF</p> <p>運営委員会<br/>事務部</p>   | <p>①-1 開院後に既存病院の解体および土壌汚染の対処をし、平成24年秋に外構整備を完成する。</p> <p>①-2 患者志向の機能的な病院を建築できたか評価する。</p> <p>①-3 病院の事業継続計画(BCP)を策定する。</p>   |

| 中 期 目 標                                       | 中 期 計 画  | 主体部署   | 平成24年度事業計画  |
|---|--|--|---|
| <p>●第三病院に関する目標</p> <p>(1) 信頼される地域中核病院になる。</p> | <p>●第三病院に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①診療に関する情報を公開する。</p> <p>②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実させる。</p> <p>③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受け入れる。</p> | <p>第三病院<br/>業務課</p> <p>第三病院<br/>管理課</p> <p>第三病院<br/>運営会議</p> | <p>①-1 診療に関する情報公開の開示項目を検討し更なる情報開示を行う。</p> <p>①-2 部門別BSCを目標管理制度へ落とし込み情報の“見える化”を推進する。</p> <p>①-3 中期計画期間中の情報公開の状況とそれによる地域からの信頼について評価する。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開健康セミナー、ホスピタルフェアを開催する。</li> <li>・中期計画期間中の地域住民や行政への医療啓蒙活動を評価する。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送、救急患者増加に向けて外科系初期診療体制の更なる安定化と充実化を図り、積極的に患者を受け入れる。</li> <li>・近隣消防署との勉強等を通して救急隊との顔の見える関係を強化し、積極的に患者を受け入れる。</li> <li>・中期計画期間中の救急患者の受入れ状況の改善について評価する。</li> </ul> |
| <p>(2) 財政基盤を磐石にする。</p>                        | <p>①医療材料コストを見直す。</p>   | <p>第三病院<br/>管理課</p>  | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊材料および医療消耗品の使用分析や手術原価管理を行いコスト削減し評価する。</li> <li>・中期計画期間中の経営状況について評価する。</li> </ul>  |
| <p>(3) 優秀な人材を確保する。</p>                        | <p>①診療部を評価する。</p>  | <p>第三病院<br/>管理課</p>  | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各診療部を多面的に評価し診療体制の改善を図る。</li> <li>・中期計画期間中の各診療部の状況を評価する。</li> </ul>   |
| <p>(4) 特色ある医療を強化する。</p>                       | <p>①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。</p> <p>②各科の診療内容実績を分かりやすくアピールする。</p>   | <p>第三病院<br/>管理課</p>  | <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森田療法センターの情報をタイムリーに提供し、患者増を図る。</li> <li>・中期計画期間中の森田療法センターの運営状況を評価する。</li> </ul> <p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療案内パンフレットを随時更新し、各科の診療実績をアピールする。</li> <li>・第三病院として特色ある医療強化について評価する。</li> </ul> <p>②-2 改修後の結核病棟の運営について検討する。</p>   |



| 中 期 目 標  | 中 期 計 画   | 主体部署   | 平成24年度事業計画  |
|--|---|--|---|
| (5) 信頼関係に基づいた病診・病病連携を実践する。                     | ①病診連携、病病連携のための強化を図る。  | 第三病院<br>業務課<br><br>第三病院<br>管理課<br>業務課<br><br>第三病院<br>業務課 | ①-1<br>・前方連携の拡大（紹介元医療機関の拡大と紹介患者数増）<br>・後方連携病院の開拓と関係強化（病床の有効利用と稼働率アップへの貢献）<br>・在宅医療推進のための地域訪問看護ステーションとの勉強会の開催<br>①-2 近隣医師会並びに近隣DPC病院との情報交換を推進する。<br>①-3 中期計画期間中の病診連携、病病連携の強化を評価する。 |
| (6) 「お年寄りにも優しい病院」を目指す。                         | ①高齢者に対する対応策を検討する。   | 第三病院<br>運営会議   | ①<br>・地区医師会会議、医療連携フォーラム等での意見交換を基に高齢者に配慮した病院機能の改善を継続する。<br>・中期計画期間中の高齢者に対する対応を評価する。  |
| (7) 癒しの病院環境を醸成する。                              | ①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。<br><br>②入院患者向け行事を開催する。                        | 第三病院<br>管理課<br><br><br><br>第三病院                          | ①<br>・医局棟新1号館を7月竣工、3号館・青樹寮解体実施、新医局棟・法医棟25年2月着工等の施設改修を行い療養・職場環境改善を持続的に実践する。<br>②<br>・入院患者向けに各種「癒しの行事」を継続開催する。<br>①②中期計画期間中の患者の療養環境を評価する。   |
| ●柏病院に関する目標<br><br>(1) DPCに対応した医療の標準化・効率化を推進する。 | ●柏病院に関する目標を達成するためにとるべき措置<br>①包括化による減収を回避する。<br><br>②医療の効率化、標準化による安全を確保する。 | 柏病院<br>クリパス<br>委員会<br><br>柏病院<br>業務課<br><br>柏病院          | ①DPC請求と出来高請求の比較分析を実施し、見直しが必要なクリニカルパスについては、各診療部へ情報提供と改善提案を行い、効率的なクリニカルパス作成を推進する。<br>②DPCに関する情報収集・分析を行い、関連部署・診療部に情報提供する。<br>①②中期計画期間中のクリパスの導入等DPCに対応した医療の標準化・効率化について評価する。           |
| (2) 地域中核病院として十分に機能する。                          | ①入院から退院・転院まで一貫した患者支援を行う。病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。                      | 看護部<br>PFMワーキング・グループ<br>BSCワーキング・グループ<br>医療連携<br>委員会     | ①<br>・情報の共有、活用により入院から退院（転院、在宅医療）の円滑化を推進する。<br>・連携病院（後方病院）を確保、拡大し円滑な転院調整を推進する。<br>・BSCの運用部署の拡大および組織的な評価・検証システムを構築する。<br>・地域中核病院としての機能について点検・評価する。                                  |

| 中 期 目 標                                  | 中 期 計 画   | 主体部署  | 平成24年度事業計画  |
|--|---|---|---|
| (3) がん診療連携拠点病院として必要な高い診療機能を整備する。         | <p>①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。</p> <p>②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。</p> | <p>柏病院<br/>地域がん診療<br/>連携拠点病院<br/>運営委員会</p> <p>柏病院</p>   | <p>①外来化学療法室ベッドの回転率向上、効率運用を図り、曜日の偏在性を解消する。</p> <p>②「千葉県がん診療地域医療連携実務連絡会議」を通じて、各医療機関のバスの活用、普及について継続検討するとともに4疾病・5大がんの積極的バス症例を推進する。</p> <p>①②がん診療拠点病院としての設備、機能について点検・評価する。</p>   |
| (4) 手術件数を増加させると共に、手術件数増加に対応できるシステムを構築する。 | <p>①手術件数の増加を図る。</p> <p>②救急受入れ患者の増加を図る。</p>                          | <p>柏病院<br/>手術部<br/>管理課</p> <p>柏病院<br/>救急体制改善<br/>ワーキング・<br/>グループ</p> <p>柏病院</p>                               | <p>①-1手術室の術前準備に関する業務の委託化により手術と手術の間のインターバル時間を短縮し、手術件数を増加する。</p> <p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のDRGシステムを分析し、効率よく運用できるようセット部材を充実する。</li> <li>・救急搬送患者地域連携受入加算の受入先病院の選定と拡充を図り、急性期治療を終えた患者を退院させ、新規入院患者を受入れる。</li> <li>・入院部門システムの稼働により診療情報の共有化を高め院内連携を推進する。</li> </ul> <p>②三次救急を主体とした医療活動を行う救命救急センターと内科系・外科系診療科の支援・協力の基に一次・二次救急・かかりつけ患者や軽度の初診患者の救急を担当するER機能を有する総合診療センター（仮称）の枠組みを構築し、救急患者の受入れを強化する。</p> <p>①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画期間中の手術室の運用改善、手術件数を評価する。</li> <li>・中期計画期間中の救急受入体制を評価する。</li> <li>・中期計画期間中のPFMシステム導入、運用効果を評価する。</li> </ul> |
| (5) 病院機能を充実させる。                          | ①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。                                     | <p>柏病院<br/>医療連携<br/>委員会</p> <p>柏病院<br/>PACS<br/>設置準備<br/>委員会</p> <p>柏病院<br/>患者サー<br/>ビス向上<br/>委員会<br/>管理課</p> | <p>①-1 地域医療機関と円滑な患者情報を提供・共有化し、4疾病・がんの全県共用地域医療連携バスを普及する。</p> <p>①-2 内視鏡部門のシステムおよび画像のPACS化の評価・点検を行い、不具合を改善する。</p> <p>①-3 待ち時間が長い患者への対応の検討および外来トイレの整備、空調設備の更新を行う。</p>  |

| 中 期 目 標   | 中 期 計 画  | 主体部署  | 平成24年度事業計画  |
|---|--|---|---|
|   |  | 柏病院<br>救急体制改善<br>ワーキング・<br>グループ<br><br>柏病院<br>将来構想<br>委員会   | ①-4 救命救急センターとして、<br>特に循環器疾患、脳血管障害、<br>大血管の救急患者への対応の充<br>実を図る。<br><br>①-5 中期計画期間中に地域ニー<br>ズに即した外来・入院機能となっ<br>ているか評価する。   |
| (6) 電子カルテの導入を検討する。  | ①導入によるメリット、デメリットを検討する。   | システム課   | ①<br>・部門システム（内視鏡）を導入<br>する。<br>・柏病院の病院情報システムにつ<br>いて評価する。   |
| <b>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</b><br><b>1. 運営体制の改善に関する目標</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会機能の強化を図る。</li> <li>・法令遵守の徹底を図る。</li> <li>・広報活動を充実する。</li> <li>・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。</li> <li>・内部統制の強化を図る。</li> <li>・個人情報管理を徹底する。</li> </ul> | <b>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br><b>1. 運営体制の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br>①理事会機能を検証する。<br><br>②慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。<br><br>③施設基準等の定期点検を行う。<br><br>④法令遵守の徹底を図る。<br><br>⑤内部監査の充実を図る。<br><br>⑥補助金（公的研究費、私立大学等経常費補助金等）に係る管理体制を充実する。 | 大学自己<br>点検評価<br>委員会<br><br>人事課<br>広報課<br>教員医師<br>人事室<br><br>管理課<br><br>人事課<br><br>監査室<br><br>研究支援課<br>経理課 | ①<br>・事業計画の点検・評価を継続して行い、理事会機能を検証する。<br>・中期計画期間中の理事会機能強化を評価する。<br><br>②<br>・新規採用教員に医師ハンドブックを配布する等して周知する。<br>・広報誌及びホームページなど広報ツールを活用し、内外に向けて発信・周知する。<br>・階層別研修時に改めて周知するよう研修項目に組入れる。<br>・慈恵大学行動憲章・行動規範の周知について評価する。<br><br>③診療報酬改定に伴う該当の施設基準等が算定できるようにする。<br><br>④-1<br>・病院機能評価「3-b」と評価された項目の業務見直しを行う。<br>・次回病院機能評価受審の準備を開始する。<br>・慣例的に行っている業務手順の見直しを評価する。<br><br>④-2 就業環境改善のためのハラスメント等に関する情報提供を行う。<br><br>⑤<br>・補助金（研究費、経常費補助金等）監査、業務監査の充実、監事、外部監査人との連携により内部統制を強化する。<br>・内部監査の効果を評価する。<br><br>⑥<br>・補助金（公的研究費、経常費補助金等）の管理体制を確立し、内部統制を強化する。<br>・補助金（公的研究費、経常費補助金等）の管理体制について評価する。 |

| 中 期 目 標  | 中 期 計 画  | 主体部署  | 平成24年度事業計画   |
|--|--|---|--|
|  | <p>⑦個人情報保護の継続的注意を喚起する。</p> <p>⑧本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。</p> <p>⑨有事の際の広報体制確立と情報発信体制を確立する。</p> <p>⑩事業計画の実施状況を確認する。</p> <p>⑪BSCを普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。</p> | <p>総務課・管理課（個人情報保護委員会）</p> <p>広報課</p> <p>企画部</p> | <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会を実施し継続して注意喚起を行う。</li> <li>・慈恵大学の個人情報管理について評価する。</li> </ul> <p>⑧-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページリニューアルを段階的に行い閲覧しやすいサイトにする。</li> <li>・主に更新頻度の高いページを主体に入力し易い形式へ切り替える。</li> </ul> <p>⑧-2 メディア取材、広報誌・ホームページ・慈恵トピックス掲示板などを活用し、すべてのステークホルダーへ積極的に情報発信する。</p> <p>⑧-3 慈恵大学の情報発信が内外に対して十分に行われているか評価する。</p> <p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平時よりマニュアルを活用し、休日・夜間の有事の際の円滑な初期対応を行う。セミナー、勉強会、講演会を通じ他大学病院、民間企業事例を研究、蓄積し、有事を想定した危機管理体制を整える。</li> <li>・有事の際の広報体制、情報発信の仕組みが確立されているか評価する。</li> </ul> <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期目標・計画に対する評価を行う。また次期中期目標・計画の立案に取り組む。</li> <li>・中期目標・計画に基づく各年度の事業計画の実施状況が適正に確認・検討され、次年度の事業計画に反映されているか評価する。</li> </ul> <p>⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BSC新規作成部門を選定しワーキンググループを実施する。</li> <li>・総合的計画立案、実施するためのBSCの普及状況について評価する。</li> </ul> |
| <p>2. 人材育成・活用に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成のための教育制度を構築する。</li> <li>・業務の効率化を図り人件費を抑制する。</li> </ul> | <p>2. 人材育成・活用に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①職員の人材育成制度を強化する。</p>  | <p>人事課</p>                                      | <p>①-1 OJTリーダー制度の問題点の改善および制度検証を実施する。</p> <p>①-2 キャリアパスを設定し人事異動を実施する。</p> <p>①-3 中期計画期間中の人材育成制度の改善について評価する。</p>   |

| 中 期 目 標 | 中 期 計 画  | 主体部署  | 平成24年度事業計画  |
|---------|--|---|---|
|         | <p>②人材の有効活用を視野に入れた人事システムを検討する。</p> <p>③人事評価システムを充実させる。</p> <p>④業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費最適化を図る。</p> <p>⑤教職員の定着率を高める。</p> | <p>人事課</p> <p>教員医師<br/>人事室</p> <p>業務課<br/>システム課<br/>教員医師<br/>人事室<br/>人事課</p> <p>人事課<br/>給与厚生課</p> <p>人事課<br/>葛飾医療センター<br/>第三病院<br/>柏病院</p> <p>システム課<br/>教員医師<br/>人事室<br/>人事課<br/>給与厚生課</p> <p>人事課</p> <p>給与厚生課<br/>人事課</p> <p>人事課<br/>給与厚生課</p> | <p>②職員の学外研修を推進する。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員評価システムへの各教員による入力件数を増加させ、データベースを充実する。</li> <li>・学長諮問会議での昇格審査において活用していく。</li> <li>・人事評価システムの改善について評価する。</li> </ul> <p>④-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葛飾医療センターならびに柏病院救急救命センター（仮）の運営状況を注視し、医師人事委員会にて適宜必要医師数を検討する。</li> <li>・「慈恵・認定医療事務養成コース」で計画している医師事務作業軽減に繋がる業務を段階的に拡大し全診療科に普及する。</li> <li>・葛飾医療センターの運用変更やシステム導入の効果と要員数を検証する。</li> <li>・葛飾医療センター、柏病院の稼働状況に応じて常駐者の出向を解除、第三病院の体制を強化する。</li> </ul> <p>④-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約職員の処遇を見直し、モチベーション向上につなげる。</li> <li>・パートタイム職員の処遇を見直し、各部署での活用拡大に努める。</li> </ul> <p>④-3 標準作業手順書作成作業を完了し掲載内容を検証する。また、各機関の手順書作成を推進する。</p> <p>④-4 中期計画期間中の人的資源・業務の効率化と人件費最適化について評価する。</p> <p>④-5 事務業務分掌規程を改定し、各部署の業務をより明確化する。</p> <p>⑤-1 継続して新入職員のアンケート調査を行い問題点を抽出する。</p> <p>⑤-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部下のメンタルヘルス障害での休職と復帰時のルールを周知し支援体制を整備する。</li> <li>・人事課及び各機関担当者が新入職員メンタルフォロー面談を実施する。</li> <li>・メンタルヘルス対策向上に向け現状評価をもとに改善策を講じる。</li> </ul> <p>⑤-3 教職員の定着率の推移を示し評価する。</p> |



| 中 期 目 標  | 中 期 計 画   | 主体部署   | 平成24年度事業計画  |
|--|---|--|---|
|  | ⑥看護師確保体制を確立する。  | 人事課<br>看護部   | ⑥<br>・ナース就職支援室の設立、合同説明会参加数、求人訪問数および各種広告媒体への参画数を拡大により看護師を確保する。また柏病院に特化した採用活動を展開する。<br>・看護師確保数の推移を示し看護師確保体制について評価する。  |
| 3. 事務の効率化・合理化に関する目標<br>・IT導入による効率化を実現する。   | 3. 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するためにとるべき措置<br>①適正なITランドデザインを構築し、IT戦略を策定する。<br>②附属4病院に電子カルテを含むIT化を推進し、効率化と患者満足度の向上を図る。<br>③4病院連携、病診連携を考慮したネットワークの更新と再構築を行う。<br>④経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。 | 総務部<br>財務部<br>企画部<br><br>業務課<br>システム課<br>システム課<br><br>企画部<br><br>総務部<br>財務部<br>企画部<br>業務課<br>システム課 | ①IT適正運営のための新しい組織を発足し、IT投資の最適化に向け現状調査ならびにIT戦略を策定する。<br>②平成24年度稼働に向け第三病院PACS計画を進める。<br>③第三病院のネットワーク増強計画を立案する。地域連携を含む電子化の計画を推進する。<br>④大学全体の経営管理データの一元管理について検討する。<br>①②③④<br>中期計画期間中のIT導入による効率化について評価する。  |
| Ⅲ. 財務の改善に関する目標<br><br>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標<br>・安定した経営基盤を確立する。<br>・機動的な小グループ(タスク・フォース)の取り組みにより経営改善を推進する。<br>・第三病院の収支構造を改善する。<br>・科学研究費補助金・経常費補助金の獲得・増加に努める。 | Ⅲ. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置<br>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標を達成するためにとるべき措置<br>①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。<br><br>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。  | 企画部<br>財務部<br><br>経理課<br><br>附属病院<br>葛飾医療センター<br>第三病院<br>柏病院                                       | ①-1大型設備投資(建設設備投資、大型医療機器)に関する中長期投資計画を策定する。<br>①-2<br>・消費収支状況の月次把握のシステム化を行う。<br>・中期計画期間中に予算実績管理体制が改善されたか評価する。<br>②-1<br>葛飾医療センター<br>・PCU機能の充実により「断らない救急」、「総合診療の強化」を実現する。<br>・手術室機能アップと効率的な術室使用により、手術室手術件数5,000件を目指す。<br>・クリパス拡大を推進し、より精度の高いDPC請求を行なう。<br>・診療部への拡大を推進し、各部門ミッション・役割の明確化、全体最適へのベクトル合わせを行う。<br>・医療連携センター機能強化により、紹介患者の集患を推進する。 |

| 中 期 目 標 | 中 期 計 画                         | 主体部署   | 平成24年度事業計画  |
|---------|---------------------------------|--|---|
|         | <p>③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。</p> | <p>第三病院<br/>柏病院<br/>附属病院<br/>葛飾医療センター<br/>第三病院<br/>柏病院<br/>研究支援課<br/>大型プロジェクト委員会<br/>教育研究助成委員会<br/>業務課（附属病院、葛飾医療センター、第三、柏）<br/>企画部</p> | <p>第三病院<br/>・救急患者受け入れ体制の更なる拡充<br/>・手術室の更なる効率的運用についての検討および術式別原価管理の継続<br/>・クリパスの拡充等によるDPCの適正化<br/>・BSCの運用による改善項目の検討実施<br/>・新規開院医療機関を含む近隣医療機関へのPR訪問の実施<br/>柏病院<br/>・診療体制の更なる安定化と充実化を図り、救急患者数及び救急搬送数の増加に繋げる。<br/>・手術部と連携し、現行のDRGシステムを分析し、効率良く運用できるようにセット部材の充実を図る。<br/>・DPCに関する情報収集・分析を行い、関連部署・診療部に情報提供を行う。<br/>・運用部署の拡大を図るとともに、組織的な評価・検証システムを構築する。<br/>・①前方連携の拡大（紹介元医療機関の拡大と紹介患者数増）<br/>②後方連携病院の開拓と関係強化（病床の有効利用）<br/>②-2 中期計画期間における各機関の経営改善状況を示し評価する。<br/>②-3<br/>・平成24年度「私立大学戦略的研究基盤支援事業」へ応募申請し、研究の活性化と研究基盤を充実する。<br/>・科学研究費補助金・経常費補助金の獲得状況の推移を示し評価する。<br/>③<br/>・診療報酬改定後、DPC請求の影響度を分析ソフトを用い、減収となる症例の改善案を提案しクリパスに連動させる等収益を確保する。<br/>・中期計画期間中に医療構造の科学的分析により医療収支の改善がなされたか評価する。</p> |

| 中 期 目 標   | 中 期 計 画   | 主体部署  | 平成24年度事業計画  |
|---|---|---|---|
| <b>2. 経費の抑制に関する目標</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・物流の効率化、一括購入により経費を抑制する。</li> <li>・各種資源の消費を削減する。</li> <li>・IT関連経費の適正化を図る。</li> </ul> | <b>2. 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br>①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。<br>②医療経費の抑制を図る。<br>③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。 | 施設課<br>管理課<br>企画部<br>施設課<br>管理課<br>企画部<br>施設課 | ①医材・物流WGを中心に医療材料の4病院共同購入および使用期限切れ防止活動を行い、各種資源の消費を削減する。<br>②<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集し診療情報評価システムを構築する。</li> <li>・医材・物流WGで医療経費をモニターし医療経費を抑制する。</li> </ul> ①②中期計画期間中の物流の改善による経費抑制を評価する。<br>③<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ委員会を開始する。夏の節電対策を行う。</li> <li>・中期計画期間中のエコ活動推進状況を評価する。</li> </ul> |
| <b>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。</li> <li>・適正な資金運用を促進する。</li> </ul>                | <b>3. 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br>①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。<br>②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。   | 施設課<br>財務部                                    | ①<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の効率的な維持管理計画を策定する。</li> <li>・長期的な施設・設備の維持管理計画を評価する。</li> </ul> ②<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・導入した資産管理システムを活用し、担当部署と協働して機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</li> <li>・長期的な機器の維持管理計画を評価する。</li> </ul>   |
| <b>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・点検・評価結果を公表し、改善につなげる。</li> </ul>  | <b>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br>①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。  | 総務課<br>大学事務部<br>医学科<br>看護学科<br>総務課<br>大学事務部   | ①-1 学校法人慈恵大学の情報公開を継続して進める。<br>①-2 平成21年度実施調査等の評価内容を踏まえ、助言・勧告等の懸案事項について委員会にて継続審議し対応する。<br>①-3 大学基準協会の新しい評価基準への対応を検討する。<br>①-4 平成21年度大学基準協会自己点検評価により指摘された事項の改善案を検討する。<br>①-5 自己点検・評価委員会による慈恵大学 事業計画の点検・評価を行う。   |
| <b>V. その他事業運営に関する重要目標</b><br><b>1. 青戸病院リニューアルに関する目標</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針・基本コンセプトに基づく新病院を開設する。</li> </ul>             | <b>V. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br><b>1. 青戸病院リニューアルに関する目標を達成するためにとるべき措置</b><br>①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。<br>②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。           | 青戸リニューアル委員会                                   | ①青戸病院リニューアル計画を完了する。<br>①②青戸病院リニューアル計画が方針・コンセプトに基づき完成されたか評価する。   |

| 中 期 目 標  | 中 期 計 画  | 主体部署  | 平成24年度事業計画   |
|--|--|---|--|
| <p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標</p> <p>・ 本院外来棟の建築</p>                                | <p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。</p> <p>②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。</p> | <p>マスター<br/>プラン検討<br/>委員会</p>   | <p>①<br/>・ 慈恵大学の将来構想と西新橋キャンパス全体の建物基本計画を策定する。<br/>・ 西新橋キャンパスの建築計画を推進する。</p> <p>②新外来棟のコンセプトに基づき建築計画を具体化する。</p> <p>①②西新橋キャンパス整備計画の中間評価を実施する。</p>  |
| <p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標</p> <p>・ 明確な長期マスタープランを策定する。</p>                   | <p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。</p>  | <p>マスター<br/>プラン検討<br/>委員会</p>   | <p>①マスタープランを西新橋キャンパス建築計画と共に教育・研究・診療機能を総合的に考慮したプランに修正する。</p>  |
| <p>4. 創立130年記念事業に関する目標</p> <p>・ 130年記念事業を実施する。<br/>・ 事業実現に必要な寄付金を確保する。</p> | <p>4. 創立130年記念事業に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①“ともに歩む慈恵”にふさわしい記念事業を実施する。</p> <p>②記念事業に必要な寄付金を募集する。</p>                             | <p>生涯学習<br/>センター</p> <p>130年記<br/>念事業委<br/>員会</p>   | <p>①生涯学習のための月例および夏季セミナーを継続して開催する。</p> <p>②企業、同窓会、父兄会等に対し継続して募金を呼びかけ、寄付金を確保する。</p> <p>①②中期計画期間中の130年記念事業活動を評価する。</p>  |
| <p>5. 大規模災害時の対応に関する目標</p> <p>・ 大規模災害発生時の体制を構築する。</p>                       | <p>5. 大規模災害時の対応に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①大規模災害時の体制を強化する。</p> <p>②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。</p> <p>③被災地への支援体制を構築する。</p>            | <p>総務課</p> <p>総務課<br/>栄養部<br/>薬剤部<br/>施設課<br/>臨床工学部</p> <p>人事課</p> <p>施設課<br/>システム課</p> <p>管理課<br/>総務課<br/>(災害対策<br/>本部)</p> <p>総務課</p> | <p>①-1大規模災害を想定した訓練の内容等を検証、改善し大規模災害発生時の新たな体制を構築する。</p> <p>①-2<br/>・ 備蓄食品、備品、行動に関するマニュアルを見直す。<br/>・ 日常在庫量、収納場所を検証し災害時の薬品全般の在庫確保と供給体制を改善する。<br/>・ 大規模災害発生時の供給体制をメーカー毎にリストアップし供給体制を検討する。<br/>・ 生命維持管理装置等の医療機器の耐震対策を行う。</p> <p>①-3 職員の出勤困難時の参集体制を整備する。</p> <p>②<br/>・ 本院 救急医療体制の維持可能なシステム環境の整備計画を立案する。<br/>・ 大規模災害に対する建物・施設の整備を計画的に行う。</p> <p>③大規模災害発生時の医療支援体制を整備など、社会貢献を含めた被災地への支援体制を構築する。</p> <p>①②③BCP（事業継続計画）について検討し策定する。</p> |